

五 国定税率および裁厘課税問題

452 昭和6年1月2日

幣原外務大臣より
太田（政弘）関東長官宛（電報）

大連税関の新国定税率実施期日告示に関する

諸方訓令

本省 1月2日後8時50分発

貴電第七四号ニ閲シ
第二號（暗、至急）

廿九日新税率發表前後迄中國官辺ヨリ我出先官憲ニ内報アリタル実施期日ハ何レモ二月一日ト云フニ一致シオリタルニ不拘其ノ後急ニ変更ヲ見タルハ主トシテ釐金撤廢ト關係アルモノ、如シ即チ國民政府ハ客年末來萬難ヲ排シテ一月一日ヨリ裁釐ヲ決行スルノ強固ナル意図ヲ屢々表明シタル爲右ハ少クトモ支那本部ノ大部分ニ亘リ實行セラル、模様ナルガ（從来右實行延期等ニ付テハ廣東、湖北、河北、山東等ノ諸省ヨリ中央ニ對シ相當強硬ナル申入ヲナシオリタル處其後山東以外ノ前記三省ノ如キモ中央ノ意図ニ從ヒ愈々

453 昭和6年1月6日

在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

張學良が東三省、河北、山西、熱河、察哈爾

各省の裁厘に關し通電について

天津 1月6日前發
本省 1月6日後着

第五號

張學良ハ一日附ヲ以テ釐金ハ直接臣民ノ負擔ヲ多クシ間接ニハ商工業ノ發展ヲ阻害スル惡稅ノ尤タルモノニシテ民政ノ爲又對外的關係上速ニ撤廢スヘキモノナリ今ヤ中央政府ハ國家永遠ノ計ヲ圖リ毅然トシテ裁釐ヲ斷行ス全國ノ官吏ハ須ク一體ニ遵奉スヘシ北支那各省ハ夙ニ釐金ノ名稱ナキモ其ノ性質上釐金類似ノ通過稅鮮カラス就テハ北支七省即チ東三省河北山西熱河察哈爾ハ一月一日ヨリ一律ニ之ヲ撤廢シ今（後）各省ノ稅率ハ各財政部ノ頒布セル條例ニ依リ辦理スルヲ要ストノ通電ヲ發セリ

奉天ヨリ在滿各館へ然ルヘク轉報アリタシ

代理公使、上海、北平、奉天、南京、張家口へ轉電セリ

~~~~~

454 昭和6年1月6日

在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

東北では出產稅、鎖場稅を厘金と認め取計う

奉天 1月6日後發  
本省 1月7日後着

第三號

東北當局ハ新税率ノ實施ニ伴フ裁釐ニ關シ未タ何等手段ヲ講シ居ラス右ハ東北ニ釐金ト稱スル課稅ナキニ依ルモノナルヤニモ察セラルモ元來出產稅及鎖場稅ハ釐金ノ性質ヲ有シ居ルコト明カナルヲ以テ當方トシテ今後折衝ノ要アル場合ニハ之ヲ釐金ト認メ取計フヘキモノト思考シ居ル處右ニ對スル御意向爲念至急御回電相成度シ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

公使、北平、南京へ轉電シ在滿洲各領事へ暗送セリ

編注 本電報に対し一月九日午後6時40分發電報第二号で

幣原外務大臣は在奉天林總領事に「貴見ノ通」と承認している。

常關の廢止は新稅則の實施および銀価暴落の影響を眺めた上で決定等の宋子文談話について

天津 1月11日後発  
本省 1月11日後着

裁釐關係ノ諸問題ニ付十一日宋子文ノ本官ヘノ談大要左ノ第一三號

通

一、常關ニ於ケル奥地向ヶ輸入貨物ニ對スル徵稅ハ自分ノ建議ニ依リ廢止ヲ見タル次第ニテ（往電第二二號參照）

五十里内ノ常關其ノモノモ廢止ノ方針ナルカ新稅則ノ實施及銀價暴落ニ依リ一般ニ輸出入激減シタル模様ナルヲ以テ今少シク關稅收入ノ成績ヲ見タル上ナラテハ急ニ廢止スルコト不都合ニ付其ノ時期ニ付未タ見立タス

二、裁釐ニ依ル中央若ハ地方ノ減收ヲ填補スル爲實施スヘキ統稅ハ五種ニシテ全國一律ニ施行スヘク既ニ實施中ナル煙草麥粉ノ外「セメント」綿紗燐寸ニ付テハ出廠

ノ際徵稅スル方針ニテ辦法考慮中ナリ

三、尙特殊消費稅十九種ト云フモ右ハ徵稅シ得ヘキ性質ノ

貨物ヲ列舉シタルニ止リ實際ニハ各省ニ於テ大宗貨物

四五種ニ對シ課稅セシメ度キ考ナリ

四、右兩稅ハ棟續ノ性質ヲ有シ中央收入ニ歸シ差當リ財稅セハ全國ヲ通シ二重課稅ヲ爲ササルコト勿論ナリ

五、過去ニ於ケル釐金局員ノ腐敗ニ鑑ミ右兩稅局員ハ主トシテ比較的訓練ヲ經タル中國人海關吏ヲ用ヒ服務待遇保障（恩給制度ヲ含ム）等總テ海關制度ニ倣ヒ制定シ從來ノ如ク地位ノ保障ヲ缺ク爲在任中私利ヲ計リ苛斂誅求ヲ爲シタル弊害ヲ除去シ度キ意図ナリ

六、之ヲ納付セサレハ海關ニ於テ輸入品ノ引渡シヲ爲サシメサル制度ニテ之ニ對シ外國側ヨリ抗議アル由ナル處徵收ヲ確保スル爲ニハ已ムヲ得サル手段ト考フ（其ノ口吻ヨリ察スルニ將來輸入品ニ對スル特稅及消費稅ノ徵收モ麥粉同様ノ制度ト爲スニ非スヤト察セラル）尙本日ノ新聞ニ「セメント」燐寸統稅ノ賦課ニ對シ日本政府ヨリ免稅方要求スヘキ旨ノ記事アル處（十日附聯

支、北平、南京、奉天、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

七、地方收入タル營業稅及牙稅ノ徵收ニ付テハ追テ各省財政關係者ノ會議ヲ開キ成ルヘク全國的ニ統一シ度キ考ヘナリ

八、東北ニ於ケル裁釐ニ付テハ學良決心堅キヲ以テ案外早ク實現スルモノト思考ス

九、裁釐ノ損失填補ノ爲政府ニ於テハ煙草若ハ阿片ノ專賣ヲ爲斯考ヘ無シ尤モ阿片ノ密輸ヲ防遏スル爲上海ノミヲ輸入港ニ指定シ中央取締機關ヲ設クル案アルモ右ハ所謂專賣ニハ非ス

尙今（次）ノ北上ハ河北省裁釐善後問題ニ關シ協商スル爲ニシテ山西西北軍善後財政問題ニハ全然關係無ク又捲煙稅擔保ノ六千萬元債券ノ發行ハ一般ノ編遣軍隊及中央ニ投降シタル第二集團軍ノ費用ニ充當セラレ裁釐ニ依ル損失填補若ハ山西金融公債二千萬元ノ復活ニ用ヒラルコト無カルヘキ旨ヲ語レリ宋ハ兩三日中ニ南京ニ直行スル由公使ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

營業稅の賦課は條約違反であり承認し難いと

何主席に回答方長沙領事宛訓令

昭和6年1月12日

在漢口坂根（準三）總領事宛（電報）

本省 1月12日後6時15分発

長沙へ轉電アリタシ

第一號

客年貴電第一一二號ニ關シ

釐金撤廢ニ依リ生ジタル財源ノ欠乏補填策トシテ國民政府ノ賦課計劃中ノ三種新稅ニ関スル我方ノ方針ニ付テハ客年本大臣發在支代理公使宛電報公第四六一號及公第四七六號ニ依リ御承知ノ通リニシテ本件營業稅ノ賦課ハ條約違反ナルガ故ニ我方トシテ之ヲ承認シ難シ就テハ貴官ハ何主席ニ對シ中國在留邦人ハ從來此種課稅ニ服シ居ラザルヲ以テ今次ノ營業稅ニ付テモ之ガ納稅ノ限りニ非ザル旨簡單ニ回答

シ置カレ度シ

代理公使、北平、南京へ轉電シ代理公使ヨリ上海へ轉報セ  
リ

~~~~~

457 昭和6年1月29日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

張福運に対し裁厘の模様および各種新税の進
捲程度を確認について

上 海 1月29日後発
本 省 1月30日後着

貴電第三一號ニ關シ

二十日堀内ヲシテ張福運ニ對シ客年往電公第一二六六號ノ

三ノ趣旨ヲ繰返シ説明シテ釐金廢止ノ模様及各種新税ノ進
捲程度ヲ確カメシメタル處張ハ釐金廢止ハ今迄ノ處好結果

ヲ收メ居リ統稅及營業稅ニ付テハ往電第七七號及從來新聞

ニ現ハレタル以外詳シキコトハ知ラス特別消費稅ニ付テハ
目下主トシテ徵稅機關ノ組織ニ付攻究中ナルカ容易ニ進捲

セスト述ヘタルニ付堀内ヨリ右機關ハ從來ノ釐金局ノ如キ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

モノヲ利用スレハ消費稅ハ釐金ト同様ノ弊害ヲ伴フヘク又  
徵收方法特ニ徵稅ノ場所乃至二重課稅防止ノ方法如何ニ依  
リテハ同様ノ弊害ヲ伴フニ至ルヘント述ヘタルニ張ハ新稅  
徵收ニハ從來ノ釐金局及局員ハ全然之ヲ使用セス稅務員ハ  
海關員ヨリモ採用シ地位ノ保障ヲ與フルコトトナルヘシト  
說明セリ又工場製品ハ工場、其ノ他ノモノハ倉庫等ニ於テ  
徵稅シ全國何處ニ至ルモ二重ニ課稅セラレサル様有效ナル  
方法ヲ攻究中ニシテ要スルニ新稅ヲ釐金ト同様ノ弊害ニ陷  
ラシメサル様充分ノ準備ヲ爲シ居リ萬一商人ニ不便アル場  
合ニハ自分カ責任者ナル以上充分ノ措置ヲ講スル積リナリ  
ト述ヘ居リタル趣ナリ

北平、奉天、天津、青島、濟南、廣東へ轉電シ南京、上海  
ヘ轉報セリ

458 昭和6年1月30日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

マッチ、セメントについても綿糸同様の統稅  
受入交渉につき回示方請訓

議ヲ提出スルハ從來本件ニ關スル彼我双方ノ接觸ノ實際ト  
著シク掛け離ルモノト認メラルニ付此ノ際ハ右(一)ノ方  
針ニ依リ暫ク事態ノ發展ヲ見タル上必要ノ場合適當ノ措置

ヲ講スルコト致シタシ

右ニ關シ何分ノ儀折返シ御回示ヲ請フ

北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電シ上海、  
南京へ轉報セリ

~~~~~

459 昭和6年1月31日 在中国重光臨時代理公使宛（電報）
幣原外務大臣より

統稅および特殊消費稅導入に対する我が方対

応策定のため列国の対応查報方訓令

本 省 1月31日後10時30分発

第三七號（暗、至急）

國民政府カ裁釐後ノ財源補填策トシテ実施セントスル新稅
中營業稅ニ對スル我方ノ態度ハ漢口宛往電第二號ノ通リナ
ルガ貨物稅タル統稅及特殊消費稅ニ關シテハ客年往電公第
四七六號申進ノ趣旨ニ依リ貴官ニ於テ折角御交渉中ニ屬ス
ルトコロ右貨物稅ガ在中國外人企業製品及外國輸入品ニ對
ラシムルモノトモ思ハレサルノミナラス右ノ如キ形式的抗

シ賦課セラルゝ場合我方トシテ如何ナル措置ニ出ツベキヤ
從来ノ條約關係ニ照シ其仮之ヲ承認シ難キハ勿論ナルモ実
際問題トシテハ中國人トノ差別待遇ヲ排除スル限り在中國

邦人企業ハ已ムヲ得サル場合之力納税ニ應スルコトニ依リ
差シテ難問ヲ生スルコトナカルベキモ本邦ヨリノ輸入品ニ

関シテハ綿糸消費税ノミヲ承認シ居ル我國トシテ相当考量
ヲ要スルモノアリ即チ右新税賦課ノ場合本邦人ハ輸入税以
外ニ於テ釐金乃至抵代税制度存置ノ當時ニ比シ一層重キ負

担ヲ課セラルヘシトノ非難既ニ存スルノミナラズ統税及特
種消費税ガ我力重要輸出品ニ課セラレ其税率モ高率ナルニ
於テハ我貿易上ニモ相当ノ影響アルヘク旁々出来得レハ早
キニ及デ本問題ノ解決ヲ計リ度キ所存ナルトコロ右ニ就テ
ハ此際關係列国ノ態度モ一應大体承知シ置キ度キニ付キ各
国ハ前記新税ト從來ノ條約關係（一千九百二十八年關稅條約
ヲ含ム）トヲ如何ニ解シ居ルヤ又條約關係ト离レ之等新税
ヲ其眞認スルノ態度ニ出ソトスルヤ至急御確ノ上回電ア
リ度シ

北平、南京ニ轉電セリ

460 昭和6年2月1日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

河北省における特殊消費税の徵収差止を中央

政府に申し入れ方意見具申

天津 2月1日後発
本省 2月1日後着

第三九號

代理公使發閣下宛電報第八二號及第九一號ニ關シ

中央ニ於テハ特別消費税ノ問題ハ未タ考究中ニテ容易ニ進
捲セサル模様ナル處河北省ニ於テハ釐金撤廢ト同時ニ豆類
棉花乾果毛皮等ニ對シ特殊消費税ヲ舊來ノ統税率ニ依リ徵
收シ居レルコトハ屢々電報ノ通ニシテ目下商賣手控ヘノ爲
其ノ影響ニ付確力ナル計算ヲ爲スヘキ材料不充分ナルモ釐
金撤廢前三聯單力有效ニ使用セラレタル當時ニ比較セハ常
關稅消費税ヲ納付スルヲ要スル輸出品ハ五割乃至數倍ノ負
擔增加トナルモノト認メラレ獨リ河北省ノミカ卒先シ斯ル
徵稅ヲ實行シツツアルハ甚タ公平ヲ缺ク次第ナルヲ以テ或
ハ當然抗議ヲ提起シ差支ナキ筋合トモ存スル處外國側ノ態
度モ判明セス又地方的ニ單獨抗議ヲ爲ストモ却テ徒ニ貿易

ヲ阻碍スルノミニテ恐ラク實效果ヲ收ムルコト困難ナルヘ
シト思料セラル就テハ全國一率ニ消費税ノ實施ヲ見ル迄ハ
河北省ニ於ケル實行ヲ差止ムル様中央政府ノ反省ヲ促スコ
ト穩當ニシテ必要ナル手續ニ非スマト存セラルニ付思付
キノ儘御参考迄

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、奉天、青島、濟南、南京、漢口、廣東へ轉電セ
リ

物ニ付テハ暫行的ニ抵代税制度ヲ利用セシムル等何等カノ
緩和方御交渉アリタシ

上海へ轉報アリタシ

北平、天津、南京へ轉電セリ

461 昭和6年2月3日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

河北省における抵代税制度利用交渉方訓令

天津發本大臣宛電報第三九號ニ關シ
從來抵代税制度ノ最モ多ク利用セラレタル天津方面ノ狀況
前記來電ノ通トセバ右ハ客年貴電公第一二六六號商人ニ不
便アラハ何等便法ヲ講スヘキ旨ノ張福運ノ約言ヲ利用スヘ
キ適例ト認ムルニ付右天津來電後段ノ趣旨ニ依リ輸出入貨

462 昭和6年2月(3)日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

厘金廢止に伴なう新税に対し英、米各總領事
は默認の外なき旨並びに仏總領事は抗議をな
す余地ありとの意見について

第一〇四號

貴電第三七號ニ關シ

二日領事館員ヲンテ英、米、佛各總領事ニ付問合シメタル
處何レモ餘り事態ヲ緊要ト認メ居ラヌ特ニ英、米共大體徵
稅力國內一般ニ行ハレ且内外人間ニ差別ヲ設ケサル限り之
ヲ默認スルノ外ナカルヘク假ニ外國側ニテ消費稅等ヲ拒否
スルモ中國側ハ關稅自主權ヲ有スル關係上恣ニ輸入稅ノ引

本省 2月3日後7時5分發

第四二號（暗）

昭和6年2月3日 在中国重光臨時代理公使宛（電報）

天津發本大臣宛電報第三九號ニ關シ

從來抵代税制度ノ最モ多ク利用セラレタル天津方面ノ狀況
前記來電ノ通トセバ右ハ客年貴電公第一二六六號商人ニ不
便アラハ何等便法ヲ講スヘキ旨ノ張福運ノ約言ヲ利用スヘ
キ適例ト認ムルニ付右天津來電後段ノ趣旨ニ依リ輸出入貨

上ヲ爲ス事ヲ得ヘキニ依リ結局外國側トシテハ如何トモス
ル能ハサルヘシテ極メテ微溫的意見ヲ述ヘタルカ只佛國
ハ未タ深ク研究シ居ラサル次第ナルモ本件新稅ニ對シ抗議
ヲ爲ス餘地モアルヘシトノ意見ヲ洩シ居タル趣ナリ

北平、南京へ轉報セリ

上海へ轉報セリ

北平、南京へ轉電セリ

上海へ轉報セリ

463 昭和6年2月7日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛

戻税制度廃止方に関する海關告示につき報告
(2月12日接受)

機密第六九號 昭和六年二月七日

在安東

領事 米澤 菊二〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

戻税制度廃止方ニ關スル海關告示ニ付報告ノ件

當地中國海關ハ總稅務司經由中央政府ノ訓令ニ基キ中國輸入外國貨物ニ對スル現行再輸移出戻稅制度ノ四月一日限り(欄外記入)
廢止方ニ關シ本月三日附ヲ以テ別紙告示第四六六號寫ノ通

リ佈告シタリ右ハ條約ノ明文ニ違背スルハ勿論國境開港市タル當地トシテハ其ノ影響不尠ルヲ以て此ノ點關係ノ向ニ就キ詳細調査中ナルモ不取敢右報告申進ス

本信寫送附先 公使、北平、南京、奉天、關東長官、朝鮮總督、平安北道知事、

(欄外記入)

回案作成ノ事

戻税ニ付中國側ノ自主権アルヲ了知セサルモノ

464 昭和6年2月12日 在中國重光臨時代理公使宛(電報)

綿糸以外の輸入品に対し日中關稅協定との関係もあり補償稅を課せざるよう交渉方訓令

第五七號(暗、至急) 本省 2月12日後7時50分発

貴電第一〇〇號ニ關シ

國民政府力一大決意ヲ以テ釐金ノ撤廢ヲ各省ニ通令セシメタルニ拘ハラス今尚釐金ヲ存置シ或ハ之力名称ヲ変更シタ

ルニ止マル地方アリ補償稅ノ實行亦必スシモ中央ノ意図ノ如クナラサルモノアルガ如シ右ハ同政府ガ裁釐ノ準備成ラザル間ニ之ガ實行ヲ命ジタル外中央ノ威令地方ニ及バザル所アルニモ因ル次第ナルガ國民政府ハ既ニ抵代稅ノ廢止ヲ實施シテ對外的ニモ裁釐ノ建前ニテ進ミツ、アル次第二モアリ日華經濟關係ノ密接ニ鑑ミルモ將又既往ニ於テ列國力釐金ノ廢止ノ爲ニ拂ヒタル努力ニ顧ミルモ裁釐後ニ於ケル今日ノ如キ曖昧ナル事態ヲ此儘傍観默認スルニ於テハ今后ニ於ケル我當業者ノ不利不安ハ云フニ及バズ殊ニ將來若シ再ビ既往ノ動乱ヲ繰返スガ如キコト、モナラバ本問題ハ事熱意ナキカ如クナル關係モアリ大勢ハ此際我方ノミ條約上ノ権利ヲ盾ニ本件課稅ニ反対スルモ実効ヲ挙クルコトハ困難ナルヘク結局ハ在中国邦人企業ニ付其ノ採算ヲ妨ケサル程度ノ稅率ニ折合ハシムルノ外ナキ次第ナルモ此カ爲從來既ニ或程度適無理ヲ押通シ來レル中國側ノ措置ヲ益々助長スルコト、ナルハ今後ノ為ニモ我方ノ立場上面白カラズ特

ニ往年ノ差等稅率承認以來中國側ヲシテ合法的措置ニ依リ佈告シタリ右ハ條約ノ明文ニ違背スルハ勿論國境開港市タル當地トシテハ其ノ影響不尠ルヲ以て此ノ點關係ノ向ニ就キ詳細調査中ナルモ不取敢右報告申進ス

上海ニ轉報アリタシ

北平、南京、在支各總領事(成都ヲ除ク)ニ轉電セリ

465 昭和6年2月21日 勅原外務大臣より
在安東米澤領事宛

中国側関税自主権を承認しているため戻税廃止には抗議の余地なきについて

通一機密第九號

外務大臣 勅原 喜重郎

在安東 領事 米澤 菊二殿

戻税制度廃止方ニ関スル件

本年二月七日附機密第六九号貴信ニ閑シ現行戻税制度ハ日支通商航海條約第十三條ノ規定ニ基クモノト思考スル処右規定ハ昨年五月調印ノ日支関税協定第一條ニ依リ改変セラレ我方ハ戻税ニ關シ中國ノ自主権ヲ承認シタルヲ以テ中國側カ本制度ヲ廃止スルモノ我方トシテハ抗議ノ餘地ナキ次第ナルニ付右様御承知相成度為念右申進ス

写送付先 代理公使、北平、南京、奉天、関東長官、朝鮮總督

避ケム爲外商ニ對シテハ各國領事ヨリ派員シ本調査ニ立會ハシメラレ度シトテ營業、狀況調査通告書及營業狀況申報書（資本及最近三ヶ年間ノ營業實計數ヲ主要事項トス）ヲ添へ至急回答アリ度旨照會越セリ

二、依テ廿六日英米獨領事當館ニ參集協議シ本官ハ中國側ノ照會文ニハ營業稅則等添付無キ爲其ノ内容判明セサルモ本稅ハ曩ニ長沙ニ於テ中國側ヨリ申出ノ際同地日本領事ハ政府ノ電訓ニ依リ納稅ノ限りニ非スト回答セシ次第及本稅ハ目下代理公使ト中央政府間ニ交渉中ナルニ付本官ニ於テハ同意シ難キ處ナルカ中國側ノ申出ニ付テハ政府ニ報告請訓スル考ナリト述ヘタル處

英國領事ハ公正確實ニシテ差別的待遇無キ課稅ニ對シテハ

拒否セサルヘキ概括的ノ訓令ヲ受ケ居ルニ付本稅實施力該訓令ノ趣旨ニ反セサルニ於テハ納稅スルノ外無カルヘク又之ヲ斷然拒絕セムカ種々紛擾ヲ惹起シ貿易ヲ阻害スルニ至ルヘク其ノ紛擾ヲ阻止スル有效ナル方法無キ限り拒絕ノ目的ヲ達シ難シト認メラルカ本調査ノ程度ハ帳簿類ノ調査ニ及フヘキヤ不明ナルモ斯ル調査ハ自分限リニ於テ行ヒ難キ處ナルニ付一應公使ニ請訓スヘシト述

466 昭和6年2月28日 勅原外務大臣宛（電報）
在濟南西田總領事より

山東省では營業稅を内外商區別無く課稅の意向並び同稅に対する英米獨各領事の態度について

濟南 2月28日後発 本省 2月28日後着

第三五號 山東省營業稅ニ關シテハ屢次報告ノ通ナル處

一、本月十四日本官王財政廳長ト會見ノ際王ハ本稅準備狀況ニ言及シ本稅ハ財政部ノ電訓ニ依リ外商ニモ課稅スヘキ意嚮ヲ語リタルニ付本官ハ閣下發代理公使宛電報第五七號及漢口宛電報第二號ノ趣旨ヲ述ヘ邦人側ニ對スル課稅ハ同意シ難キ次第ヲ話シタルニ王ハ本稅ハ中央ノ命ニ依リ全國一律ニ内外商人ニ實施スルモノニシテ輕率ナルニ付納稅アリ度シト述ヘ居リシカ

次テ廿一日濟南市外事科長ケイランデンヨリ本官宛ニテ今回省政府ハ中央財政部ヨリ内外商人ニ本稅實施方電訓ニ接セル處右實施ニハ營業狀態ヲ調査セサルヘカラサルモ内外商ノ多クハ本稅ノ真相ヲ承知セサルニ依リ調査ノ際誤解ヲ問合セタル上公使ニ請訓スヘシト語リ

更ニ獨逸領事ハ領事裁判權無キ關係上本稅力公正ニシテ差別的待遇無キ限り納稅ノ外無カルヘキモ其ノ調查方法等ニ付テハ在留獨商トモ協議シ公使ニ請訓スヘシト述ヘタリ結局英米兩領事ハ本件調査立會ノ諾否ヲ「コンミット」スルコト無ク一應營業稅規則ヲ確メタル後夫々公使ニ請訓スルコトナリタルカ本官ハ邦人ニ對スル本件課稅ハ承認シ難キニ付右規則ヲ問合スコトハ本件ヲ「コンミット」スル慊アルニ依リ中國側申出ヲ本國政府ニ請訓スルコトニ致スヘシト述ヘ置ケリ

三、翻テ邦商力飽ク迄納稅ヲ拒絕スル場合ヲ考フルニ中國側ハ種々邦商ヲ壓迫シ紛擾ヲ來スヘク其ノ結果ニ納稅スルモノ發生スル等結局納稅默認ノ外無キニ至リ本稅拒絕ノ意義ヲ失スルヤモ計リ難ク將又當地ノ如キ特殊ノ事情アル地方ニテ他國商人ニシテ一律ニ納稅スル場合獨リ邦商ノミ飽ク迄拒絕シ對日感情ヲ悪化セシムルモ如何ト思考セラルニ付公使及長沙宛御訓令ノ趣旨ニ基クト同時ニ中國側ヲ

シテ誤解セシメサル様然ルヘキ機會ニ不取敢「御照會ノ件ハ一應本國政府ニ報告請訓スヘキモ營業稅ニ付テハ在留邦ハ從來此ノ種課稅ニ服シ居ラサルヲ以テ之カ納付ノ限りニ非サル」趣旨ニテ簡単ニ回答スヘキコト然ルヘキヤニ思考スルニ付右ニ關シ何分ノ儀御電訓ヲ請フ委細公信
公使ヨリ上海ニ轉報アリタシ

支、北平、青島、南京へ轉電シ天津、漢口、芝罘、張店、博山、坊子へ暗送セリ

467 昭和6年3月12日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

河北省での消費稅徵収は從来の厘金と変化な
く徵稅停止等交渉方公使宛意見具申

天津 3月12日後発
本省 3月12日後着

第七六號

本官發在支公使宛電報

第六七號

當地消費稅問題ニ付テハ貴官發大臣宛電報第一〇二號及第

ハ目下南京ニ滯在中ナリ
上海へ轉報アリ度シ

大臣、北平、奉天、南京へ轉電セリ

468 昭和6年3月24日 在漢口坂根總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

湖北省營業稅に対する日本側の反応方について

漢口 3月24日後発
本省 3月24日後着

第二三六號

湖北省營業稅反對ニ關シ省市兩政府ハ少クモ武漢地方ニ關スル限り四月一日ヨリ（本年一月一日ニ遡リ）實施ノ方針ナリト聲明シ新聞等ヲ利用シ盛ニ之ヲ宣傳シ居ル一方商民側ノ了解ヲ得ル爲官民合同ノ營業稅促進會ナルモノヲ組織シ課稅率其他ニ關シ妥協的ニ研究ヲ加ヘシメ居ル次第ハ隨時電報ノ通ナル處更ニ右促進會ノ中堅タル商務會側ハ本稅ト相前後シテ地方的ニ問題トナレル銀行借款及勦匪經費ノ借款等ノ爲一時的乍ラ商民側ノ負擔加重セル際トテ營業稅ニ關シテハ成ルヘク實施期ヲ引延サントスル意圖アリテ促進會トシテハ官憲側ノ期待ニ拘ラス其事業遲々トシテ進マサル實情ニシテ之ニ伴ヒ營業申告ノ如キ將又外國商ニ對スル交渉ノ如キ單ニ掛聲ノミニシテ兎角有リ勝チノ壓迫的事件ノ如キ未タ之ヲ見ルニ至リ居ラス事實甚タ微溫的ナルヲ

(¹) 第二三六號
湖北省營業稅反對ニ關シ省市兩政府ハ少クモ武漢地方ニ關スル限り四月一日ヨリ（本年一月一日ニ遡リ）實施ノ方針ナリト聲明シ新聞等ヲ利用シ盛ニ之ヲ宣傳シ居ル一方商民側ノ了解ヲ得ル爲官民合同ノ營業稅促進會ナルモノヲ組織シ課稅率其他ニ關シ妥協的ニ研究ヲ加ヘシメ居ル次第ハ隨時電報ノ通ナル處更ニ右促進會ノ中堅タル商務會側ハ本稅ト相前後シテ地方的ニ問題トナレル銀行借款及勦匪經費ノ借款等ノ爲一時的乍ラ商民側ノ負擔加重セル際トテ營業稅ニ關シテハ成ルヘク實施期ヲ引延サントスル意圖アリテ促進會トシテハ官憲側ノ期待ニ拘ラス其事業遲々トシテ進マサル實情ニシテ之ニ伴ヒ營業申告ノ如キ將又外國商ニ對スル交渉ノ如キ單ニ掛聲ノミニシテ兎角有リ勝チノ壓迫的事件ノ如キ未タ之ヲ見ルニ至リ居ラス事實甚タ微溫的ナルヲ

(²) 第二三六號
次第モアリ今後中央ニ於テ何等力決定ヲ見ル場合ハ別トシ少クトモ現狀ニ於テハ斷然之ヲ拒絕スヘキコト勿論ナルモ此方針ヲ飽迄固持スルコトハ從來印花稅等ノ經緯ニモ顧ミ地方的ニ種々實際問題ヲ生シ相當困難ノ伴フヘキコトハ今ヨリ充分覺悟シ置カサルヘカラス一方ニ付テハ既ニ印花稅問題ノ場合ニ我方ニ於テハ民國側ノ帳簿検査等ノ場合強制ニ亘ラサル程度ヲ條件トシ共助ヲ與ヘタル先例モアリ尙租界居住民國人中營業者ハ極メテ少數且小規模ノモノノミナルヲ以テ理論ハ兎モ角トシ結局ハ斯ル民國人ノ利益ニ過ギサル問題ノ爲民國側ノ申出ヲ飽迄拒絶スルハサラテタニ租界回収ノ聲高キ此際トテ甚タ不

得策ト認メラレ現ニ我方ニ比シ著シク多數ノ民國人營業者ヲ有スル佛國側ニ於テモ同國領事ノ如キ本稅ハ印花稅

ト同様租界内民國人ニ實施ニ關シ協力ヲ與ヘサルヲ得サルニ至ルヘキ旨本官ニ語レルコトアル次第ナルヲ以テ旁

我方ニ於テモ今後民國側ノ出様如何ニ依リテハ租界内民國人ニ之ヲ實施スルコトニハ適當協力ヲ與フルコトトシ相當好意ヲ示ス一方邦人ニ對シテハ差當リ極力之ヲ拒絕スルノ態度ヲ執リ旁將來起ルヘキ實際問題ノ地方的交渉ニ便スルコト此際得策ナルヤニ考ヘラルニ付右豫メ御含置ノ上何分ノ御異見アラハ御回示相仰度シ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、南京、天津へ轉電セリ

469 昭和6年3月26日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

漢口における營業稅取扱い方決定に際しては
天津に及ぼすべき影響をも配慮方意見具申

天津 3月26日後発
本省 3月26日後着

兩汽船等ナリ

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、北平、南京、漢口へ轉電セリ

470 昭和6年4月1日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

EC制度導入をせずして戻税廢止には反対なる旨張福運に申し入れについて

南京 4月1日後発
本省 4月2日前着

第三五〇號
往電第三四五號ニ關シ

一日堀内ラシテ張福運ニ申入シメタル結果左ノ通

一、堀内ヨリ其後ノ成行ヲ尋ネタル處張ハIGニ於テハ大連向再輸出ニ對シEC制度ヲ許スコトハ技術上異存ナシトノ意見ナルモ實ハ香港ニ對シECヲ適用スル協定案力裏ニ中國政府ノ承認ヲ得ルニ至ラサリシ事情ニ鑑

ミ大連ニノミ之ヲ許シ難シトノ理由ニ依リ本件ECヲ認メサルコトニ決定セリト述ヘ（右ノ趣旨ヲ認メタル

第九六號

漢口發閣下宛電報第二二六號ニ關シ

當地民團ニ於テハ租界内居住中國人ニ對シ營業課金（年一万三千弗）及工巡費（年六万弗ノ内約半額ハ營業課金ニ該

當スルモノト認メラル）合計四万弗見當ヲ課シ居ルヲ以テ

早晚中國側ニ於テ營業稅ヲ課スル場合ニ於テ冒頭往電ノ如ク何等カノ形式ニテ之ヲ租界内中國人ニ適用アルコトヲ認

メ共助スルコトナラハ中國人ハ二重ノ負擔ヲ受クルコト

トナルヘク去リトテ右負擔輕減ノ爲我方課金ヲ免除シ若ハ

右免除ノ上他ノ課金例へハ土地家屋課金ノ増徵ヲ以テ民團

ノ收入減ヲ填補スルコトハ民團目下ノ財政及當地ノ經濟狀

況ヨリ考へ頗ル困難ナル事情アリ依テ屬地的ニ租界内中國

人ニ對スル營業稅ノ適用ヲ拒否スルト共ニ屬人的ニ租界外

本邦人ニ對スル營業稅ヲモ拒絶シ得ルコトトナラハ万事好

都合ナルモ右ハ理論上無理アリ此ノ邊ノ利害ノ調和ニ付テ

ハ慎重考慮ヲ要スル次第ト存セラルニ付漢口ニ於ケル取

扱方決定ニ際シテハ之力當地ニ及ホスヘキ影響ヲモ充分御

研究相成様致度ク因ニ英佛伊租界工部局ニ於テハ營業課金

ノ制度ナシ尙租界外ニ於ケル本邦人主要營業者ハ大連日清

三十一日附堀内宛書類寫ヲ示シタルニ對シ堀内ヨリ

中國側カ前記香港協定ヲ認メサル理由ハ必スシモEC

ニ反對ナルカ故ニアラサルヤニ承知シ居リ又香港ト大

連トハ色々ノ點ニ於テ地位ヲ異ニシ大連ニ於テハ特ニ

中國稅關ノ設置ヲ認メ居ル次第ナレハ之ニ對スル再輸

出ハ單ニ外國港タル香港ニ對スルモノニ比シ特典ヲ認

メ差支ナキヤニ考ヘラルト述ヘ大連ニ於ケル輸出入貨

物ノ統計ヲ示シEC制度適用ナキ場合大連貿易ノ蒙ム

ルヘキ損失ノ大ナルコトヲ説明シテ再考方ヲ依頼セル

處

二、張ハ實ハ前記協定ハ香港ニ中國稅關出張所設置ヲ認ム

ルモノニシテ香港ハ大連ト同様ノ地位トナルモノナリ

又大連再輸入貨物ノ大部分ハ日本以外ノ外國品ナルヘ

ク日本商人ノ蒙ムル損害ハ左程多カラサルヘシト述ヘ

タルニ付堀内ヨリ或ハ其通ナルヘキモ大連商人ハ戻稅

制度廢止セラレECヲ許サレサルニ於テハ大連向再輸

出品ハ二重課稅ニ依リ他ノ港ニ比シ不利益ナル待遇ヲ

受ケ其商買ハ牛莊安東ニ奪ハルヘシト考ヘ關東廳ニ對

シ戻稅制度ノ廢止ヲ認ムル場合ニハECヲ適用スル様

請願シ居リ其希望力容レラレストセハ大連ニ於ケル戻
稅制度ノ廢止ヲ認ムルヤ否ヤハ内政上ノ問題トナルヘ
クスル場合ニハ本件ニ關聯シテ大連稅關ニ於テ望マシ
カラサル紛糾ヲ起スコトトナル虞アリ斯クノ如キコト
ヲ御互ニ避ケ度キニ付前記ノ次第宋部長ニ報告シテ E
Cノ發給ヲ認メラル様斡旋ヲ願ヒ度シト述ヘタルニ
張ハ右ノ次第ハ直ニ部長ニ報告シテ其決裁ヲ請フヘン
ト答ヘタリ

尙本件ニ關シ一日本官ヨリモ宋子文ニ申入レ其考量ヲ促シ
タルニ張署長ト協議スヘキ旨ヲ述ヘタリ
關東廳ニ轉電セリ

471 昭和6年4月(4)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛 (電報)

國民政府會議において特殊消費稅を実施しな
い旨の明令公布について

南 京 発
本省 4月4日後着

第一八三號

472 昭和6年4月17日 塚本関東長官より
幣原外務大臣宛 (電報)

二重課稅については強制通關も辞せざるところ
此の上とも嚴重交渉方具申につき重光宛電報

關東庁 4月17日後発
本省 4月18日前着

⁽¹⁾ 第三一號
本官發在支公使宛電報

(無號)
往電第三號ニ關シ

一、貴電第一〇號堀内張會談ニ依レハ支那側ニ於テ本件二
重課稅ノ根據ニ付充分ノ説明ヲナシ居ラサル模様ナル
カ或ハ先方ニ於テハ關東州ヲ外國領土ト同一視シ租借
地ヲ通過シ又大連ニ於テ積替スル事實ヲ捉ヘ新規ニ輸
入稅ヲ徵收スルモ何等不法ニアラストノ見解ヲ持スル
ニアラスヤト想像サル處右ハ當州ニ於テ支那稅關ノ
設置ヲ許サレ居ル事實ヲ忘却セル結果ナルヘク即チ大
連港ニ於テ行フ輸入又ハ積替等ノ手續ハ之ヲ州境ニ於
テ行フモノト謂ヒ得ヘク大連港向ヶ貨物ニ對シ特殊不
利ノ扱ヲナス論據ナキモノト思ハル右貴方御交渉ノ御
参考迄

二、一日以降本日迄大連港着 to pay 貨物ハ既ニ三〇〇個
ヲ越ヘ逐日增加シツツアリ而シテ之等貨物ニ付テハ總
稅務司ヨリ稅關長宛本件告示ニ對スル當廳ノ同意ノ有
無ニ拘ラス現金徵收方勵行從テ保證金又ハ供託金差入

レ等ノ辦法ヲ許ササル旨電命シ來レルヤノ趣ニテ大連
關トシテハ取立ル譯ニ行カストテ當惑シ居レリ之ニ對
シテハ抗議附納稅ノ辦法モナキニアラサレトモ右ハ支
那側ヲシテ結局屈服シタルモノノ如キ誤解ヲ起サシメ
本件解決上却テ面白カラストノ見地ヨリ滿鐵代辦貨物
ノ關スル限り輸入手續ヲ差控ヘ專ラ貴方暫行辦法御交
渉ノ結果ヲ鶴首待チ居ル次第ナルカ之トテ何時迄モ放
置シ難キ事情ニアリ其他ノ^(ニギヤク)國ノ貨物(荷主ハ多ク外
國人支那人)ハ事情ヲ知ラサル爲力代辦者ニ於テ納稅
シ居ルモノノ如キモ不日問題ヲ起シ來ルモノト思ハル
就テハ前電申進置キタル暫行辦法至急御交渉ノ上結果
回電アリタン

三、其後當方ニテ取調ヘタル處ニ依レハ昭和四年度大連輸
入本件貨物ノ總量約一〇萬噸價格一千萬海關兩其內保
稅倉庫品ノ石油煙草約二萬噸ヲ除キ殘餘ノ約七割ハ奧
地向ニテ之ニ對スル輸入稅額約一百五十萬金圓ナリ今
後右貨物ハ「ボンド」ニ振替ヘ得ルモノハ其方法ナキ
ニアラサレトモ大部分ノ貨物ハ概々不便ト不利トヲ厭
ヒ輸入ノ經路ヲ大連ヨリ營口ニ移スヘク現ニ右貨物ノ

三日ノ國民政府會議ハ(一)曩ニ裁釐會議ニ於テ實施スルコト
ニ決定セル特殊消費稅ハ實施ニ當リ變態的釐金トナルヘキ
惧アルニ付之ヲ實施セサル旨至急明令ヲ發スル事(二)各省ニ
シテ若シ裁釐命令ニ對シ裏面ニ於テ背反シ或ハ巧ニ名目ヲ
立テ釐金類似ノ稅金ヲ徵收スルモノアラハ監察院ヨリ人ヲ
派シ實地取調ノ上處分スルコトノ二項ヲ決議セル處國民政
府ハ同日附ヲ以テ右趣旨ノ明令ヲ公布セリ委細公信
公使ヨリ上海及杭州へ御轉報アリタシ
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、
杭州へ轉電セリ

約五分ヲ占ムルB、A、Tノ葉煙草ハ眞先ニ之ヲ實行スル模様ナリ今假ニ右貨物ノ全部力營口廻リトナル結果ヲ豫想スルニ貨物爭奪戰ノ結果其半ヲ支那鐵道ニ奪

ハレ残リ半ヲ滿鐵力吸收スルト假定スルモ滿鐵ノ蒙ムル運賃減收ハ約六五萬圓ニ上ルヘク此外歸荷トシテ大連ニ出廻ル荷物ハ營口ニ向フコトトナルヘク又大連港出入船舶ハ若干減少シ夫レ丈ヶ營口ニ増加スルコトトナルヘキ等其影響スル所甚大ナルヘシ況ヤ遽カニ豫断ヲ許シ難キ事ナレトモ假ニ此手法ヲ藉リテ大連港輸入土貨ヲ制遏シ更ニ支那各港向大連輸出品ニ迄及ホスカ如キコトアリセハ由々シキ結果ヲ來スヘク滿鐵側ノ計算ニ依レハ同社運賃減少ノミニテモ九百萬圓餘ニ上ル見込ナリ右土貨ニ對スル輸入稅再拂ノ噂ハ現ニ貴地ニ於テモ行ハレ居ルモノニテ滿鐵側ハ支那鐵道トノ運賃競争ニ苦心ヲ重ネ居ル折柄ニモアリ關稅政策ニ依ル此壓迫ヲ極度ニ重大視シ居レリ本件カ唯單ニ一時香港支那稅關設置交渉ノ側杖ヲ喰ヒタル結果起リタルモノニテ艱チ解决ヲ見ルモノトセハ別ナレトモ然ラサルニ於テハ結局滿鐵及大連ニ對シ一種ノ經濟封鎖ヲ行フ魂請フ

(五)本件告示案郵送ス同案ニハ「大連向(to Daires)」輸入稅納付濟外國貨物云々」トアリ右ハ大連ニ荷揚スルモ大連ヲ輸入地トセス通過貨物トシテ奥地ニ輸出スル場合及大連ニ於テ單ニ積換スル場合ヲモ含マシムル意味ナリヤ御確メ請フ

大臣ニ轉電シ關係電報ト共ニ在滿各總領事、領事ニ暗送セリ

~~~~~

473 昭和6年4月26日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

新輸出稅率は国民政府會議を通過し六月一日

より実施との民生報の報道について

南京 4月26日後発  
本省 4月26日後着

往電第二二八號ニ關シ

膽ニ出テタルモノニアラスヤトノ懸念モ起ル譯合ニテ  
之力對策ニ付テハ慎重ナル御考慮ヲ煩シ度シ  
本官發支宛電報(無號)

四右對策ニ付當廳ノ思付トシテハ一、關係貨物ノ奥地輸入ヲ見合ハシムルカ二、抗議付再拂セシムルカ三、「ボンド」通關セシムルカ四、強制通關強制輸送セシムルカ只今ノ處他ニ方法モ見當リ兼ヌル次第ナルカ一、ハ極メテ短期間特殊ノモノニ付テハ利用シ得ヘキモ一般的ナラスニハ結局泣寝入ニ終ル虞アリ又先方ヲシテ我方態度ニ見極メヲ付ケシメ却テ交渉促進ノ途ニ非サルヘク三ハ稅關長ヲシテ取行ハシムルコト目下ノ處困難ナレトモ方法トシテハ最モ無難ナルヲ以テ暫行方法トシテ保證書差入レノ上再徵ヲ免レシムルコトニ御交渉ヲ得ハ最モ好都合ナリ右不可能ナルニ於テハ結局四ノ方法ヲ執ルノ已ムナキ場合モアルヘキ處右ハ貨物到着地ニ於テ差起ルヘキ面倒ヲ豫想セハ相當弱點ヲ有シ上策ト謂ヒ難キヲ以テ萬一ノ場合ニハ當廳トシテハ告示不同意廳報不掲載ノ態度ヲ執ルニ止メ直接之ニ關與セス荷主及滿鐵限リニテ出來得ル限リ聲ヲ大ナラシメサル様努メ稅關側トモ内密或程度ノ默契ノ下ニ實行セシムルコトト致度

タルヲ以テ近ク公布セラルル豫定ナルカ右ハ豫告期間一ヶ月ヲ置クヘシトノ財政部ノ意見ニ鑑ミ六月一日ヨリ實施セラルルコトトナルヘク尙徵稅ハ海關金單位ニ依ル趣ナリト報道セリ  
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ  
在上海重光代理公使、北平、奉天、天津、青島、漢口、廣東、關東廳長官へ轉電セリ

~~~~~

474 昭和6年4月28日 塚本關東長官より
幣原外務大臣宛(電報)

海關金單位券の發行により横浜正金銀行は大連海關における海關收入取扱い銀行としての地位を覆される状況について

付記 高裁案 五月二十五日起案

「關東州ニ於ケル海關金單位兌換券使用許
否問題ニ關スル件」

第二四七號

廿六日ノ民生報ハ新輸出稅率ハ既ニ國民政府會議ヲ通過シ

第三五號

閔東府 4月28日後発
本省 4月29日前着

五 国定税率および裁厘課税問題

廿四日中央政府發總稅務司經由大連稅關長宛左記電訓アリ

タル趣ヲ以テ廿七日同稅關長ヨリ當廳ノ内意伺出アリタリ

中央銀行ハ一九三一年五月一日以降一〇孫五孫一孫及二〇

錢一〇錢ノ稅關金單位券ノ發賣ヲ準備ス其賣渡價格ハ中央

(欄外記入二)(欄外記入一)キ中央銀行ニ付知ルコトヲ得ヘク本銀行券ノ發行ハ政府命令ニ基

ノ課金ノ支拂ニ對シ無制限ニ受入レラルヘン金券ノ見本ハ

追テ送附シ其銀行業務並ニ送金ニ關シテハ後日訓令スヘシ

右告示案ハ金單位券ヲ稅關稅納入上唯一ノ通貨トスルカ或

ハ選擇通貨トスルカ文面上明瞭ナラサルカ假リニ前者ノ場

合トシ之カ當州ニ及ホス影響ヲ豫想スルニ

一、現在大連關ニ於ケル納稅ハ殆ト正金票ニ限ラル實情

ナルニ付之ニ與フル影響相當大ナルヘシ(海關稅五年度一

二〇〇萬圓)尙大連ニ於テハ中央銀行ノ支店ナク中國銀行

(欄外記入三)力正金銀行ト共ニ從來海關稅ヲ取扱來レル關係上恐ラク中

國銀行ヲ代理店トシテ發券セシムヘク其結果多年正金銀行

ノ海關收入取扱銀行トシテノ地位ハ覆サルヘシ

二、若シ右金券力更ニ一般ニ流通スルコトモナラハ新銀券ニモ影響ヲ及ホスヘシ就テハ大連稅關長ニ對シテ暫ク同

(欄外記入四)公使ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ

營口、安東、奉天へ轉電セリ

(付記)

高裁案

昭和六年五月二十五日起案

關東州ニ於ケル海關金單位兌換券使用許否問題

ニ關スル件

本年五月一日以降中央銀行ヨリ發行スヘキ海關金單位兌換券ヲ大連稅關ニ對スル輸入稅其ノ他金單位ニ依ル課金ノ支

拂ニ使用セシメントスル中國政府ノ大連稅關長宛訓令ニ關

シ同稅關長ヨリ關東廳ノ内意ヲ伺出テタル趣別紙(甲號)寫ノ

通關東長官ヨリ電報アリタリ處其ノ後上京中ノ關東廳西山

財務部長ヨリ本件ニ關シ關東廳ヨリ別紙(乙號)及丙號寫ノ通

電報ニ接シタル趣ヲ以テ右措置振ニ關スル當省ノ意見ヲ承

知シタキ旨申出アリタリ。查スルニ關東州ニ於テ中央銀行

力本件金單位兌換券ヲ發行シ又ハ關稅徵收用トシテ之ヲ受

ケ入ルル爲ニハ日本政府ノ特許ヲ要スル次第ナル處(別紙

見當子)乙號(甲號)寫ノ通

意ヲ見合セ置ケリ

丙號參照)假リニ之力發行又ハ右受入ヲ許可シタル場合我方ノ受クヘキ影響如何ハ未タ的確ニ豫測シ難キモ新兌換券ノ使用相當行ハルコトナル曉ニハ(現在新兌換券ノ發行額ハ五十萬元ニ達セス其ノ使用手續煩雜ナル爲上海等ニ於テモ未タ餘リ利用セラレス商人ハ從來通り其ノ取引銀行發行中央銀行宛金單位小切手ヲ貰受ケ輸入稅ヲ納付シ居ルモノ多キ模様ナリ)正金銀行大連支店ノ銀券ニ依ル關稅取扱高ハ減少シ關稅取扱銀行トシテノ正金ノ利益ハ減殺セラルヘキノミナラス右兌換券ハ自然市場ニ流通スルニ至リ關東州ニ於ケル正金及朝鮮兩銀行券ノ流通ニモ影響ヲ及ホス盧アリ(此點ニ關スル正金、鮮銀兩行ノ意見ニ付テハ別添書類參照)尙別添(見當子)上海總領事來信公第五三三號ニ依レハ金單位兌換券ハ六割ノ金又ハ金預金準備ヲ有スヘキモ兌換ノ要求ニ對シテハ國外金融市場ニ於ケル一覽拂ノ爲替ニテ行フヲ原則トシ一千海關金單位元以下ノ場合ハ其ノ時ノ爲替相場ニ依リ銀ニテ支拂ハル由ニテ同券自體ノ信用モ尙疑問ノ餘地ナシトセス(正金側ヨリ承知スル所ニ依レハ中央銀行兌換券ハ中國內ニ於テモ之力受入ヲ拒絶セラル地方アル由因ニ同行ハ宋子文系)旁々關東州ニ於テ之カ流通ヲ

認ムルハ我貨幣政策上考慮ヲ要スルニ付我方トシテハ之力發行及受入ヲ許可セサル方得策ト思考セラル尤モ右不許可ノ方針ヲ執ルモ大連稅關設置協定ノ規定ニハ何等抵觸スル所ナキモ中國側ニ於テハ右ハ我方力大連稅關設置ヲ認メタル趣旨ニ違反スル措置ナリトカ或ハ中央銀行ノ本件兌換券發行ハ中國ニ於ケル金本位制採用ノ一階梯ナルニ不拘我方ニ於テ之ニ好意ヲ示ササルハ中國貨幣制度改善ニ對スル計劃ニ援助ヲ與ヘサルモノナリ等ノ非難ヲ爲スコトアルヘク又進シテ關東州及附屬地以外ノ中國領土ニ於テ正金銀券、鮮銀金券ノ流通妨害ノ學ニ出ツルコトナキヲ保セス(正金銀券ノ流通高ハ大體關東州八百萬圓乃至五百萬圓、關東州以外百萬圓、鮮銀券ハ滿洲及關東州ニ於テ約三千萬圓流通シ居リ關東州外流通高モ相當ノ額ニ上ル)更ニ極端ナル場合ヲ想像スレハ正金ノ關稅取扱事務ヲ中止スルニ至ルコトモアリ得ヘシ(此場合ニハ關東廳ヨリ在大連中國銀行ノ關稅事務ノ中止ヲ命スルコトモ不可能ニ非サルヘシ因ニ現在正金ハ大連以外ニ於テ關稅取扱ヲナシオラス)就テハ本件差當リノ措置トシテハ前記不許可ノ方針ニ出ツルコトトシ將來中國側ノ態度如何ニ依リテハ臨機適當ノ措置ニ出テ可

然ト思考セラル

右不許可ノ措置ニ關スル具體案トシテハ關東廳ヨリ別紙丙
號ノ通大連稅關長ノ立場ヲ顧慮シ本件大連稅關長宛中央政
府ヨリ訓令アリタル旨ノ告示ニ對シテハ同意ヲ與フルモ
(關東廳々報掲載ヲモ許可スルノ意) 實施問題ニハ觸レサ
ルコトトシ且稅關長ニ對シテハ關東州ニ於テ之カ實行ハ不
可ナル旨ノ注意ヲ與フルト共ニ大連中國銀行ニ對シテハ大
正八年三月同行ニ對シ海關收入金ノ取扱ヲ許可シタル際ニ
於ケル命令條項中ノ金券ナル文字ハ日本側銀行ノ發行ニ係
ル金券ニ限ル趣旨ナル旨ヲ注意スルコトシタキ旨申越ア
ル處右告示ノ點ニ關シテハ從來ノ例ニ依レハ大連稅關長ノ
申出ニ基キ海關告示ヲ廳報ニ掲載スルハ右告示ノ内容ヲ正
式ニ承認スル意味ヲ有スルヲ普通トスルヲ以テ此際本件ノ

廳報掲載ニ同意ヲ與フルトキハ我方ニ於テ右實施ニ同意シ

タリトノ誤解ヲ招ク虞アリ旁々右廳報掲載ハ之ヲ差控ヘ單
ニ海關側ニ於テナス告示ノミヲ默認スルコト可然ト認メラ
ル依テ前記關東廳ヨリノ申越ニ對シテハ右ノ趣旨ニテ同意

ヲ與フルコト致度

尙拓務省及大藏省ニ於テモ本件兌換券ノ發行及流通ヲ拒絶

（欄外記入六）

年一月七日（武富敏彦通商局長サイン）
(欄外記入六)

編注「新」の箇所に「鮮」との書き込み訂正あり。

475 昭和6年4月29日 在遼陽山崎（恒四郎）領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

暫ク見合セ

滿洲紡績株式会社内に駐在員を常駐させる
とは付屬地内における中國側の徵稅權を認め
る結果となるにつき至急回電方請訓

支、奉天、關東廳へ轉電セリ

476 昭和6年5月1日 在旅順坂本閑東長官より
幣原外務大臣宛（電報）

付屬地内での統稅徵收には斷固拒絶方意見具申

第三號

遼陽縣長ハ遼寧省財政廳ヨリノ訓令ニ基キ綿絲布統稅條例

第七條ニ依リ遼陽滿鐵附屬地内ニアル滿洲紡績株式會社ニ
工場駐在員ヲ常駐セシメ至急統稅徵收ヲ實施致シタキ旨要
求シ來レル處(一)統稅ハ南支各地ト同様滿洲ニ於テモ我方ニ
於テ之力實施ヲ認ムヘキヤ否ヤ(二)滿洲ニ於テ統稅實施ヲ認
ムトスルモ附屬地内本邦人經營ノ工場ニ支那稅吏ヲ駐在セ

シタキ希望ヲ有スル趣ナルカ當省トシテハ前述ノ如ク將來
ニ於ケル對中國關係モ考慮スルノ要アリ無條件ニ右不許可
ヲ贊成スル態度ヲ示スハ面白カラサルニ付當省トシテハ前
述ノ趣旨ニ依リ差當リ之ニ同意スル旨口頭ヲ以テ西山財務
部長ニ回答シ置クコトト致度

（欄外記入一）

北沢君 我方トシテ反対シ得ル根拠アリヤ

（欄外記入二）

昭和四年末青島地方ニ於テ正金票ノ受入ヲ拒絶シタル例アル
モ種々交渉ノ結果受入レルコトナレリ（法律上ノ根拠ニ依
ラス）

（欄外記入三）

殊ニ治外法權撤廃トナレバ正金ノ發行權ハ疑問ナルヘシ

（欄外記入四）

金單位券ヲ唯一ノ稅關通貨トスルモ我方トシテ反対シ得ル法
律上ノ根拠ナシ

（欄外記入五）

最早此種ノ問題ハ改メテ考量ヲ要スル時期トナレリ 昭和七

（欄外記入六）

シムルコトハ附屬地内ニ於ケル支那側ノ徵稅權ヲ認ムル結果
トナルヘキニ依リ縣政府ニ對シ兔角ノ確答ヲ留保シ置キ

タルニ付此際本件措置ニ關シ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ
尙財政廳ニ於テハ五月一日以後從來ノ銷場稅廢止ト同時ニ
本件統稅實施ノ手筈ナル趣ナリ

支、奉天、關東廳へ轉電セリ

477 昭和6年5月1日 在遼陽領事發貴大臣宛（電報）

付屬地内での統稅徵收には断固拒絶方意見具申

第三號

在遼陽領事發貴大臣宛電報第三號ニ關シ

帝國政府ニ於テ統一稅施行區域ニ同意ヲ與ヘ又ハ默認セラ
ルルノ御方針ナリヤ否ヤニ付テハ未タ承知セサルモ同稅ハ
一定ノ貨物ニ對シテ内地稅ノ全部ニ代ル課稅ヲ爲ス趣旨ニ
テ新ニ制定セラレタルモノナルヤニ見受ケラルルヲ以テ今
後徵稅上ノ成績良好ナルニ於テハ同稅ヲ賦課セラルル貨物

ノ種類ハ漸次増加スルモノト見テ差支ナカル可キニ付之ヲ附屬地ニ於テ徵稅セシムル事ハ啻ニ主義上容認ス可カラハ勿論實際上ノ結果ヨリ見テ大イニ考慮ヲ要ス可シ殊ニ中國稅吏ヲ我力工場ニ駐在セシムル力如キハ假令暫時ノ派駐ト雖モ附屬地内ニ於ケル支那徵稅權ノ一般的侵潤ヲ迅速且容易ナラシムル惡結果ヲ招クモノト云フ可ク且假令我方ニ於テ滿紡製品ニ對スル統稅ヲ默認スルト假定スルモ之ヲ附屬地外ニ於テ徵稅セシメ徵稅上何等差支ヲ生セサルモノト認メラルニ付此際附屬地内徵稅殊ニ稅吏ノ常駐ハ斷然拒絕スルコト致度シ

支、奉天、遼陽へ轉電シ在満洲各領事へ暗送セリ

477 昭和6年5月1日 在上海埠内書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

張閥務署長に対し二重課稅容認し得ざるにつき暫行弁法講究方申し入れについて

第四一九號 上海 5月1日後発
本省 5月1日後着

三十日本官張閥務署長ニ面會シ關東長官發代理公使宛電報第七號ノ趣旨ヲモ參照シ我方ノ事情ヲ詳細説明ノ上關務署側ノ立場ハ好ク判リ居ルモ我方トシテ之力爲斯ノ如ク不合理ナル二重課稅ヲ容認シ得サル事情モ十分諒解シ得ラルルナレハ之ヲ救濟スル爲何等カノ暫行辦法ヲ講シ得ラレサルヤトテ(一)代理公使歸任ノ上宋部長トノ間ニ何等話合ヲ濟マス迄本件訓令ノ實施ヲ延期スルコト(二)大連ニ保税倉庫ヲ設置シ之ニ倉入レノ上奥地又ハ他ノ條約港ニ送付セラル貨物ハ輸入稅ヲ免除スルコト又ハ(三)商人ヲシテ本件解決ニ至ル迄海關ニ對シ一定ノ保證金ヲ差入レシメ輸入稅ヲ徵收セサルコト等ノ辦法ヲ提示シタル處張ハ自分トシテハ本件二重課稅ヲ除ク爲ニハ其亂用ヲ防キ得ル限り如何ナル方法ニテモ考量スル意図ナルモ何分先日御話セル香港協定ハ前記(二)ノ如ク香港ニ保税倉庫ヲ設クルコトヲ條件トシテE、Cヲ許スコトトナリ居リ之カ先般四中會議ニ於テ否決セラレタル次第ナレハ之ハ問題トナラス

又(三)ノ方法ハ假リニ將來香港協定力採用セラル場合(右採用方に付テハ張ヨリ密輸防止ノ爲是非必要ナリトテ宋部長ニ其後再三建言シ居ルモ今後何等事態ノ展開ナキ限り其タル次第ナレハ之ハ問題トナラス

望ナシト述ヘ居タリ) 同様ノ特典ヲ大連ニ及ホスコトトナルモ其效力ヲ今日ニ溯及セシムルコトハ困難ナレハ保證金差入ノ方法ハ何等商人ニ利益トナラス又一時延期ハ本件ニ

對スル政府ノ根本方針ニ反スル次第ナレハ自分ハ勿論宋部長ニ到底不可能ナリ要スルニ本件ニ關シテハ自分ハ勿論宋部

長ニ於テモ香港協定力採用セラル迄ハ何等有效ナル辨法ヲ講シ得サルモノト考ヘラルニ付右ノ點惡カラス諒解ヲ請フト附言セリ

尙前記關東長官電報一ノ理由ハ往電第三五〇號及其後ニ於ケル本官張ノ會談中ニ盡サレ居ルモノト存セラレ又同電末段ニ付テモ張ノ意見ヲ確メタル處張ハ奥地向通過貨物及大連ニテ積替ノ上他港ニ送ラル貨物ヲ除外スルトキハ本件訓令ハ實質的ニECヲ與ヘタルト同様ノコトトナルヲ以テ之等貨物ヲ含マシムルコト勿論ナリト述ヘ居タリ

關東廳へ轉電セリ

~~~~~

478 昭和6年5月4日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

遼寧省政府による營業稅徵収に対し付屬地警察に

479 昭和6年5月4日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

支、北平、南京、天津、赤峰、關東長官、在滿各領事へ轉電セリ

~~~~~

阻止方移牒と共に特派員へも嚴重抗議について

奉天 5月4日後発
本省 5月4日後着

第二八六號

往電第二七二號前段ニ關シ

遼寧省政府ニ於テハ愈五月一日ヨリ一齊ニ營業稅徵收ヲ開始シタルカ四日當地附屬地内支那商人ノ報告ニ依ルニ支那側稅局ハ當地附屬地内居住支那商全部ニ對シ營業稅徵收ノ爲取引簿ヲ備付ケシメ仕入商品ノ種類數量及價格ヲ記入セシメ稅局吏定期ニ出張シテ右帳簿ノ検査ヲ行ヒ營業高ニ照シ所定ノ營業稅ヲ徵收スルコトセル趣ナリ右ニ關シ當館ニ於テハ早速附屬地警察ニ阻止方ヲ移牒セル外一面特派員宛嚴重抗議スルコトセリ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

529

遼寧省政府の営業税徵収開始にあたり付属地外に

税局派出所を置き品種数量価格等を記帳について

幣原外務大臣より
在遼陽山崎領事代理宛（電報）

満洲紡績株式会社への統稅徵収は默認する外な
きも付属地外徵稅など具体的方法考究方訓令

奉天 5月4日後発
本省 5月4日後着

本省 5月6日後7時8分発

第二九一號
往電第二八六號ニ關シ

遼寧省政府ハ五月一日以降銷場稅ノ徵收ヲ廢止スルト同時
ニ營業稅徵收ヲ開始セルカ當地附屬地内ニ於ケル中國商人
ハ勿論城内及商埠地ニ於ケル外商ニ對シテハ事實上營業稅
徵收ノ困難ヲ察シ何等力別ノ方法ヲ以テ同額ノ稅金ヲ徵收
セントノ意圖ヲ有スルモノノ如ク右豫備行爲トシテ現ニ附
屬地ヨリ商埠地及城内ニ出ツル商品ニ對シ税局派出所ニ於
テハ一々品種數量價格等ヲ記帳シ居レリ

本件ニ關聯シ今日迄ノ處附屬地外居住本邦商人ハ何レモ未
タ直接支那側ヨリ營業稅徵收ノ要求ヲ受ケタル事無シ
公使ヨリ上海へ轉報アリタン

支、南京、北平、天津、在滿洲各領事へ轉電セリ

貴電第三號ニ關シ
綿系統稅ニ關シテハ去ル三月国民政府財政部ト我力在華紡
績同業會トノ間ニ成立セル契約ニ基キ中国ニ於テ販賣又ハ
納附スルコトヽナリ居リ貴地滿洲紡績株式會社ハ右同業會
ノ一員ナルヲ以テ右契約ノ結果當然中國側ニ納稅ノ義務ア
ルモノト思考セラレ從テ若シ滿洲紡績會社力其ノ附屬地内
ニ在ルノ故ヲ以テ右納稅ヲ全然拒絕スルニ於テハ前記全業
會ニ於テ契約一部不履行ノ譏ヲ招クニ至ル虞アル一方關東
洲内邦人紡績會社ノ製產綿糸ハ滿洲奥地へ輸入ノ際右統稅
ト全額ノ消費稅excise（在華邦人紡績ニ付統稅納附契約
ノ成立ヲ予想シ昭和五年日支關稅協定第一附屬書ニ於テ認
メタルモノ）ヲ徵收セラルヽコトヽナリ居ルヲ以テ滿洲紡

481 昭和6年5月12日 在遼陽山崎領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

統稅徵収に対する我が方提案を遼寧財政厅不
承認について

遼陽 5月12日後発
本省 5月13日前着

第五號

貴電第五號並機密第六五號拙信ニ關シ

現在滿紡ニテハ滿鐵本線ヨリ附屬地ノミヲ通過スル引込線
ニ依リ直接各地ニ向ケ出荷シツツアル處附屬地外ニ於テ徵
稅設備ヲ施サントセハ同工場ヨリ附屬地外ニ出ツル迄少ク
トモ一〇町餘ノ距離アル關係上此間更ニ迂回線路ヲ新設ス
ル等ノ必要ヲ生シ實際上施設不可能ノ状態ニアリ依テ奉天
總領事館及滿紡トモ協議ノ上昨十一日滿紡專務ヲ直接奉天
財政廳ニ出頭セシメ

(一)仕向地需要者ヨリ入荷先ニ於テ統稅ヲ納付スルコト

(二)滿紡製品搬出ノ都度直接同工場ヨリ必要事項ヲ稅局ニ報

告シ納稅スルコト

ノ二案ヲ提議セシメタル處何レモ財政廳ノ承諾ヲ得ルニ至

回答方ニ付テハ右具体案決定ノ上申進スヘシ

支、北平、奉天、天津、青島、漢口、關東廳へ轉電シ（北

平、天津、青島、漢口へハ貴電ト共ニ）支ヲシテ上海南京
へ轉報セシメタリ

~~~~~

ラスシテ歸遼セリ（尙其際統稅課長ハ満紡專務ニ對シ上海ニ於テハ租界内ノ日本工場ニ駐在員ヲ置キ徵稅シツツアル處滿鐵附屬地ハ鐵道用地ニ過キサルヲ以テ附屬地内工場ニ駐在員ヲ置クコトハ差支ナキモノト思考セラルノミナラ

ス駐在員常駐ノコトハ國民政府ノ訓令ニ基キ遼寧省ノ法律トシテ公布シタルモノナルニ付之ヲ實施スル外ナシト述ヘタル由）

事實右ノ通ナルニ付更ニ奉天總領事館ト協議ノ上最後案トシテ「中國稅吏ヲ退官ノ上一個人トシテ満紡社員ニ採用シ工場内ニ常駐セシメ一切ノ納稅手續ニ當ラシムルコト」ヲ此際満紡ヨリ財政廳ニ申出テシメ其承諾ヲ取付クル以外他ニ良策ナカルヘシト思考セラル處右ノ如キ提案ヲナサンメ差支ナカルヘキヤ否ヤ特ニ關東廳側トモ御協議ノ上何分ノ儀至急御電訓ヲ請フ

公使ヨリ上海、南京へ轉報ヲ請フ

支、北平、奉天、天津、青島、漢口、牛莊、安東、長春、鐵嶺、關東長官へ轉電セリ

ヘ轉電セリ

483

昭和6年5月15日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

五月十六日より各海關で統稅徵收開始に当り大連海關でも徵收方申し出に対する処置につき請訓

南  
京  
本  
省  
5月15日後發

第四五二號

數日前統稅局長謝作楷本官ヲ來訪シ中國側ニ於テハ五月十六日ヨリ各地海關ニ委任シテ輸入品ニ對スル統稅ヲ徵收セシムルコトニ決シ（各地電報參照）大連稅關ニ於テモ同様徵稅シタキ處大連ニ付テハ總テ日本側ト話合ノ上實行シタキヲ以テ右ニ關スル本官ノ意見ヲ伺ヒタシト申出タリ

然ルニ輸入綿糸ニ對スル統稅ハ既ニ稅關協定ノ定ムル所ナレハ大連海關設置ニ關スル協定ノ解釋ハ兎モ角大連ニ於テモ之ヲ認ムルヲ適當ト考ヘラルモ憐寸「セメント」小麥粉（煙草ハ現行輸入稅ノ範圍内ニテ其一部ヲ統稅トシテ徵收スルモノナレハ左シタル支障ナカルヘシ）ニ對スル統稅

482 昭和6年5月14日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

商埠地および城内居住日本商に対し中國稅局

より納稅方直接要求し來りたるについて

奉  
天  
本  
省  
5月14日後發

第三〇八號

五月一日ヨリ實施ノ營業稅ニ關シ最近當地商埠地及城内居住邦商ニ對シ支那稅局ヨリ納稅方直接要求シ來レル事實アリ鐵嶺ニ於テモ同様ノ事例アル趣ナル處本稅ハ統稅ト全然其性質ヲ異ニシ商人ヲシテ此ノ際妥協的態度ニ出テシムルコト大局上不利益ト認メ十四日本官ハ警察ヲ通シ各關係邦商ニ對シ嚴重拒否方ヲ通達シタル外不取敢口頭ヲ以テ特派員ニ對シ本邦人ニ營業稅ヲ賦課スルカ如キハ條約違反ナルヲ以テ至急財政廳ノ反省ヲ求メラレ度キ旨抗議シ置キタリ尙要スレハ公文ニテ更ニ抗議スル筈

公使ヨリ上海へ間島ヨリ管下四分館ヘ夫々暗送シ哈爾賓ヨリ齊々哈爾、滿洲里へ轉電アリ度シ

公使、北平、南京、漢口、廣東、青島、天津、濟南、赤峰

ノ徵收ヲ大連ニ於テ認ムルコトハ統稅ニ對スル我方ノ立場及前記大連協定ノ解釋上面白カラサルヤニモ存セラル處假ニ我方ニ於テ極力之ニ反對スル場合ニハ中國側トシテハ輸入稅率ヲ夫丈ケ引上クレハ目的ヲ達スル次第ニモ有之將又大連方面ニ於ケル當業者ハ統稅ノ支拂ニ依リ滿洲其他ニ於ケル一切ノ内地稅ヲ免除サルコト確實ナルニ於テハ寧波海關ニ於テ統稅ヲ支拂フコトヲ希望シ居ル趣豫テ岸本ノ話モ有之（二月十三日附閣下宛關東長官發公信關外第二三一號末段ノ趣旨モ右商人側ノ希望ヲ反映スルモノト認メラル）此際實際上ノ見地ヨリ統稅納付済輸入品ニ對スル内地稅免除方ニ付中國側ヨリ保障ヲ取付クルコトヲ條件トシテ本件統稅ノ徵收ヲ認ムルコト寧ロ適當ナリトモ思考セラルニ付右ノ事情ヲモ御參酌ノ上本件我方ノ態度成ルヘク早目ニ御回示ヲ請フ

上海、南京ニ轉報セリ  
北平、奉天、天津、青島、哈爾賓、安東、牛莊、芝罘、關東長官へ轉電セリ

中国国定税率導入により輸出付加税廢止について

本省 5 月 15 日後着 上海 5 月 15 日後発

第四五五號（至急）

貴電第一六八號ニ關シ

爲念十五日關務署長ニ付確メシメタル處貴見ノ通輸出附加税ハ新稅實施ト共ニ廢止セラレタル趣ナリ

485 昭和 6 年 5 月 15 日 在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

海關内に統稅局設置とのピール稅務司内話へ

の対応方請訓

安東 5 月 15 日後発  
本省 5 月 15 日後着

第七五號

一昨十三日「ピール」稅務司他用ヲ以テ本官ヲ來訪ノ際統稅問題ニ言及シ最近奉天省ヨリ當地ニ於ケル統稅局設置準

備トシテ統稅局員ヲ派シ來レルコト並統稅局ハ結局海關内ニ設ケラルニ至ルヘキコトヲ内話スル所アリタルカ本官ハ本十五日「ピ」ヲ往訪シ其後ノ模様ヲ尋ネタルニ「ピ」ハ海關監督ヨリハ當地ニ於テ統稅局設置セラレタル旨正式ニ通知アリタル次第ヲ述ヘタル上（本官ノ問ニ對シ所在ノ場所及事務開始ノ時期ハ自分ノ關知スル所ニアラスト附言セリ）

統稅徵收ノ手續トシテ總稅務司ヨリ接受セル通牒ニ依レハ統稅ノ目的ナル貨物ノ輸入ニ當リテハ輸入者ハ輸入申告ト共ニ統稅申告ヲナシ（海關ニ於テハ右兩者ヲ「チエック」ス）右申告ニ基キ統稅局ニ於テ査定セル稅額ヲ先ツ以テ中國銀行ニ支拂フニアラスンハ輸入貨物ノ「レリースパーミット」ヲ發給セサルコトナレリト說明セリ然ル處右ニ依レハ貨物ノ輸入ト共ニ該貨物ノ行先如何ニ拘ラス一律ニ統稅ヲ賦課セラルコトトナリ從テ附屬地内限り消費ノ貨物ニ對シテハ理論上我方行政權内ニ於テ中國內國稅徵收權ノ行使ヲ認ムル結果トナルノミナラス實際上ニ於テモ從來輸入貨物ニ對シ附屬地外ニ出ツルモノニ限り銷場稅ヲ負擔シ居タルノ例ニ比シ甚タシク不利益ナル結果（綿絲布ハ大部

分附屬地外ニ搬出セラルルモ「セメント」ハ大部分附屬地ニテ消費セラル）トナルヘシ

依テ本官ハ「ピ」ニ對シ右ノ次第ヲ説明シ本件徵稅手續ハ我方ニ於テ果シテ其儘承認シ得ヘキヤ疑ナキ能ハス寧口貨物ノ輸入手續ハ統稅ノ目的ナルト否トニ拘ラス一切從來ノ

第一一二號（暗）  
遼陽發本大臣宛電報第五號ニ關シ  
綿系統稅徵收は付屬地行政權に抵触するため  
同地外で徵稅させるよう訓令

本省 5 月 16 日後 6 時 20 分発

我方ニ於テ果シテ其儘承認シ得ヘキヤ疑ナキ能ハス寧口貨物ノ輸入手續ハ統稅ノ目的ナルト否トニ拘ラス一切從來ノ儘トシ前者ノ内附屬地外ニ出ツルモノニ限り境界線外ニテ統稅ヲ支拂フコトスル方安全ナルヘシト認ムルモ何レ慎重考究ノ上何分ノ回答ヲナスヘシト述べタルニ「ピ」ハ日本政府ニ於テ該手續ニ異議ヲ挾ミ日本商人ヲシテ統稅ノ支拂ヲ拒否セシムルニ於テハ海關トシテハ「レリース、パミット」ハ先年ノ附加稅賦課ノ際同様「アンダープロテスト」トシテ發給スルノ外ナカルヘシト答ヘタリ就テハ先方へ回答ノ都合モアリ何分ノ儀御訓電相煩シ度シ

公使ヨリ南京、上海へ轉報ヲ請  
長春ニ暗送セリ

幣原外務大臣より  
在奉天林總領事宛（電報）

筈ニテ附屬地行政権ノ如キ重大問題ヲ「インボルブ」シテ

本件ヲ紛糾セシムルハ恐クハ中國側首腦部ノ本意ニハ非ル

ヘン從テ財政局側ニ誠意ダニアラハ右行政権ノ問題ニ触ル、

コトナクシテ何トカ妥結ノ方法アルヘシト存ス

ければ解決方至難と思われる旨意見具申

奉天 5月17日後発  
本省 5月18日前着

第三一三號

三、就テハ右ノ趣旨ニ依リ貴地財政局長ノ深甚ナル注意ヲ

喚起スルト共ニ中國側ヲシテ満紗トノ間ニ附屬地行政権ト

抵觸セサル何等カノ徵稅方法ニ付妥協セシムル様嚴重御交

渉相成度尚ホ貴官發遼陽宛電報第一号末段ニ依レハ附屬地

内中國商人ハ稅局トノ妥協ニ基キ可然納入スルコトヽナレ

ルヤノ趣ナル處附屬地外納稅ナラハ差支ヘナキモ萬一中國

稅吏ニ於テ秘密ニ附屬地内ニ侵入シ居ルカ如キ事実アルニ

於テハ嚴重取締ヲ加ヘラレ度

在華代理公使、北平、遼陽、牛莊、安東、長春、鐵嶺、閔

東長官ヘ轉電シ

公使ヲシテ上海南京へ轉報セシム

487 昭和6年5月17日在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

統稅徵稅に關し中央政府に対しても折衝しな

力ノ及フヘキ附屬地附近ニ於テハ中國側ノ妨害ヲ排除スル  
ノ措置ヲ講シ得ヘキモ我方ノ力及ハサル奥地ニ於テハ事實  
上中國側ノ爲スニ任スノ外ナキ結果ニ陷ルヘク從テ結局我  
方當業者ノ取引ヲ妨害スルニ止マラス場合ニ依リ致命的損  
害ヲ與フヘキコト滿紗ニ對スル中國側現在ノ壓迫振ニ照シ  
推察ニ難カラサル所ニシテ右ノ如キ事態ニ立至ランカ我方  
當業者トシテハ商賣上ニ於ケル窮境打破ノ爲統稅ヲ納付ス  
ルモ寧口取引ノ圓滑ヲ期スルニ如カストノ立場ヲ執ルニ至  
ルヘキコト代理公使發閣下宛電報第四五二號末段岸本ノ談  
並先年銷場稅問題等ノ際官憲側ニ於テ同稅阻止ノ爲斷乎タ  
ル措置ヲ講シタルニ拘ラス當業者ニ於テハ內密中國官憲ト  
ノ間ニ妥協的措置ヲ講シタル既往ノ事例ニ鑑ミルモ明カナ  
リト思考ス

此間ニ處シ政府ニ於テ統稅納付濟輸入品ニ對スル内地稅免  
除方ニ關スル中國側ノ保障ヲ條件トシテ本件統稅ノ徵收ヲ  
認ムルコトニ御決定相成ルモノト假定スルニ大連及安東ニ  
關シテハ現在ノ實狀上直ニ統稅局員ノ徵稅乃至統稅徵收手  
續ニ關聯シ具体的難問ニ逢着スルコト必然ニシテ中國側ト  
シテハ徵稅ノ確實ヲ期スルカ爲ニ兩地共ニ我方行政權内ニ

アル中國側海關ニ徵稅員ヲ駐在セシメ同所ニ於テ徵稅スル  
力或ハ安東ニ於ケル如ク關稅納入ニ先立チ統稅局ニ至リ納  
稅スヘキコトヲ主張スヘク又當業者側ノ利害ヨリセハ一旦  
統稅ノ納付ヲ認ムルコトトスル以上取引ノ圓滑並敏速ヲ期  
セントノ經濟上ノ見地ヨリ海關ニ於テ關稅ト同時ニ統稅ヲ  
納付スルヲ以テ利トスヘキモ右ハ貴電第一一二號御來示ト  
同趣旨ニ依リ我方行政權ニ對スル侵害ニシテ國權回復ニ關  
スル中國側最近ノ態度等ニモ鑑ミ我方トシテハ滿蒙ニ於ケ  
ル我權益擁護ノ必要上深甚ノ考慮ヲ加フルノ要アリト思考  
ス從テ本官トシテハ政府ニ於テ統稅納付ノ立場ヲ執ラルル  
場合ニ於テモ貴電第一一二號御來示ノ通我方行政區域外ニ  
於テ徵稅セシムル様中國官憲ノ說得ニ最善ノ努力ヲ爲ス所  
存ナルモ本件ハ中央ヨリ大連、安東兩海關ニ命令シ來リ居  
ル關係モアリ旁當地ニ於ケル本官ノ交渉ト對應シテ南京政  
府ニ對シテモ充分ノ折衝ヲ爲スニ非サレハ之カ解決至難ト  
思考ス卑見御參考迄

公使ヨリ上海へ轉報ヲ請フ  
支、北平、南京、天津、青島、關東長官ヘ轉電シ安東、牛  
莊、鐵嶺、遼陽、長春、芝罘、吉林、哈爾賓ヘ暗送セリ

488 昭和6年5月17日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

統税に対する政府の根本的態度決定までピール税務司談の通り「アンダープロテスト」にて納入が妥当との安東領事宛電報

第三一五號

本官發安東宛電報第一四號

大臣宛貴電第七五號ニ關シ

本官發大臣宛往電第三一三號ノ通リ本件ハ統税ニ對スル政府ノ根本的態度ニ關聯スル問題ナルヲ以テ貴地ニ於ケル實情トシテハ政府ノ態度決定ニ至ル迄差當リ冒頭貴電末段

「ピール」ノ談ノ通リ「アンダープロテスト」ニテ「レリー

ズパーミット」ヲ發給セシムルノ外ナカルヘキニ付「ピ

二對シ右様仕向ケラルコト妥當ナルヤニ思考ス

卑見御参考迄

大臣、支、南京、關東長官へ轉電セリ

輸入税則暫行章程改正中戻税に関する規定について  
第三四號（暗）

奉天 5月17日後発

本省 5月17日後着

本省 5月21日後5時26分発

489 昭和6年5月21日 塚本関東長官宛（電報）

幣原外務大臣より

輸入税則暫行章程改正中戻税に関する規定に  
ついては二重課税問題の成り行きを観た上で

態度決定について

貴電第四一号ニ關シ輸入税則暫行章程中改正ニ關スル大連税関告案ハ大体我方ニ於テ異存ナキモ全案中戻税ニ關スル規定ヲ削除シタル點ニ付テハ本大臣發在支代理公使宛電報第七〇号（貴官宛往電一七号）末段申進ノ次第モアルニ付今暫ク二重課税問題ノ成行ヲ觀タル上我方態度ヲ決スルコト、致度シ

代理公使ニ轉電シ上海總領事ニ轉報セシメタリ

490 昭和6年5月21日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）

統税の徵収は内地税免除等を条件として黙認の意向並び大連海關での二重課税問題も併せ

## て解決交渉方訓令

本省 5月21日後8時10分発

第一七七號（暗、至急）

貴電第四五二號ニ關シ

統税ニ關スル我方方針ハ往電第五七號ノ通ニシテ綿糸以外ノ輸入品ニ對スル統税ハ承認ノ限リニアラサルモノ五種品目

中實際上我力方ニ利害アルハ麦粉及「セメント」ノ二種ニ

過キス他方特殊消費税ハ実施見合セトナリタル次第ニモアリ此際徒ラニ條約論ヲ以テ大連及安東兩海關ニ於ケル統税ノ徵収ヲ拒絶シテ事態ヲ紛糾セシムルモ面白カラス旁々適

當ノ保障ヲ取付ケ得ルニ於テハ綿糸以外ノ四品目ニ付テハ之ヲ默認シ差支ナキ意図ナリ右保障トシテハ貴電御來示ノ

統税納附濟輸入品ニ對スル内地税免除ノ外麥粉特税ノ現行

率据置ヲ約セシムルコト、致度ク（右税率ノ引上ハ關稅協定ニ於テ無税ヲ約シ居ル趣旨ニ著シク背馳スルノミナラス

當業者ヨリモ反対アルコトハ御承知ノ通）右保障ノ方法ハ貴官ト中國當局トノ間ニ成立セル諒解事項トシ置クニ止メ

ラレ差支ナシ尤モ右默認ノ場合ニ於テモ大連及安東附屬地内海關ニ於テ海關吏員カ統税ヲ徵收スルコトハ容認シ差支

上海へ轉報アリタシ

491 昭和6年5月21日 在安東米沢領事宛（電報）

差し当り輸入綿糸に對する統税徵収のみ承認

方訓令

本省 5月21日後7時48分発

第三七號（暗、至急）

貴電第七五号及七九号ニ關シ  
差當リ輸入綿糸ニ對スル統稅徵収ノミヲ承認シ置カレ度尚  
委細ハ本大臣發代理公使宛電報第一七七号ニテ御承知アリ  
タシ

遼陽、長春、鐵嶺ニ暗送アリタシ

北平、代理公使、奉天、南京、牛莊、閔東長官ニ轉電シ  
代理公使ヲシテ上海ニ轉報セシム

492 昭和6年5月23日 在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

統稅に關しては一切の内國稅免除を条件として  
默認し付屬地内課稅は飽く迄拒否の旨意見具申

安 東 5月23日後発  
本 省 5月23日後着

第六五號 貴大臣發在支公使宛電報第一七七號ニ關シ

輸入貨物ニ對スル中國側統稅徵收ニ對シ徒ニ條約論ヲ振廻  
シテ事態ヲ紛亂セシムルノ面白カラサルハ冒頭貴電御指摘

ヲ爲スコトヲ認ムルコトニ依リ附屬地ニ於ケル中國側課稅  
權ノ行使ヲ承認スルノ結果トナルヘシ  
就テハ出來得ル限り附屬地内徵稅ハ之ヲ拒絕シ且統稅默認  
ノ交換條件モ中國内地向貨物ニ限ルコトニ取極方熱望ニ耐  
ヘス誠ニ差出カマシキ儀ナカラ卑見電票ス

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、奉天、牛莊、南京、關東廳、遼陽、長春、鐵嶺  
ヘ轉電セリ

493 昭和6年5月26日 塚本関東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

満鉄による強制通關実行に同意について

関東庁 5月26日後発

本 省 5月26日後着

本官發在支公使宛電報第七號ニ關シ  
第四三號

ノ通リニシテ此際統稅ノ賦課ニ對シ一旦納入済ノ貨物ハ爾  
後一切ノ内國稅ヲ免除サルヘキ旨ノ保障ヲ條件トシテ之ヲ  
默認スルコトハ確カニ一案ナルヲ失ハスト雖右ハ輸入貨物  
ニシテ附屬地外ニ出ツルモノニ付テノミニ云ヒ得ル所ニシテ  
附屬地限り消費サル貨物ニ付テハ斯ル保障ハ全然意味ヲ  
爲サヌ結局此種貨物ハ輸入稅ノ外中國々内稅ヲ納入スルニ  
非サレハ輸入不可能トセラル次第ナルノミナラス此際附  
屬地内消費ノ貨物ニ對スル中國課稅ノ默認ハ將來ニ課稅品  
目ノ增加同種課稅ノ設定等ヲ誘致スルノ端ヲ開キ且實際上  
等シク之ヲ默認セサルヲ得サルニ至ルナキヲ保セス何レ當  
地海關ニ於テハ中央ノ命ニ依リ近ク安東驛構内海關派出所  
ニ統稅局ヲ置ク事ニ付滿鐵ニ交渉ノ準備中ニテモアリ遼陽  
滿紡工場内統稅局員常駐ノ要求ヲ以テ附屬地行政權ノ侵害  
ニシテ承認ノ限りニ非ストノ御見解ナル限り徵稅者力統稅  
徵令ノ支配ノ下ニ在リ之カ實施ニ當ルハ統稅局員タルト海  
關吏タルニ依リ行政權ノ侵害タルニ差違アル筈ナク從テ在  
支公使宛御訓令ノ内容ハ結局（一）附屬地内消費ノ貨物ノ關ス  
ル限り無條件ニ中國々内稅ノ賦課ヲ認ムルコトトナルノミ  
ナラス（二）一般的ニ海關力海關事務ノ一部トシテ統稅ノ徵收  
此儘本件ヲ有耶無耶ノ裡ニ推移セシムルニ於テハ案外早ク  
第二段第三段ノ輸出入土貨ニ對スル二重課稅迄落チ行クヤ  
知レスクテハ由々數結果トナルヘク且運送業者トシテ何  
時迄モ現ニ保管中ノ滯貨ヲ其儘放置シ難キ事情モアリトノ  
見地ヨリ大体前電申進メ置キタル段取りニテ無封印通關ノ  
名目ノ下ニ強制通關スルコトニ議一決シ本官ノ承認ヲ求メ  
來レルニ付同意ヲ與ヘ置キタル處廿四日夫々發送ヲ了シタ  
リ（奉天向百六十個哈市向五十八個長春向十一個芝罘向  
廿四個）右御諒承ヲ請フ  
尙現在ノ事情取調ノ結果輸送貨物ハ到達地ニ於テ故障無ク  
配給サルル見込付キ居レルカ萬一面倒差起リ荷主側ニ迷惑  
及フ場合ニハ右荷物ノ關スル限り荷主ノ要求ニ應シ其損害  
ハ全部滿鐵ニ於テ負擔スルコトトセリ

追テ本日又滿鐵代辦大連着 to pay cargo 總數四百十個中  
荷主ノ要求ニ依リ州内消費ニ振向ケタルモノ及個人名義ニ  
本件ニ付支那側ノ意圖スル處モ略明瞭ニ察セラルル次第ニ

テ二重課税支拂ノ上奥地ニ向ケタルモノヲ除キ現ニ保管中ノモノ二百五十四ナルカ此種貨物ハ漸次營口廻リトナリ現在大連向ハ杜絶ノ状態ナリ

在支公使、奉天、哈爾賓、安東、長春へ轉電シ爾餘ノ在満各領事館へ暗送セリ

**494 昭和6年5月26日 塚本関東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）**

**大連海關より六月一日以降転口税の課税につき同意を求めるについて**

関東庁 発 本省 5月26日後着

第四四號

大連關ヨリ「六月一日以降一般航行規則ニ從ヒ航行スル船舶ニ依リ中國通商港間ニ輸送セラルル中國產貨物ハ現行輸出稅則ニ依ル正稅附加稅ヲ合シタルモノト同額ノ轉口稅ヲ課ス」旨並ニ民船内國貿易免稅及新輸出稅則ハ對外貿易ノミニ適用スル旨ヲ含メタル告示ヲナシタキ趣ヲ以テ同意ヲ求メ來レル處右轉口稅ハ輸出稅中ノ移出稅ニ相當スルモノ

ト認メ新關稅協定第一條輸出稅中ニ含マルルモノト解スヘキヤ若シ之ニ包含セラレサルモノナルニ於テハ移出稅タル輪出稅ハ一八六三年丁抹支那國間通商條約締結ノ當初從價五分ノ原則ニ拘束セラレ居ルモノト認メラレ從テ中國側ニ於テ轉口稅ヲ單獨ニ決定及變更シ得サル譯合ナルヤニモ料セラルル處既ニ各地稅關ニ於テ本件告示ヲナシ居レル模様ニテ政府ニ於テハ右ニ對シ御異存ナキヤトモ存セラルルカ大連ニ於テ本件告示ヲ其儘承認シ差支ナキヤ期日切迫ノ關係モアルニ付至急何分ノ御電示ヲ請フ尙右告示中中國通商港ト稱サルルハ大連ト他ノ中國通商港間ヲ往來スルモノヲ含ムモノナル趣旨ノ覺書ヲ稅關長ヨリ取付ケ置クコトトセリ

公使ヘ轉電セリ

**495 昭和6年5月27日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）**

**臧主席に対し統稅員の駐在不可を申し入れ同  
主席からは生産高全部の納稅を条件に地方的  
解決方申し出について**

奉天 5月27日後発  
本省 5月27日後着

第三三六號

往電第三一九號ニ關シ

本官旅順出張ノ爲廿五日森岡ヲ代理トシテ臧主席ニ會見セシメタル處臧ハ初メ本件ハ中央ノ法令ニ基ク遼寧省ノ法律ニ依リ租界商埠ノ内外ヲ問ハス遼寧省内ニ於テ製造スル綿糸布ノ生産ニ對シ工場内ニ稅吏ヲ駐在セシメテ製品出廠ノ都度徵稅スルモノニシテ滿紡側ニ於テ稅吏ノ常駐ヲ不便トスルニ於テハ毎日通勤シテ執務シタク日本側ノ要求ハ認容シ難シトノ財政廳側ノ强硬ナル意見アルヲ以テ過日交渉員提出ノ如キ融通辦法ヲ日本側ニ於テ承諾セサル限り調停甚タ困難ナリト述ヘタルニ付森岡ヨリ右ハ既ニ總領事ヨリモ委細面談ニ及ヒタル通り財政廳ノ信用スル一個人ヲ工場内ニ駐在セシムルトスルモ事實上統稅局員ヲ駐在セシムルト同様ナル力附屬地ハ一般租界ト條約上ノ基礎ヲ異ニシ絕對他的行政權ノ立場ヨリ斷シテ之ヲ承認スルコト能ハス若シ中國側ニ於テ我方ノ合理的主張ニ對シ御詰ノ如ク強テ絶對非妥協的態度ニ出テラルニ於テハ我方トシテモ今後有

ハ生産高ニ課税スル法令ノ精神ニ違反シ且附屬地内消費ノ名義ヲ以テ出廠スル同製品カ附屬地ヨリ更ニ附屬地外ニ密輸セラル等、待遇遇上支那側會社トノ不均衡ヲモ來シ自然地

方的ニ解決困難トナルノミナラス之ヲ中央ニ請訓スルトキハ一層問題ノ紛糾ヲ來スヘキニ付此點ニ關シテハ日本側ニ於テ是非共讓歩ノ上全部ノ生産高ニ付納稅方御諒承ヲ願ヒ

度シト答ヘタルニ依リ森岡ハ右附屬地内消費ニ對スル課稅ハ行政權ノ根本ニ觸ルルヲ以テ更ニ解決ヲ困難ナラシムルモノト言フヘク今一應支那側ノ反省ヲ願ハサルヘカラサルモ總領事ト協議ノ必要モアリト述ヘ一應引取リタリ

右問題トナレル附屬地内消費ノ數量ハ極メテ少額ナルモ主義上ノ問題トシテ之カ課稅ハ到底承認ノ限りニ非サルヲ以テ一兩日中本官吏ニ親シク臧主席ト懇談ヲ遂クヘキモ不取敢代理公使、北平、南京、在滿洲各領事、關東長官へ轉電セリ

496 昭和6年5月29日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 中国側財政當局の統稅徵收要求に対する我が方根本方針決定方請訓

奉天 5月29日後発 本省 5月30日前着

#### 往電第三二六號ニ關シ 第三二八號

(一) 安東發閣下宛電報第八七號所報ノ事情ニ付爲念安東領事ニ確メタル處同地ニ於テハ鐵道ニ依ル輸入貨物ハ統稅ヲ納ムルコトナク輸入申告ノミニテ通關シ船舶ニ依ル輸入貨物ニ付テノミ統稅支拂ニ關聯スル「レリー・スペーミツト」ノ問題ヲ生シ居リ又大連ニ於テハ關東廳力統稅徵收ニ同意ヲ與ヘサル爲未タ具體的事件發生シ居ラサルモ右ハ恐ラク一時的ノ現象ニ過キスシテ統稅徵收ニ關スル中國側ノ立場ヨリセハ軽テ(一)從來ノ銷場稅ト同様貨物力附屬地外ニ出ヅル際ニ徵收スルカ又ハ(二)我方ニ對シ大連又ハ安東附屬地内海關ニ於テ徵稅スヘキコトヲ更ニ再ヒ要求シ來ルコト推察セラル處滿紡製品ニ對スル支那側ト折衝ノ模様殊ニ前記(一)附屬地外徵收ハ其手續煩雜ニシテ脫稅ノ惧多キ點等ニ鑑ミルニ恐ラク(二)ノ方途ニ出ヅル

モノト察セラル右ニ關シ我政府ニ於テハ大連及安東附屬地内海關出張所ニ於テ海關吏員力統稅ヲ徵收スルコトハ容認ン差支ナントノ御方針ナル處安東領事累次ノ電報ニ依レハ總稅務司ニ於テハ滿洲ヲ以テ統稅實施區域外ト看做シ海關トシテ統稅徵收ニ當ラサルコトトシ居ル關係モアリ中國側トシテハ結局別ニ統稅局員ヲ大連並ニ安東附屬地内海關ニ派遣方要求シ來ルニ非スマヤト思考セラルル次第ナルカ右ニ付テハ往電第三一三號末段稟申ノ通り我權益擁護ノ必要上深甚ノ考慮ヲ用フルノ要アリ蓋シ統稅局員タルト海關吏員タルトヲ問ハス我附屬地内ニ於テ中國國內稅ノ徵收ヲ容認スルカ如キハ我行政權侵害ノ端ヲ開カシムルコトナル點ニ於テ不得策ト思考セラルル處中國側ニ於テ何等カノ方法ヲ以テ我行政區域外ニ於テ徵稅スルコトニ同意セサル限り中國側トシテハ附屬地外搬出貨物ノ押收罰金ノ賦課附屬地境界ニ於ケル監視員設置等ヲ初メ其他凡ユル手段ヲ以テ我方ニ對抗スヘク延テ奥地各地方ニ於ケル本邦商人ノ取引上諸種ノ紛糾ヲ招致スヘキハ殆ト疑ラ容レサルヘシ

(二) 又附屬地内消費貨物ニ對スル統稅徵收ノ件ニ關シテハ

右(一)、(二)ノ場合ニ當リ我方當業者トシテハ一時的犠牲ハ之

ヲ忍フトスルモ中國側ノ取引妨害長引クニ於テハ驟テ軟化シ來ルヘキコト從前ノ事例ニ照シ推察ニ難カラサル處ニシ

テ結局帝國政府ニ於テ此際大局上ノ見地ニ立脚シ取引ノ利害ニ顧慮スルコトナク飽迄附屬地ニ於ケル我方行政權ヲ確保スルノ方針ヲ貫徹セラルルカ或ハ又經濟上ノ利害ノ爲ニ

ハ我行政權ニ對スル一部的侵害ヲモ黙認セラレントスルカノ根本方針決定ヲ考究スル必要ニ迫ラレタルモノト思考シ

御参考迄卑見電稟ス

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、北平、南京、天津、青島、關東長官へ轉電シ、牛莊、安東、遼陽、鐵嶺、長春、哈爾賓、吉林、芝罘へ暗送セリ

昭和6年5月31日

在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

当地海關が東北石炭に新輸出税率適用につき中國中央に嚴重交渉ありた旨重光宛要請について

安 東 5月31日後発  
本 省 5月31日後着

公使ヨリ南京へ轉報アリタシ

大臣、北平、奉天、關東長官へ轉電シ牛莊、遼陽ニ暗送セリ

昭和6年5月31日 木村滿鉄理事より  
武富（敏彦）通商局長宛（電報）

東北石炭への新輸出税率適用に対し海關へ抗議方

當口領事宛依頼

大 連 5月31日後発  
本 省 5月31日後着

五月三十一日木村發安東營口領事宛電報

御承知ノ通愈六月一日ヨリ撫順、煙台炭ニ新輸出税率適用ノコトトナリタルカ當社ノ實務上船積通關ヲ一日モ停滯セ

シメ難キ實情ナル爲支那側ノ不當課稅ニ對シテハ單ニ其課稅ノ理由ノ説明ヲ求メ更ニ政府ノ配慮ニ依リ右不當課稅廢

除ノ交渉ヲ待ツ外ナク此際會社ハ已ムヲ得ス不本意乍ラ海關ノ命令通リノ方法ニ依リ奉天側ノ處置ニ反抗スルコトナク輸出ヲ實行スル筈ナリ從來ノ慣行ニ依レハ自然一ヶ月後ニ於テ稅額決定ノ上支拂ヲ要求セラルヘク其際ニ其不當ノ

## 第九〇號

本官發支宛電報

第六七號

當地海關側ハ六月一日ヨリ實施ノ中國輸出税率ヲ撫順煙臺並ニ本溪湖炭ニ對シ適用スヘキ旨當地驛長宛通知シ來レル趣ノ處撫順煙台炭ニ付テハ明治四十四年ノ特別協定第二條ニ依リ又本溪湖炭ニ付テハ明治四十三年ノ特別契約第九條ニ依リ何レモ特殊ノ稅率ヲ定メラレ居リ一般的稅率ノ適用ヲ排除スヘキ筈ニシテ右ハ曩ニ二分五厘附加稅賦課ノ際並

ニ陸境關稅三分ノ一減カ問題トナリタル際ニ於テ右ノ趣旨ニ依リ妥結ヲシタル次第ナルニ拘ラス今同其方針ヲ變更セントスルハ明カニ不當ニシテ目下稅關側ニ對シ嚴重交渉中ナルモ稅關側ニ於テハ總稅務司ノ命令ナルニ依リ已ムヲ得

スト稱シ居レルニ付テハ貴地ニテ嚴重御交渉ノ上結果御同電アリタシ

尙本官ニ於テハ本件決定ヲ見ル迄ノ應急措置トシテ不取敢滿鐵側ニ於テ從來通リノ稅率ニ依リ輸出稅ヲ納メ交渉ノ結果如何ニ依リ追加支拂ヲ必要トスル場合之ニ應スヘキ旨ノ保證ヲ爲シテ通關スルコトニ海關側ト打合セ申ナリ

497 昭和6年5月31日 在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

公使ヨリ南京へ轉報アリタシ

大臣、北平、奉天、關東長官へ轉電シ牛莊、遼陽ニ暗送セリ

昭和6年5月31日 木村滿鉄理事より  
武富（敏彦）通商局長宛（電報）

東北石炭への新輸出税率適用に対し海關へ抗議方

當口領事宛依頼

大 連 5月31日後発  
本 省 5月31日後着

五月三十一日木村發安東營口領事宛電報

御承知ノ通愈六月一日ヨリ撫順、煙台炭ニ新輸出税率適用ノコトトナリタルカ當社ノ實務上船積通關ヲ一日モ停滯セ

シメ難キ實情ナル爲支那側ノ不當課稅ニ對シテハ單ニ其課

稅ノ理由ノ説明ヲ求メ更ニ政府ノ配慮ニ依リ右不當課稅廢

除ノ交渉ヲ待ツ外ナク此際會社ハ已ムヲ得ス不本意乍ラ海關ノ命令通リノ方法ニ依リ奉天側ノ處置ニ反抗スルコトナク輸出ヲ實行スル筈ナリ從來ノ慣行ニ依レハ自然一ヶ月後ニ於テ稅額決定ノ上支拂ヲ要求セラルヘク其際ニ其不當ノ

ナルコトニモアリ貴電末段ノ趣旨ノ覚書ヲ税關長ヨリ取付  
ノ上本件告示承認セラレ差支ナシ

代理公使ヘ轉電セリ

500 昭和6年6月1日 在安東米沢領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

安東における新輸出税の適応に関する应急弁法  
につき海關長と談合同意内容を木村理事宛電報

安 東 6月1日後発  
本 省 6月1日後着

第九一號  
本官發木村理事宛電報

第一號

三十一日附貴電ニ關シ

當地ニテハ驛長トモ協議ノ上本件新輸出税ノ適用ハ絶對ニ  
承認シ難キ旨ヲ明カニスルト共ニ實際上ノ便宜ヨリ問題ノ  
決定ヲ見ル迄ノ應急措置トシテ驛長ニ於テ從來ノ税率ニ依  
リ輸出税ヲ納メ中央ニ於ケル交渉ノ結果萬一追加支拂ヲ必  
要トスルニ至ル場合ニハ之ニ應スヘキ旨ノ保證ヲ爲シテ通

鉄 嶺 6月1日後発  
本 省 6月1日後着

第六號

附屬地外邦商並附屬地在住華商ニ對スル中國側營業稅ノ課  
徵ニ關シテハ條約違反又ハ附屬地行政權ヲ侵害スルモノト  
シテ中國官憲ニ對シ抗議ヲ續ケ來リタル處我方ニ於テ飽迄  
營業稅ヲ納付方拒否スルニ於テハ邦商又ハ附屬地ニ於ケル  
華商ト取引スル華商ハ營業稅施行細則第十二條ニ依リ二重  
ノ營業稅ヲ負擔スルコトトナリ現ニ開原ニ於ケル華商ハ堵  
徵（營業稅二分出產稅三分ノ補徵トシテ從價百分ノ五）ニ  
苦シメラレ其賣上ハ半減セル模様ナリ  
然ルニ遼寧省營業條例第四條ニ「凡ソ省城、安東、營口ノ  
三所ニアリテ卸賣業ヲ營ム者ハ營業稅ノ徵收ヲ免セラルル  
コトヲ得」トノ規定アリ從テ以上三市以外ノ鐵道沿線ニ於  
ケル卸賣業ハ上記三都市ノ卸賣業ニ比シ甚タ不利益ノ立場  
ニ在リ

殊ニ省城ニ近キ當地ノ邦商ハ奉天ノ商人ノ爲ニ漸次其販路  
ヲ蠶食セラレ其爲窮況ニアリタレハトテ我方ハ從來對邦人

營業稅ノ賦課ヲ認メサル建前上營業稅條例第四條ヲ擴張シ

關スルコトニ打合セ右ノ趣旨ニテ本一日「ピール」海關長  
ト談合シタル處「ビ」ハ早速右ノ次第ヲ總稅務司ニ電報ス  
ルト共ニ不取敢右辨法ニ依ルコトニ同意セリ

右妥結後恰モ貴電ニ接シタル次第ナル處御來示ノ方法ハ撫  
順煙臺炭ニ付テハ右輸出稅額決算力一ヶ月ノ後ナルニ依リ  
此際一應新稅ヲ支拂ヒ置クコト必シモ不可ナシトスルモ  
現品通關每ニ納稅スルコトナリ居ル本溪湖炭ニ付テハ事  
實上同方法ニ依ルコト能ハサルノミナラス一時的ニモセヨ  
新稅率ニ依ル輸出稅ノ納付ヲ認ムルコトニ依リ先方ノ不當  
ヲ承認スルカ如キ形トナリ主義上甚タ面白カラスト思考セ  
ラルニ付敢テ前記ノ本官海關長間ニ妥結セル方法ヲ變更  
セサルコトトセリ

右御諒承ヲ請フ  
公使ヨリ南京へ轉送ヲ請フ

501 昭和6年6月1日 在鐵嶺石塚領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

鐵嶺における日本商の營業稅納付方に関し詮  
議ありたきについて

テ沿線一帶ニ均霑セシムルコトヲ主張シ得サル關係ニアリ  
本件對策ニ付特ニ御考慮相成度シ尙我方ニ於テ營業稅ヲ極  
力拒否スルニ於テハ輸出品タル特產物出廻リニモ大ナル影  
響ヲ及ホスヘキハ自明ノ理ニシテ之ヲ以テ生命トスル開原  
ノ如キハ先ツ以テ附屬地華商ノ疲弊トナリ直接間接ニ邦商  
ニ影響シ延テハ開原ノ衰微ヲ層一層ニ誘致スルニ至ルヘシ  
之ヲ要スルニ當地ニ於ケル邦人綿糸布商ニセヨ將又開原ニ  
於ケル物產華商ニセヨ脊ニ腹ハ代ヘラレス何等カノ名目ノ  
下ニ營業稅ヲ納付スルニ至ルヘシト思考セラルル處右納稅  
力附屬地内ニ於テ徵收セラレサル限り之ヲ（脫）スヘキカ  
奉天發閣下宛電報第三二八號ト關聯シ御詮議ヲ請フ

公使ヨリ上海、南京ニ轉報相成度シ  
支、北平、奉天、關東長官ヘ轉電シ哈爾賓、長春、遼陽、  
牛莊、安東、吉林、間島ヘ暗送セリ

東北石炭に対する新輸出稅率適用に関する海關  
側に「アンダープロテスト」付にて通関を認

めさせるよう訓令

本省 6月2日後8時20分発

第三八號（暗、大至急）

安東發本大臣宛電報第七六號及閔東長官發安東宛電報第三  
号ニ関シ

撫順煙台並本溪湖炭ニ對スル輸出稅ヲ滿鉄ヨリ不取敢從來  
通ノ稅率ニ依リ支拂ヒ交渉ノ結果追加支拂ヲ必要トスル場  
合之ニ應スヘキ旨ノ保障ヲナシテ通關セシムルコトハ結局

本件交渉ヲ將來ニ残スコトヽナル次第ナル處右交渉ニ於テ  
中國側ハ關稅協定ヲ楯トシテ飽迄新輸出稅率ノ適用ヲ主張  
シ特殊取極ノ效力ヲ否認スルノ態度ニ出テ爲ニ本件我方主  
張ノ貫徹ヲ困難ナラシムル惧ナントセス旁々此際我方トシ  
テハ中國海關力無條件ニ從來ノ輸出稅率ヲ適用セサル限り

絕對ニ之ヲ承認セサル態度ニ出テ以テ問題ノ即時解決ヲ計  
ルコト必要ト思考セラル尤モ其後安東ニ於テハ一應本電冒  
頭ノ案ニテ妥結済ナル趣ニモアリ暫ク此假トシオクモ少ク  
トモ大連海關ニ關シテハ前記方針ニテ措置致度キニ付貴官  
ハ大連海關ト右趣旨ニ依リ至急御交渉相成若シ海關側ニ於  
テ無條件通關ヲ承諾セサル時ハ海關ヲシテ「アンダープロ

テスト」附ニテ通關ヲ認メシムルコトニ御尽力相成結果固  
用セラルヘク從テ此ノ場合轉口稅適用ノ余地ナキ義ト御承  
知相成度爲念

代理公使、北平、奉天、安東、南京、牛莊、遼陽ニ轉電セ  
リ  
東北石炭に対する安東の妥協弁法をメーズ總  
稅務司が拒否したるに対し從來の稅率額を供  
託し強制通關する旨重光宛電報

503 昭和6年6月2日 在安東米沢領事より

幣原外務大臣宛（電報）

昭和6年6月2日後8時20分発

常原外務大臣宛（電報）

本省 6月2日前着

第九三號

本官發代理公使宛電報

第七一號

往電第六七號ニ關シ

本二日「ビール」本官ヲ來訪シ撫順煙台及本溪湖炭ニ對ス  
ル新稅率適用問題ニ關シ本官發滿鐵木村理事宛電報第一號

ノ辦法ニ對シ總稅務司ヨリ中央政府ノ命ニ依ル趣ヲ以テ之  
ヲ拒否シ新稅率ニヨリ輸出稅ヲ徵收スヘキ旨電訓ニ接シタ

リト述ヘ此上ハ自分トシテ致方ナク從テ從來通リノ稅率ニ  
依ル稅額ノ支拂ハ之力受領ヲ拒絕スヘキニ付安東驛ニ於テ  
事實上實力ヲ以テ通關セラルルノ外ナクハ直ニ自分ヨ

リ總稅務司宛右ノ次第ヲ電報シテ其裁斷ヲ待ツコトトスヘ  
シト言ヘリ依テ本官ハ事情已ムヲ得スト認メ安東驛長ニ對  
シ從來ノ稅率ニ依リ稅ヲ供託シテ通關スヘキ旨指示シ置ケ  
リ就テハ貴公使發外務大臣宛電報第四七七號本件御交渉ニ  
當リテハ以上ノ顛末御含ミ置キ願ヒ度シ  
南京へ轉報相成タシ

外務大臣、北平、奉天、關東廳、木村理事へ轉電セリ  
營口、遼陽へ暗送セリ

~~~~~

尤モ中國側關係官吏ノ一應ノ工場視察及會社ノ生産能力ニ
關スル證明等ハ我方ニ於テ統稅ノ納付ニ正式ニ承認ヲ與フ
ル意味合トナラサル限り必スシモ之ヲ拒否スルヲ要セサル
ニ付前記ノ趣旨御含ノ上貴方ニ於テ適宜御取計相成差支ナ
セサルコトヽ致シタシ

尤モ中國側關係官吏ノ一應ノ工場視察及會社ノ生産能力ニ
關スル證明等ハ我方ニ於テ統稅ノ納付ニ正式ニ承認ヲ與フ
ル意味合トナラサル限り必スシモ之ヲ拒否スルヲ要セサル
ニ付前記ノ趣旨御含ノ上貴方ニ於テ適宜御取計相成差支ナ
セサルコトヽ致シタシ

五 国定稅率および裁厘課稅問題

504 昭和6年6月3日

幣原外務大臣より

在奉天大林總領事宛（電報）

統稅に関する今後の方針につき訓令

二、申告ノ方法ヲ採用スル場合附屬地区内ニ於テ消費セ
シ

ラルヽモノト附属地外ニ於テ消費セラルヽモノトノ区別事
実上容易ナラサルノミナラス前者ハ其ノ数量極メテ少額ナ
ル次第ニモアリ附属地内消費品ニ對スル課税排除ノ建前ハ
勿論維持スヘキモ實際問題トシテハ此際余リ力説セサルコ
トヽ致シタク要ハ中國側税吏ノ附属地内駐在乃至徵税ヲ阻
止スレハ足ル義ト御承知アリタシ

代理公使、北平、南京、遼陽、鐵嶺、長春、安東、牛莊、
關東長官へ轉電シ代理公使ヲシテ上海へ轉報セシム

(欄外記入)

- 一、附屬地外搬出
- 二、申告書提出

505 昭和6年6月3日

幣原外務大臣より
在安東米沢領事宛 (電報)

統税に関する方針決定につき訓令

本省 6月3日午後5時5分発

第四一號(暗)

貴電第六五號ニ關シ

付消費地ヲ限定スルコトナク統税ヲ認メタル經緯モアリ
旁々此ノ際他ノ四品目ニ付テノミ附屬地行政權ニ關聯セ
シムルコトハ問題ヲ複雜化シ大局上面白カラスト存セラ
ル殊ニ本件默認ニ關聯セシメアル大連ノ繁榮ニ最モ重要
ナル關係ヲ有スル二重課税問題解決ノ機會ヲ逸スル虞アル
次第ナリ

三、輸入統税賦課ニ付テハ貴地商工會議所等ヨリ反対ノ陳
情アルモ事情前記ノ通りナルニ付右篤ト御含ミノ上今後
中央ニ於ケル交渉ノ模様如何ニ依リ必要ニ應シテハ當業
者方面ヘノ説示方可然御配慮相成度シ
支、北平、奉天、牛莊、遼陽、長春、鐵嶺、關東廳へ轉
電シ支ヨリ上海、南京へ轉報セシム

506 昭和6年6月(3)日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛 (電報)

関東州消費中國產品は沿岸貿易品として取り扱
われざる限り大連關告示に反対の旨意見具申

奉天發 本省 6月3日後着

一、輸入綿糸ニ付テハ關稅協定中消費稅ヲ課スル旨ノ規定
アリ右ハ現行統稅ノ意ニシテ在華紡績製品ニ對スル統稅
契約ヲ予想シ之トノ均衡上承認シタルモノナルカ輸入ノ
際例外ナク一律ニ徵收セラルヘキモノナルヲ以テ輸入後
附屬地内ニ於テ消費セラルヽモノト虽モ本稅ノ負担ハ已
ムヲ得サルモノナリ (往電第三七号輸入綿糸統稅承認方
稅閏長ニ通知済ナリヤ回電アリタシ)

二、綿糸以外ノ四品目ニ付テハ前記ノ如キ取極ナク特殊消
費稅ト共ニ今日迄中央ニ於テ我方ノ抗議シ來レルモノナ
ルモ當方ノ憂慮セル特殊消費稅ハ實施見合セトナリタル
一方本件統稅ニ付飽ク迄反對ノ態度ヲトルトキハ結局中
國側ニ於テ輸入稅引上ノ措置ニ出ツル虞ナシトセス (其
ノ際我方トシテハ麥粉以外條約上抗議ノ論據ヲ有セサル
コト御承知ノ通リナリ) 旁々代理公使宛第一七七號ノ通
リ条件附ニテ本件默認ノ方針ヲ執ルコトヽ致シタル次第
ナルガ右条件中内地稅免除ニ關スル件ハ附屬地内消費品
ニ關スル限り意味ヲナサブルコト勿論ナルモ輸入後ノ消
費地ノ如何ニ依リ課稅ノ有無ヲ決スルハ統稅ガ貨物稅タ
ル關係上技術上ノ困難ヲ免レス又關稅協定中輸入綿糸ニ

リ告示ニ同意ヲ與ヘサルコトトセリ

冒頭貴電ト共ニ安東、營口へ轉電セリ

公使ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ

支へ轉電セリ

507 昭和6年6月3日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

張福運が撫順煙台炭坑議定書および滿洲五案

件に関する協定は最惠國を規定するのみと主

張について

南京 6月3日後発
本省 6月4日前着

第四九一號
往電第四七七號ニ關シ

三日差當リ堀内ヲシテ張ト會談セシメタル結果左ノ通

(一) 堀内ヨリ撫順煙臺炭坑議定書英譯文ヲ示シ我方トシテハ右議定書ハ滿洲五案件ニ關スル協約ト一体ヲ爲シ日露戰後ニ於ケル滿洲ノ新事態ヲ定メタルモノニシテ強キ歴史的背景ヲ有シ我方ハ議定書ニ依リ中國側ニ對シ幾多ノ反対給付

ヲ約シ之力代償トシテ一頓一錢ノ輸出稅ヲ協定シ且ツ之等特別ノ協定ハ六十年間有效ナルコトヲ確約セルモノナレハ關稅自主權承認ノ一般條約ニ依リ何等影響ヲ受クル筋合ニアラストノ解釋ヲ取り居リ而モ客年中國側力滿洲ニ於テ輸出附加稅ヲ實施シタルトキモ稅關ニ於テハ我方前記主張ヲ認メ撫順本溪湖炭ニ對シテハ附加稅ヲ免除シタル經緯モアリ中國側ニ於テモ右我方ト同様ノ意見ヲ有スルモノト信シ居ルヲ以テ本件石炭ニ對スル新稅率ノ適用ハ絶對ニ認メ難キ次第ナリト説明シタル處

(二) 張ハ自分ハ本件石炭ノ輸出稅ハ前記滿洲五案件ニ關スル協約第三條丙ニ依リ單ニ最惠國待遇ヲ保障スルモノナレハ總テノ石炭ニ對シ一律ニ適用スル限り議定書ニ依ル一頓一錢ノ稅率ハ之ヲ引上クル自由ヲ有スルモノト解釋スルモノニシテ然ラストセハ他國トノ間ニ最惠國待遇ヲ約シ居ル關係上中國ハ石炭ニ付關稅自主ヲ有セサルコトナリ關稅條約ノ規定ニ反ス又客年稅關側ノ取扱ハ自分ノ關知セサル處ナルカ本件ニ付テハ何等辦法ナキヤト述ヘタルヲ以テ

(三) 堀内ヨリ前記五案件ニ關スル協約第三條最惠稅率ノ保障ハ議定書第二條ト一体ヲ爲シテ始メテ意義アルモノニシテ

議定書ニ依リ一頓一「メイス」ノ輸出稅ヲ特定スルモノ中國側力他所ノ石炭ニ對シ之ヨリモ低キ稅率ヲ與ヘラル時ハ之レニ均霑スル事ヲ定メ即チ本邦石炭ノ輸出稅ハ一頓一

「メイス」又ハ夫レ以下ナル事ヲ定ムルモノニシテ貴下ノ云ハルルカ如ク右第三條ノ規程ニ依リ何時ニテモ一頓一錢

ノ稅率ヲ引上ケ得ルト解スル時ハ議定書ノ規定ハ全然無意

義トナルカ我方トシテハ斯ノ如キ無意義ノ規定ノ代償トシ

テ幾多ノ反対給付ヲ約スル考ヘラレス又中國ニ於テ

ハ自主權條約ニ拘ハラス現ニ特別取極ニ依リ或種鐵道用ノ材料ノ輸入稅ヲ免除シ居ルニ鑑ミ貴下力本件ニ關シ前記我

方ノ解釋ヲ採用セラルモ内外ヨリ何等ノ批難モ起ラサル可ク又稅關側ノ措置ハ關知セスト云ハルモ右ハ貴方内部

ノ關係ニシテ我方トシテハ貴下力之ニ同意セラレタルモノト解シ居ル次第ナルニ付本件ニ關スル我方ノ主張ハ確定的ニシテ何等辦法採用ノ餘地ナシト述ヘタルニ

四張ハ右貴方ノ解釋ヲ認ムル事ハ自分ノ權限外ノ事ニモアリ又本件貴方ノ主張ヲ容ル時ハ開闢其他中國人當業者ノ意向ニモ鑑ミ實業部ニ於テ強キ反対モアルニ付之等ノ事態ト共ニ前記貴方ノ立場ヲ證明シテ部長ノ決定ヲ待ツヨリ

ト解シ居ル次第ナルニ付本件ニ關スル我方ノ主張ハ確定的ニシテ何等辦法採用ノ餘地ナシト述ヘタルニ

三日堀内張福運三面會ノ節新輸出稅及轉口稅ノ大連及香港ニ對スル適用方ニ付上海稅關告示三(上海發閣下宛電報第二五七號三參照)前段ニ於テ關東州内消費ノ爲大連ニ輸出セラルル土貨ニ對シ新稅率ヲ適用ストアリ香港ニ付同様ノ規定ナク又後段ニ於テノ開港場ヨリ大連經由滿洲各地ニ

508 昭和6年6月3日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

大連は転口稅の適用を受け船荷証券を必要とするも香港は純然たる外国なるため不適用との張福運言明について

南京 6月3日後発
本省 6月4日前着

第四九六號

三日堀内張福運三面會ノ節新輸出稅及轉口稅ノ大連及香港ニ對スル適用方ニ付上海稅關告示三(上海發閣下宛電報第二五七號三參照)前段ニ於テ關東州内消費ノ爲大連ニ輸出セラルル土貨ニ對シ新稅率ヲ適用ストアリ香港ニ付同様ノ規定ナク又後段ニ於テノ開港場ヨリ大連經由滿洲各地ニ

五 国定税率および裁厘課税問題

- 仕向ケラルル土貨カ轉口稅ノ適用ヲ受クルニハ通シ船荷證券ヲ必要トスルニ拘ラス一ノ開港場ヨリ香港經由他ノ開港場ニ仕向ケラルル土貨ハ之ヲ要セサルハ如何ナル事情ニ依ルモノナリヤヲ質シタルニ張ハ前者ハ香港ハ純然タル外國ナレハ特ニ明記セストモ新稅率適用ハ原則上當然ノコトナルヘク又後者ニ付テハ現在土貨カ一ノ開港ヨリ香港經由ニ他ノ開港ニ仕向ケラルル場合土貨トシテノ取扱ヲ受クルニハ通シ船荷證券ヲ要シ之ナキ場合ニハ到着港ニテ外國貨物トシテ取扱ハルモノナレハ特ニ大連經由ノ場合ノ如ク右ノ條件ヲ明記スル必要ナキ次第ナリト述ヘ居タル趣ナリ北平、奉天、關東長官へ轉電シ南京、上海へ轉報セリ
- 509 昭和6年6月6日 幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）
- 東北石炭に対する新輸出稅率適用は断じて承認し難き旨を説明の上從來の稅率による通関交渉方訓令
- 本省 6月6日後7時41分発
- 第一九一號（暗、至急）
- 確ニシ置カルル様致度
北平、奉天、安東、牛莊、遼陽、南京、閔東廳へ轉電セリ
上海へ轉報アリタシ
- 510 昭和6年6月6日 塙本関東長官より
幣原外務大臣宛（電報）
- 現行稅率にて通關方を大連稅關に承諾させる」と困難につき當面の方策に關し意見具申
- 第四九號（至急）
- 貴電第三八號ニ關シ
- 現行稅率ヲ絕對ニ維持スル態度ヲ以テ支那側ニ臨ミ問題ヲ即時解決セラル貴省ノ御方針ナル趣ノ處最近ノ趨勢ニ鑑ミ至極御尤ノ儀ト存セラル處前電ノ通大連稅關ヲシテ之ヲ承諾セシムルコト殆ト困難ナル事情アリ就テハ稅關トモ交渉スヘキモ甚タ望ミ薄キニ付豫メ
- (一) 稅關手續ヲ踏マス強制通關スルカ
- (二) 稅關長ニ對シ當廳並ニ民間輿論ニ依リ精神的強壓ヲ加ヘ

貴電第四九一號ニ關シ

- 木村理事發通商局長宛電報第五號及關東長官來電第四六號等ニテ御承知ノ通大連ノ事態ハ逼迫シ來リ本件一刻モ速力ニ解決ヲ要スル事情ニアル處前記貴電堀内張福運間ノ會談ニ依リ我方主張ハ十分先方に徹底セシメアル次第ニ付此上ハ至急宋子文等ニ對シ近時中國側ハ新輸出入稅率ノ實施ニ伴フ種々ノ変革ヲ急激ニ實行シテアルモ我方ニ於テハ出来ル限りノ好意的態度ヲ以テ之ニ應ジツヽアリ特ニ往電第一七七號申進置ノ通統稅問題ニ付テハ條約上ノ困難アルニ不拘大局ニ善處スルノ方針ヲ以テ一部反對ヲモ押シ切り彼我利害ノ圓滿ナル調節ヲ計ルノ方針ニ出デ居ルニ不拘中國側ガ滿蒙ニ關スル我方トノ特殊協定ヲ無視シテ不當課稅ヲ一方的ニ強行セントスルガ如キハ帝國政府トシテ断ジテ承認シ難キ所ナル旨ヲ説明セラレニ重課稅、統稅問題ヲモ此際併セテ一括妥結ノ方針ノ下ニ不取敢本件石炭ニ付從來ノ稅率ニ依ル通關方稅關ニ訓令スル様御交渉相成度尚滿鐵側ハ至急出荷ヲスル爲前記木村理事來電ノ如キ措置ヲ執リタル次第ナルヘキモ本件ハ我力滿蒙權益ノ根本ニ關係アル問題ニ付帝國政府ノ特ニ重視スル所ナルコトハ此際特ニ明
- (一) 時滿鐵炭ニ大連輸出ヲ見合セシムルカ
- (四) 夫レ共滿鐵炭輸出申告書ニ稅關ノ記入スル新稅率ニ對シテハ當廳ハ素知ラヌ顏ニテ通シ稅金清算期タル月末ニ至リ當廳ヨリ絕對不承認ノ旨ヲ稅關ニ申入レ滿鐵ノ支拂ヲ阻止スル事トスルカ
- 差向ノ措置方何分ノ御電訓ヲ請フ
- 公使ヨリ上海、南京へ轉報ヲ請フ
- 公使、奉天、北平、營口、安東、遼陽ニ轉電セリ
- 511 昭和6年6月6日 塙本関東長官より
幣原外務大臣宛（電報）
- 通關に關する方策の注意点に關し参考まで說明について
- 本省 6月6日後発
- 大連 6月6日後発
- 第五〇號（至急）
- 本省 6月6日後発
- 大連 6月6日後発

513 昭和6年6月8日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

支、北平、南京、吉林、哈爾賓、安東、牛莊へ轉電シ遼陽、
鐵嶺、長春、關東長官へ暗送セリ

御参考迄右卑見電稟ス

業ニ至リテハ沿線到ル處新礦業條例ヲ攝トシテ壓迫ヲ加ヘ
居ル實狀ナルヲ以テ今回ノ輪出稅問題ニ關シ我政府ノ方
針讓歩的ナルニ於テハ延テ當地方政府ノ方針ニモ惡影響ヲ
與フルニ至ルコト疑ヲ容レス

上述ノ事態ヨリ見テ中國政府ニ對スル本件交渉ハ飽ク迄明
治四十四年ノ協定維持ヲ支持セラレントコトヲ希望シテ已マ

ス而シテ交渉中ノ現地便法トシテハ現在安東ニ於テ實行シ

居ル舊輸出稅供託ニ依ル強制通關ヲ最モ機宜ヲ得タルモノ
トナシ大連ニ於テモ之ニ倣ハシメ營口ニ於テハ事情ノ許ス

限り右ノ例ニ依ラシムルコトト致度ク通商局長宛木村理事
發電報第五號ノ如ク假令形式上ノ申告ナリトスルモ新稅率
ヲ認ムルカ如キ態度ハ滿鐵ノ弱味ヲ見透サシムルコトトナ
ルヲ以テ絕對避ケシムルコト得策ナルヤニ思考ス

尙宋子文病氣モ大分快方今夜南京ニ歸ル由本日中ニ右覺書
ヲ送リ本件促進ヲ計ル豫定ナリ

他方往電第四九一號ニ引續キ堀内ヨリ張署長ニ對シ督促ス
ル爲八日更ニ面會セシメ前電我方ノ立場ヲ繰返シタル上詳
細部長ニ報告方更ニ申込マシメ置キタリ其節張ハ前記往電

第一、第二ノ措置ヲ執ルニ於テハ積出炭ノ仕向地ノ何レノ

土地タルヲ問ハス(一)早晚積取船自身又ハ所屬會社ノ他船ノ
支那港ニ於ケル抑留等報復手段ヲ受クル虞アルコト(二)支那
向荷物ノ荷揚ケ搬運ノ官憲又ハ民衆運動等ニ依リ妨害ヲ受

クル虞アルコト(三)輸送ニ先立チ積取船力政府又ハ滿鐵ニ追
テ差起ルヘキ損害ヲ保障スルニ非サル限り後難ヲ恐レ積取
ヲ肯ンセサル爲輸送困難ニ陥ル虞アルコト等我方方針貫徹
ノ爲ニハ廳テ之等ノ諸困難ニ直面シ之ヲ押シ切ルノ用意ア
ルコト必要トナルヘシ右ハ既ニ貴省ニ於テ御政究濟ノコト
トハ存スルモ爲念

公使ヨリ上海、南京へ轉報ヲ請フ

公使、北平、奉天、安東、營口、遼陽へ轉電セリ

昭和6年6月6日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

東北石炭に対する新輸出稅賦課問題に關し明

治四十四年の協定維持方につき意見具申

奉天 6月6日後発
本省 6月7日前着

撫順煙臺及本溪炭ニ對スル新輸出稅賦課問題ニ關シテハ關
東長官及安東、營口、遼陽ヨリ閣下宛又木村滿鐵理事ヨリ
通商局長宛夫々電報ノ次第アリ滿鐵ニ對シテハ通商局長ヨ
リ目下折角中央ニ於テ交渉中ノ折柄暫ク成行ヲ見ル様機宜
ノ指令アリ他方代理公使ニ於テ中央政府ト解決方交渉中ノ
處申上ケル迄モナク本件石炭ノ輸出稅ハ滿洲五案件ニ關ス
ル特殊協定ニ基クモノニシテ今回ノ中央側ノ主張ヲ容ルル
ハ彼我協定ニ依リ確立シ居ル權益讓歩ノ端ヲ開クコトトナ
リ今後我方カ經濟上ノ必要ヨリ事ナキヲ希望スルノ弱點ニ
付ケ込み中國側ノ當方面ニ於ケル主張ハ漸次横暴ヲ加ヘ止
マリ知ルヘカラサルニ至ルノ虞アリ

最近數ヶ月ノ(脱?)徵スルニ中國政府力旅大租借地及滿
鐵ニ對シ計畫的ニ而モ不法ニ經濟的壓迫ヲ加ヘ始メタルコ
ト疑ヲ容レス東北地方政府トシテハ接壤地域タル機微ノ關
係ヨリシテ未タ我力附屬地等ニ對シ明白ニ鋒銳ヲ現ハスニ
至ラスト雖モ營業稅出產稅及統稅等ノ賦課ニ當リテハ商人
ノ弱味ニ付ケ込み納稅ヲ強要スルノミ力動モスレハ附屬地
ニ對シテスラ魔手ヲ延ヘソトシツツアリ又邦人關係鑑山事

第三四八號

第五一二號

貴電第一九一號ニ關シ

六月八日宋財政部長ニ上海ニテ會見滿洲石炭輸出稅問題ニ
付本使ヨリ右ニ關シテハ法律上ノ點等ヲモ充分考究シタル
力特別ノ取極ヲ變更セサル以上新稅適用ノ出來サル所以ヲ
說キスルコトハ速ニ中止スルノ可ナル次第ヲ述ヘタルニ部
長ハ右ハ今日迄自分ノ關知セサリン所ナルニ付事態ヲ詳記
シタル「メモ」ヲ貰ヒ度ク其上十分考量シ見ルヘシトノコ
トナリシカ本使ハ事態ノ重要ナル點及我方ノ確乎タル態度
ヲ十分印象セシメ置キタリ

尙宋子文病氣モ大分快方今夜南京ニ歸ル由本日中ニ右覺書
ヲ送リ本件促進ヲ計ル豫定ナリ

末段ニ依リ部長ニ提出セル報告書ハ部長突然ノ出發及引續キ病氣ノ爲或ハ閲覽シ居ラサルヤモ知レサルニ付更ニ詳細報告スヘシト述ヘタル趣ナリ

南京、牛莊、奉天、北平、遼陽、關東長官へ轉電シ上海へ暗送セリ

~~~~~

514 昭和6年6月8日 中谷関東府警務局長より

永井外務次官宛

堀切拓務次官宛

### 東北の石炭に対する新輸出税適用に関する満鉄・

#### 海関間の交渉経緯について

(6月12日接受)

關機高第五一六六號

昭和六年六月八日

關東廳警務局長

拓務次官殿

外務次官殿

滿鐵石炭ノ新輸出税適用ニ對スル滿鐵對海關ノ交渉經緯

(六月六日關機高第五一二七號參照)

一、首題ノ件ニ關シテハ對號既報ノ通リナルカ本月二日午後三時海關ヨリ總稅務司移牒ニ依ル中國政府ノ命ナ

四、前記實力通關ニ件フ當然ノ問題トシテ該輸出税ヲ一時

ノ方法ニ依ルモノト思料セラル

供託スヘク朝鮮銀行側ニ對シ驛長ヨリ交渉中ナリ

以上

等ノ立場ヲ困難ナラシムルヲ避ケタル爲ニシテ而モ既ニ鐵道材料ノ免稅ヲ特記スルニ於テハ中國側本件擔當者ニ對シテ實際上右附加稅免除ニ言及スルト同一ノ效果ヲ齎シ得ルモノト思考セラレタルカ爲ナリ右御含迄

本信寫送付先 北平 奉天 上海 南京 安東 牛莊

關東廳

東北の石炭に対する新輸出税適用方に関する宋

財政部長に覚書交付について

機密公第二五一號

昭和六年六月九日

(6月16日接受)

JAPANESE LEGATION IN CHINA,

Shanghai, June 8, 1931.

My dear Mr. Soong,

I am sending herewith the memorandum on the question of export duty on coal which I promised you this morning during our conversation.

The question is the one affecting the Japanese interest in Manchuria which the Japanese Government view as extremely important and fundamental; and I wish to invite your most careful and urgent consideration for a speedy solution.

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

撫順本溪湖炭輸出稅ニ關スル件

本件ニ關シ宋財政部長ト會談ノ次第ハ六月八日電報ノ通りナル處同日別紙寫ノ如キ覺書ヲ同部長ニ交付シ置キタルニ付委細別紙ニ就キ御承知相成度シ

追テ右覺書第三項末段ニ於テ鐵道材料ノ輸入稅免除ヲ特記シ中國側カ客年來本件石炭ニ對スル輸出附加稅ヲ免除シ居ル點ニ言及セサルハ既ニ電報濟ノ如ク之ニ依リ總稅務司

リトテ本月一日其ノ成立ヲ見タル滿鐵對海關ノ協定(抗議附通關ハ之レヲ認メス隨テ新稅率ニ依リ賦課徵収スヘキ旨通牒シ來レルヲ以テ滿鐵側ニ於テハ直ニ領事ニ此旨報告スルト共ニ善後策協議中ナルカ

一、驛長等ニ於テハ石炭ニ對スル特別協定ノ存スル以上一方的ニ之ヲ破棄シテ新稅率ニ依ル納稅ハ到底之ヲ應諾スルコト不可能ナルヲ以テ實力輸出ノ如キ强硬ナル意見ヲ有シ居レリ

三、滿鐵安東驛側ニ於テハ關稅問題紛擾ノ爲メニ石炭ノ輸送ヲ停止スルコトハ絕對不可能ノ關係ニアルヲ以テ三日領事ト打合セノ上本社ニモ報告シ所謂實力通關ヲナスノ餘儀無キコトトナリ同日午前十一時五十分貨物列車ニ十二輛(撫順炭)午後一時三十分發貨物列車ニ四

輛(撫順炭)ヲ何レモ所定ノ輸出免狀無クシテ發送シタルカ現場稅關吏ハ現場ニ臨シ單ニ貨車番號及積載重量ヲ記帳スルニ止マリ何等積極的行動ニ出テ斯平穩裡ニ所謂實力通關ヲ敢行シタルカ今後モ本件解決迄ハ此ノ方法ニ依ルモノト思料セラル

661

Yours sincerely,

Signed : M. Shigemitsu.

Strictly Confidential.

Relating to the Export duty on the

Fushun and Penhsihu Coal.

(1) The coal produced in Manchuria through the Japanese enterprise has heretofore paid an export duty of one mace per ton in conformity with the special agreements between Japan and China. Such coal has never been subjected to any higher rate of duty than the aforesaid amount in spite of changes in the Chinese general tariff. Japanese exporters have recently been asked, without any previous notification, by the Customs authorities in Manchuria to pay the rate specified in the new Chinese export tariff which was put into force on June 1, namely : three mace four candareen (H. K. 0.34) per ton. They declined to pay the new rate as

shall be, effective for 60 years, one mace per ton, and further guarantees that whenever the rates of export duty on the coal of other mines become lower than the above mentioned rate the same favour shall be extended to the Japanese coal in question.

(3) These special arrangements were made to serve special purposes and are not to be affected in any way by the general agreement on tariff autonomy, so long as it has no explicit provisions to the contrary.

The interpretation that, as Article 3 of the above Agreement provides only for the lowest rates of duty leviable on the coal in question, the rate of one mace per ton as specified in the Protocol may be changed by China at any time after her recovery of tariff autonomy, is quite untenable in view of the fact that the Protocol constitutes the supplement of and give effect to the Agreement as is explained above. It seems that China has not levied, after her recovery of tariff autonomy, import duty on the imported foreign railway materials to be used by

it is contrary to the special agreements referred to above.

(2) The rate of export duty leviable on the Fushun coal is specified as one mace per ton by Article 2 of the Protocol Relating to the Working of the Fushun and Yentai Collieries, signed between Japan and China in 1911. (As to the rate of export duty on the Penhsihu coal there is a similar provision in the Agreement of 1910 between the Chinese Government and Messrs. Okura & Co.) The above Protocol as is seen in its Preamble, was made as supplement of and to give effect to the stipulations of Article 3 of the Agreement for the Settlement of the Five Outstanding Questions in Manchuria signed between Japan and China in 1909, which provides that China shall apply to the exportation of the coal in question the lowest rates of duty applicable to coal of any other mines in China. It is evident from the above provisions that China engages, among others, that the rate of export duty leviable on the Fushun coal

certain railways in China which enjoy, by former special agreements, the privilege of their imported material being exempted from the import duty.  
~~~~~

516

監視の件の取扱い 諸本関東長官から
諸原外務大臣宛（電報）

今回の新輸出税を輸入税として課す事に關する
其後輸出税を課さない事に關する

關東庁 発

本省 6月19日前着

第五回號

貴電第510號（關）

一、大連關ノ實際ノ取扱い依レバ之關東州内ニ取土貨ニ付
トハ移入ノ際陸上申告書ヲ海關ニ提出セシメ（假規則第
七條）積出港海關ヲ直接大連關宛送付セル副申請書ト照
合シ記載事項符合スル時ハ無検査ノ儘貨物ヲ荷受人ニ引取
ハシム尤一旦引取りタル上後日リ至リ右貨物ヲ奥地へ輸送
ハ申告ヲナシ時ベ移入土貨タルノモノノ立證困難ナリトノ理
由ニ依リナリ對シ輸出稅額ヲ輸入稅トシテ徵收ノ旨レリ右

ニ付テハ當初ハ輸入税ヲ徵收シ居タルモノノ如ク何時頃ヨリ輸出税徵收ニ變更セラレタルカ詳カナラス且輸入税徵收

ノコトハ明治四十一年稅關告示アルモ關東廳ノ同意ヲ得タ

ル證據ナク何レニセヨ大連關ノ支那關稅行政權行使ハ彼我

ノ協定ニ基クモノナルニ鑑ミ一方的ニ斯ノ如キ規定ヲ設ク

ルハ協定ノ範圍ヲ超ヘタルモノト言ハサルヘカラス

(口) 奧地行土貨ニ付テハ(一)移入ノ際聯絡輸入申告書ヲ海關ニ

提出セシメ原包裝ノ儘檢查ヲ受クルカ(二)(イ)荷物ヲ引取ル

際原包裝ノ儘海關檢查書ノ發給ヲ受ケ發送ノ^(備註)新規再輸入申

告書ヲ提出セシメ居レリ

二、大連經由支那通商港宛移出土貨ニ對シテハ舊制度ノ下

ニ於テハ移入地ニ於テ沿岸貿易品ナリトノ見地ヨリ現ニ稅

關長限リノ計ヒニテ轉口稅ヲ課シ居レリ

公使ヨリ南京、上海へ轉報アリタシ

支、奉天、遼陽、安東ニ轉電セリ

編注 「新規再」の箇所を「際新規」に書き込み訂正あり。

貴官發外務大臣宛電報第九九號ニ關シ
統稅ニ關スル同貴電第七六號I、G、ノ訓令ハ同貴電第八
六號「ピール」宛ノ訓令ニ依リ滿洲ニ關スル限り海關ハ統
稅ノ徵收ニ關與セサルコトニ訂正セラレ居ルモ右貴電貴官
ノ質問ニ對シ「ピ」ハ附屬地外本館ニ於テハ統稅納付濟證
ノ提示無キ貨物ヲ「レリーズ」スル能ハスト答ヘ居ル處
「ピ」ニ於テ前記I、Gノ修正ニ拘ラス其裁量ニ依リ右ノ
如キ取扱ヲナスハ如何ナル事情ニ依ルモノナリヤ必要アラ
ハ御問合セノ上御回電アリタシ

外務大臣、奉天、牛莊、關東長官ニ轉電シ上海、南京へ轉

昭和六年六月十七日 永井外務次官他宛

大連港における中國製品の進出狀況報告
關機高第五四三九號
(6月22日接受)
昭和六年六月十七日
關東廳警務局長

報セリ

518
昭和6年6月17日 中谷關東廳警務局長より
永井外務次官他宛

五 国定税率および裁厘課稅問題

(欄外記入一)

中國ニ於ケル外貨排斥國貨提倡運動ノ普及ニ伴フ國內產業
ノ勃興ト共ニ日本其他外國貨物ノ輸入量ハ漸減シ引テ中國
製品ノ滿洲市場ニ於ケル勢力ハ擴大セントスルノ傾向アリ

大連港ニ於ケル中國製品ノ進出狀況

今試ニ大連港輸入貨物頓數ヲ日本其他諸外國ト對比スル時
ハ明ニ之ヲ裏書スルモノアリ昭和五年度輸入貨物頓數ハ一、
○四七、七五五頓ニシテ之カ仕出國別ヲ見ルニ日本、中國、
米國、歐州、其他ノ順位トナリ日本ノ對滿貿易ノ如何ニ重
要性ヲ帶ヒ居ルカヲ物語リ居レリ然シテ之等ノ增減消長ノ
跡ヲ國別ニ眺ムレハ昭和五年度ハ日本四八八、八二七頓、
中國三九一、六四二頓、米國一四二、三八八頓、歐州九七、
一二四頓、其他諸國二七、七七五頓ニシテ之ヲ昭和三年度
ノ日本七二五、五四四、中國三二八、六四四、米國二〇六、
○四五、歐州一五二、七六九、其他諸國三九、五九二頓ニ
比較スルトキハ中國貨物ノ侵出狀態ヲ如實ニ物語リ居レリ
以上ノ如ク日本始メ諸外國ノ輸入減ニ對シ中國ハ相當數ノ
增加ヲ見セ本年ニ入りテハ更ニ之ノ傾向濃厚トナリ上海、
天津方面ヨリノ輸入貨物ノ漸増ヲ來シツツアル模様ナル力
其ノ成行ハ相當注目セラレツツアリ

(欄外記入二)

最近ニ於ケル本邦ノ對滿貿易減退率大ナル一原因カト存ズ
(欄外記入二)

517 昭和6年6月11日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛(電報)

付屬地外の稅關では統稅納付濟証を必要とす
る旨のピールの態度について調査回示方稟請

上海 6月11日後発
本省 6月11日後着

第五三四號

本官發安東宛電報

第二號

貴官發外務大臣宛電報第九九號ニ關シ

564

在支邦人紡績等ノ製品ハ中国品ノ内ニ入レアルヘシ
對支貿易ノ減退ハ頗る數關係ニ依リ一般的ナルヘシ
(欄外記入三)

銀價低落ニ伴フ金銀爲替動搖ニ因リテ生スル損害ヲ回避セム
力爲満洲華商ハ其ノ派遣員タル川口番人ノ邦品直接買付(代
金決済ハ本店ヨリ見レハ金爲替ノ買入レトナル)ヲ中止シ
且上海天津等ヘ輸入サレ民國弗ニテ卸値ヲ決セラレ銀ヲ以テ
決済シ得ル邦品ノ購入ヲ昨年中ヨリ開始シ居レリ右ハ貿易統
計上ヨリ見レハ大連港ノ中國品輸入トナルヲ以テ邦品ノ対満
輸出力實際上激減セリトノ説ハ當ラス

519

昭和6年6月18日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

東北石炭輸出税問題を外交部に移して交渉し日中
間の感情融和を計ることで宋子文と同意について
第五四〇號

南京 6月18日後発
本省 6月19日前着

往電第五一二號ニ關シ

ナル故障ヲ除去スルコトニ努力シ満洲ニ於ケル双方感情ノ
疏通ニ力ヲ盡ス事ハ急務ナルヘク右ニ關シテハ特ニ民國側
當局者ノ努力ニ俟ツモノ多シト考フ
尙石炭問題ニ付テハ外交部長ト交渉スルコトニ付テハ異存
ナキモ右交渉繼續中ハ現在新税率ニ依ルヘキ旨ノ海關ニ對
スル命令ヲ一時差止メラレタシト述ヘ此點ニ付問答ヲ重ネ
タルカ財政部長ハ現ニ日本側ハ抗議付ニテ新輸出税ヲ收メ
居ル狀況ナレハ條約力片付ク迄現狀ノ儘トシ置キ解決後
其處分方ヲ決定シテモ差支ヘナキモノト思フ同様ノ例ハ嘗
テ青島ニ於テモ輸出附加税ニ付之ヲ見タル處ナリトノ趣旨
ヲ述ヘタルニ付本官ハ抗議付ニテ申告シ居ルコトハ輸出手
續ヲ完了スル爲ニ必要已ムヲ得サルニ出タルモノニシテ

輸出税ノ實際ノ支拂ハ月末勘定トナリ居ル處月末ニ新税率

ニ依ル輸出税ヲ假リニ支拂ヒ置クト言フ問題ハ起ラサル筈ナリ
テ新税率ヲ假リニ支拂ヒ置クト言フ問題ハ起ラサル筈ナリ
ト述ヘタルニ宋ハ大連ニ於テ民國側トシテ稅額ヲ強制的ニ
取立ツル方法ハナシ若シ日本側ニ於テ支拂フ意向ナク

ハ結局泣寝入リトスルヨリ外ナシト自分ハ考フ何レニスル
モ自分ニ於テ日華ノ間ニ感情ヲ激成スルカ如キコトハ毫モ

滿洲石炭輸出税問題ニ付テハ約ノ如ク十七日南京ニテ宋子
文ニ面會シ義ニ本官ヨリ提出シ置キタル覺書(九日附機密
公第三五一號拙信送付濟)ニ付考量ノ結果如何ヲ尋ネタル
處宋ハ自分ハ日本側力本件ニ重キヲ置カルル趣旨ヲ充分諒
解セリ自分トシテハ圓滿解決ヲ希望スル次第ナル力事柄自
体ニ於テ條約上ノ問題ナレハ外交部長ノ意見ニヨリテ決ス
ルヨリ外ナシ從テ外交部長トノ間ニ條約上ノ解釋ヲ決定シ
貴ヒ度ク其上ハ自分ハ右決定ニ從ヒテ措置スルコトニ何等
異存ナシト述ヘ更ニ聯合通信ハ本件ニ付テ日本政府ハ貴官
ヲ通シ自分ニ嚴重ナル抗議ヲ提出セル旨ヲ報シ居ル旨ヲ指
摘シ右ハ中國新聞ニモ反響シ宋ノ立場ヲ甚シク困難ナラン
メ問題ヲ宋ノ裁量ニテ決定シ兼ヌルカ如キ口吻ヲ洩シタリ
右ニ對シ本官ハ日本新聞通信員ノ「コントロール」ハ日本
官邊ニ於テモ甚タ困難トスル處ナルハ御承知ノ通ナル力要
スルニ本件ハ満洲ニ於ケル日本ノ權益ノ根本ニ觸ル問題
ニテ満洲方面ニテハ其成行ハ重大視セラレ居レルカ同地方
ニ於テハ之ニ加フルニ其他種々ノ不愉快ナル問題カ日華
間ニ頻發シ居リ其結果益々双方ノ感情高マリツツアリ右聯
合通信モ其反映ト思ハルルカ何レニシテモ双方ニ於テ無益
合通信モ其反映ト思ハルルカ何レニシテモ双方ニ於テ無益

520

昭和6年6月18日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

王正廷關稅自主權回復後中國國內で區別的な稅率
を認めるることは絶対不可能と自説を固持について

南京 6月18日後発
本省 6月19日前着

(1) 第五四一號
往電第五四〇號ニ關シ

十七日午后王外交部長ニ會見シ本件ニ關スル我方ノ主張ヲ述ヘタル處王部長ハ右日本側ノ主張ハ全然承服シ能ハサル所ナリ既ニ關稅自主權ヲ回復シタル以上關稅ニ關スル限り關稅協定ニ何等特別ノ規定ナクハ民國側ニ於テ全國一律ノ稅率ヲ適用スルコトハ其自由ニ屬スル處ナリ既ニ關稅協定中ニハ特殊品目ニ對スル稅率ノ協定等特別ノ制限規定アルニモ拘ラス石炭輸出稅ノ問題ニ付テハ何等除外規定ナシ從テ右ニ付テハ民國ニ於テ完全ナル自由ヲ有スルモノトス日本側ニ對シテノミ舊稅率ヲ適用スルカ如キハ他國側ノ經營ニ係ル石炭ノ輸出ニ對シ差別的待遇ヲ與フルコトナル次第ナルカ他ノ石炭業者カ總テ新稅率ニ依リ輸出稅ヲ支拂フコトヲ承認シ居ル此際民國政府トシテハ斯様ノ差別的待遇ヲ爲スコトヲ得ストノ趣旨ヲ以テ强硬ニ反対セリ

二、本使ハ之ニ對シ條約論ヨリ見テ貴説ハ全然首肯シ難キ處ナリ關稅協定ハ中國ニ關稅自主權ヲ認メ居レトモ之ニ依リ特別ノ事情ニ依リ成立セル特別ノ取極迄ヲ廢棄スル次第ニ非ス即チ右ハ一般的稅率ノ問題ニシテ特殊ノ權益ニ觸ル

ナリトテ自説ヲ固持セリ

之ニ對シ本官ハ滿洲ニ於ケル日本ノ權益ニ關スルモノナリシ譯ナルカ若シ民國ノ他ノ部分ニ於テ日本カ同様ノ特別取極ヲ有セリト假定セハ無論之ニ付テモ同様ノ主張ヲ爲ス譯ナリ今日此席上第一回ノ議論ニテ法律論ヲ決定スルコトハ困難ト思フニ付自分モ折角主張ノ骨子ヲ覺書ニシテ持參セルニ付篤ト法律上ノ關係ヲ冷靜ニ研究シ貫ヒタント述ヘタルニ王モ右ニハ異存ナク成ルヘク速ニ之ニ對シ回答ヲ爲スコトトスヘシト答ヘタリ

前電通轉電セリ

521 昭和6年6月18日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

東北石炭輸出稅問題の解決困難につき対応策請訓

別電 六月十八日發在中國重光臨時代理公使より

ルモノニ非ス加之満洲ニ於ケル日本側經營ノ石炭ノ輸出稅ヲ規定シ居ル特別ノ取極ハ種々ノ *quid pro quo* ^(アマ) ノ上ニ立チテ規定セラレタル取極ニシテ右ハ双方ノ合意ヲ以テ變更セラレサル限り

其效力ヲ減殺サルヘキモノニアラス貴下ハ他ノ石炭經營者

力新稅率ヲ承認セリト言ハルルモ（右ハ最近開灘炭礦ニ於テ利權回収熱ヲ素トシタル種々ノ問題起リタルカ右ヲ解決スル際ノ一ノ項目トシテ新輸出稅率ノ承認アリタルモノト思ハル）右ハ他ノ經營者ノ自由意思ニ基クモノニシテ何等

日本トノ間ノ特別取極ヲ左右スルコトナシ之等他國側ニ對シ差別的待遇ヲ與フルヤ否ヤノ問題ハ民國政府ノ考慮スヘキコトニ屬シ少クトモ日本トノ間ニ前述ノ如キ特別協定ノ存續スル限り日本側ニ對シテハ民國政府ハ該取極ノ内容ヲ尊重スル義務現存スル次第ナリ本件ハ石炭ノ輸出ニ觸

事項ナルカ同時ニ満洲ニ於ケル日本ノ既得權益ノ根柢ニ觸ルル問題ニシテ日本ニ於テハ重要視シ居ル次第ナリト述ヘタル處

三、王部長ハ非常ニ昂奮セル態度ニテ満洲ニ於ケル權益ニ付強調セラルモ満洲モ民國ノ領土ニシテ即チ満洲ニ限ラ

幣原外務大臣宛第五四六号
東北石炭新輸出稅適用問題に關し宋子文宛
覺書修正について

南京 6月18日後發
本省 6月19日前着

(1) 第五四二號
往電第四四一號ニ關シ

客年撫順等ノ石炭ニ對シ民國側ニ於テ輸出附加稅ヲ課徵セントシ問題トナリタル際ハ事實上財政部限リニテ解決セルカ其爲開灘炭礦等ノ關係ヨリ石炭輸出稅ノ問題カ漸次民國當局者間ニ研究セラレ外交部方面ヨリノ條約論モ出テテ往電第四七七號ノ如ク前回ノ附加稅ノ時ノコトヲ前例トセラル様「メース」邊リヨリノ運動モアリタルコトト思考セラル從テ宋子文ニ送付セル本官ノ覺書ニ付テハ素ヨリ外交部長ニ於テモ研究セルコトニテ王正廷ノ本官ニ對スル應答ハ當座ノ思付キニ非サルコト勿論ナリ尙本件ハ日本側經營ノ石炭以外ノ開灘炭其他（中國石炭業者ヨリモ差別待遇ニ反對シ居ル趣ナリ）ニモ波及スルモノニシテ實際問題トシテ

長ノ回答ノ内容ヲ想像スルニ難カラス（本官ヨリ王部長ニ手交セル覺書ノ内容ハ別電第五四六號ノ通）當方トシテハ外交部長ヨリ回答アリタル時ハ右當方覺書ヲ訂正補充シタル第二ノ反駁書ヲ出ス意図ナルニ付外交部長ノ議論ノ骨子

ノ以外ハ自主權恢復後ハ其稅率ノ設定ハ民國側ノ自由ナリトナス點ヲ反駁スル有力ナル論據アリヤ御研究ノ上材料至急御電報アリタシ

尙又外交部長ノ態度斯ノ如クナルヲ以テ本件ノ解決ハ容易ナラスト思ハルル處之ニ對スル實際上ノ對抗策ヲ如何ニスヘキヤ例ヘハ民國側ヨリ輸出石炭ニ對スル妨害ヲ受クルコトヲ或程度迄覺悟シ月末ノ輸出稅額計算ノ時ニ舊稅額ヲ超過スル部分ハ之ヲ支拂ハサルコトトスヘキヤ又右ハ大連以外營口等ニ於テモ同様ニナシ得ヘキヤ更ニ進テ輸出附加稅ノ場合ノ青島ノ例ニ倣ヒ係爭中ハ稅額ヲ日本ノ銀行ニ供託シテ一應事態ヲ見送ルコトトスヘキヤ（此點ニ關スル宋子文ノ談話ハ別電ノ通ナルモ之ヲ持出斯場合ニハ時期ヲ逸セサル様ニセサレハ宋ノ態度ニ變化ヲ見ルヤモ計リ難シ）之等ノ點ハ豫メ御考究置キ相成リ早目ニ御回電ヲ請フ

on tariff autonomy, so long as it has no explicit provisions to the contrary.

〔二〕末尾ニ覺書最後ノ文句ヲ加フ

522 昭和6年6月18日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

東北石炭の新輸出稅率適用問題の対抗策につき

お意見具申

南京 6月18日後発
本省 6月19日前着

第五四七號

往電第五四二號ニ關シ

（一）中國側カ一頓一錢ノ特別稅率ノ代リニ新稅率ヲ適用スルトシテ之ニ依ル增收大約八、九十萬海關兩ト推算セラル處（我方滿洲炭ノ負擔増加四、五十萬兩）我方ニ於テ本件

課稅ニ對抗スル爲冒頭往電ノ措置ノ外假ニ兩炭坑細則議定書第一條ノ鑛產稅（兩炭坑推算年額三百五十萬噸トシテ本

稅年額十七八萬圓トナル）及第六條ノ厘金報償（五萬圓）ノ納付ヲ拒絶シ得ルモノトセハ之ニ依ル中國側ノ毎年減收

前電ノ通轉電セリ

（別電）

南京 6月18日後発
本省 6月19日前着

第五四六號

本官發外交部長宛覺書英譯文ハ六月九日附機密公第二五一號拙信附屬宋子文宛覺書ヲ左ノ通修正シ且多少字句ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ全文郵送ス

〔一〕〔二〕終リヨリ七行目 among others 削除シ
〔二〕〔三〕冒頭ヨリ十一行目 is explained above 右ヲ左ノ通改ム

The Agreement of 1919 and the Protocol of 1919 were made in order to serve a special purpose, namely, to effect an adjustment of a new situation created by the war, and the aforesaid rate of one mace per ton is one of the stipulations made for that purpose and in consideration of certain advantages given to China. Therefore the same Agreement and Protocol are not to be affected in any way by the general Agreement

大約四十萬海關兩トナリ而モ右ノ減收ハ奉天側ノ受クルモノナレハ中央ト東北トノ關係ヨリ見テ中央ヲ反省セシムル上ニ相當ノ效果アルヤニ考ヘラル尤モ之カ實行ニ付テハ條約上ハ勿論兩國ノ一般關係ニ及ボスヘキ影響ヲモ考量ニ入レ充分考究ヲ要スルコト勿論ナルニ付本件對策御考究ニ際シテハ右ノ點（數字ニ付テモ更ニ御調査ノ上）ヲモ併セテ御考量ヲ請フ

北平、奉天、安東、牛莊、關東長官ニ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

523 昭和6年6月20日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）

交渉ニ際して關稅協定が特殊協定の効力に影響を及ぼすものでない論拠援用方にについて

本省 6月20日後8時5分発

第二〇八號（暗）

貴電第五四二號前段ニ關シ

（付）關稅協定カ特殊協定ノ効力ニ影響ヲ及ボスモノニアラサル論拠トシテ左ノ諸矣ヲ援用スルコトヲ得ヘシ

(一) 關稅協定第一條中ニハ米支第一條トハ異ナリ現行諸條約
中ノ税率ニ關係アルモノヲ失效セシムル趣旨ノ規定ナク
単純ニ中國側關稅自主権ヲ承認スル趣旨ヲ規定シオルニ
過キサルコト

(二) 關稅協定ハ其ノ第三条ニ明定スル通り一般通商航海條約
中ノ關稅事項ニ關スル部分ヲ構成スルモノナルカ故ニ單
ニ關稅ニ關スル一般的協定タルニ止マリ其ノ效力ハ特殊
ノ事情ニ依リ特殊ノ事項ヲ定メタル取極ニ影響スルモノ
ニアラス

(三) 現ニ關稅協定附屬ノ秘密交換公文ニ於テ債務整理ニ關ス
ル千九百二十九年一月十八日ノ交換公文ノ効力存続ノ臭
ヲ規定スルノ外抵代税及他ノ類似ノ事項ニ關スル今日附
交換公文規定中效力ヲ存続スル事項ト效力ヲ失フ事項ト
ヲ明カニ區別シアリ(客年往電公第五五號參照)其ノ他
ノ協定カ効力ヲ失ヒタリヤ否ヤニ付テハ何等規定ナキヲ
以テ右ハ專ラ關係協定ノ性質ニ依リテ判断スルノ外ナク
而シテ前記(一)(二)ニ鑑ミ本件特殊協定カ効力ヲ存続スヘキ
ハ當然ナリ

右不取敢貴官御参考迄

524 昭和6年6月22日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)
上 海 6月22日後発
本 省 6月23日前着

協定ニ影響ヲ及ホスモノニアラサルコトヲ示スモノナリ(此
莫通商局ヨリ追電セリ) 北澤(印)

編注 本付箋は本文書の写に添付されている。

第五六四號

戻稅問題ニ付テハ我方主張ノ條約上ノ根據必シモ鞏固ナ
ラス蓋シ(イ)大連稅關設置協定中ニハ貴電第一七四號ノ如ク
大連ヲ中國ノ他ノ貿易港ト同一ニ取扱ヒ得ヘシトノ規定存ス
ルハ事實ナルカ元來大連ハ租借地トシテ帝國ノ領域ニ屬シ
其結果我方トシテハ右海關設置協定ニ依リ稅關行政徵稅上
ノ取扱(特ニ海關カ頓稅燈臺稅及港稅ヲ徵收セサル點)等
ニ付中國ノ條約港ニ於テ有シ得サル幾多ノ利益ヲ享有シ居
ルモノナルヲ以テ大連ヲ中國ノ條約港並ニ取扱ヒ得ヘシト

北平、奉天、南京、安東、牛莊、關東長官へ轉電セリ
上海へ轉報アリ度シ

(付箋)

關稅協定カ特殊協定ノ効力ニ影響ヲ及ササルコトノ論拠トシ
テハ本件往電以外左ノ二点ヲ主張シ得ヘシ

一、東支鐵道(一八五六年同鐵道建設經營約款第七条)

滿鉄(明治三十八年日支條約附屬協定第八条)

正太鐵道(一九〇二年同鐵道借款契約第五条)

滬寧鐵道(一九〇三年同鐵道借款契約第十四条)

津浦鐵道(一九〇八年津浦鐵道借款契約第二十二条)

ニ要スル諸般ノ材料ハ特殊協定ニ依リ關稅ヲ免除セラレ
居ル處近時締結ノ支那ト各國間ノ一般關稅自主権承認ニ
關スル協定ハ前記特殊協定ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモ

ノト解セラレ居レリ(此支那側ニ交付セル覺書中ニ言
及シアリ)

二、日支關稅協定、英支關稅條約、佛支關稅條約ノ附屬交換
公文ニ於テ陸境關稅輕減廢止ヲ規定シ居ル、一般關稅自
主権承認ニ關スル協定カ當然陸境關稅輕減ニ關スル特殊
及シアリ)

テモ等シク之ヲ適用スヘシ」トノ協定第十二條ノ規定ニ依リ本件二重課税ヲ防止スヘシトノ議論アル處本條ハ本協定ノ規定ニ基キ課税スヘキ場合ニ於ケル税率ヲ定メタルモノト解スヘキモノナレハ（若シ然ラスシテ大連ニ於テハ總テ中國條約港ト同一ノ關稅ヲ適用スルノ意ニ解セハ大連自由港ニ關スル條項ハ無意義トナルヘシ）右ノ議論ハ問題ヲ以テ問題ニ答フルモノナリスノ如ク本件二重課税ニ付テハ大陸外國港トスル前記建前ヨリ解シ右第九條ヲ改訂セサル限り本協定ノ精神解釋上先方ヲシテ我方ノ主張ヲ認メシムルコトハ到底困難ナルヲ以テ（右條約論ハ閣下發關東廳長官宛電報第一四號ノ趣旨ニ合ス）之力強制ハ香港協定ノ成立ヲ待テ提議スルコトトシ差當リ之カ爲ニ生スル不利益ハ我方ノ自由ニ行ヒ得ヘキ港灣ノ施設海陸運賃政策ノ運用等ニ依リ之ヲ償フヨリ外ナク

今回滿鐵ノ採用シタル無封印通關ハ當方トシテハ事情已ムヲ得サルモノトシテ辯護スヘキコト勿論ナルカ本件我方ノ主張カ現ニ前記ノ如ク相當ノ弱點アル以上斯ノ如キ行爲ニ依リ恰モ我方ニ於テ横車ヲ押スカ如キ印象ヲ與フルハ免レサルヘク之力爲中國側カ大連海關協定ヲ廢棄シ大連ニ對抗

本省 6月24日後7時31分発
第一四二號（暗）
重光代理公使ヘ
第二一二号
往電第二〇八號ニ閔シ

我方論據トシテ旣報ノ外鮮満陸境關稅廢止ニ關シテハ關稅協定締結ニ際シ特ニ公文交換ヲナシタル事實ヲ指摘スルコトヲ得ヘシ

北平、奉天、上海、安東、牛莊、閔東長官へ轉電セリ

526 昭和6年6月24日 幣原外務大臣より
在南京上村領事宛（電報）

撫順炭の大連通關に關し宋子文と懇談により
問題の紛糾を避くるべく具体案指示について

本省 6月24日後8時38分発
第一四三號（暗、至急）
重光代理公使ヘ第二二三號
貴電第五四二號後段ニ閔シ

目下滯京中ノ木村理事ヨリ撫順炭ノ大連通關ニ閔スル詳細

スル爲營口、秦皇島、葫蘆島等ノ經營ニ努力スル時機ヲ早ムヘキハ勿論満洲以外ニ於テ我方ノ利益ヲ尊重セサル底意ヲ強カラシムル虞ナキニ非ス加之本件大連向ケ再輸出ハ從來ノ戻稅制度ノ下ニ於テモ年額約一千萬兩ニシテ大連輸出入總額ノ二「パーセント」強ニ過キス現在ノ過渡期ハ別トシ戻稅廢止ノ後ハ香港等ヨリ直接大連ニ仕向ケラルルカ又ハ一旦上海等ニ來ルモノモ保稅倉庫等ノ制度ヲ利用スルヲ以テ二重課税ノ爲ニ營口廻リトナルモノハ極メテ少額ニ上ルヘシト存セラルルニ付（此點ニ付最モ利害關係ヲ有スル英商人側カ餘リ重要視セサル次第ハ往電第五三一號參照）本件ニ關シテハ前記我方條約上ノ立場ヲモ考ヘ餘リ聲ヲ大ニシテ徒ラニ中國側ノ神經ヲ刺戟スルヨリハ暫ク隱忍シテ前記ノ如キ對抗策ヲ講スルコト亦一案ナルヤニ思考セラル北平、奉天、安東、營口、關東廳へ轉電セリ

525 昭和6年6月24日 幣原外務大臣より
在南京上村領事宛（電報）

關稅協定の特殊協定への影響に関する我が方
論拠として既報以外の分追加について

ノ事情聽取シタルカ福本稅關長ハ總稅務司ヨリ本件一切ノ妥協ニ應スヘカラサル旨ノ訓令ニ接シ居ルノミナラス同人ハ昨年安東ニ於ケル石炭ノ強制通關問題ニ關聯シテ總稅務司側ノ感触ヲ害シタル行掛モアリ特ニ最近大連二重課稅物ノ奥地輸送決行事件以來其ノ態度硬化シタル爲同稅關長ト妥協ノ途モナキカ如ク他方實力通關ヲ決行セントスルモ大連ニ於テ正式ノ通關手續ヲ經サル船積貨物ニ対シ到着中國港ニ於テ通關ヲ認ムヘキヤ多大ノ疑問ヲ存シ更ニ到着地ニ於ケル撫順炭排斥運動ヲモ懸念セラレタルニ因リ六月中ニハ政府間ノ交渉モ解決スヘキヲ期待シ差當リノ便法トシテ出荷ヲ要スル六月分石炭約廿万噸ニ付テハ稅關側要求通ノ手續ニテ通關方取計ヒタル次第ナル趣ナリ尤モ滿鉄側トシテモ輪出稅問題ニ讓歩シタル爲撫順煙台炭ニ閔スル議定書其ノ他ニ付今後更ニ中國側ヨリ種々ノ不法措置ヲ強要セラルハ如キコトアラハ同社營業上ノ立場ヨリ丝路考慮ヲ要スルニ付七月以降ノ石炭輪出方ニ付テハ政府ノ指示ヲ受ケタキ旨同理事ヨリ申出アリ

然ルニ貴官今次中國側ト御交渉ノ模様ニ依レハ外交部ハ關稅自主權ノ恢復ヲ楯ニ飽ク迄新輪出稅乃至転口稅ノ賦課ヲ

主張スルコトヽ思考セラレ右ニ対シテハ我方條約論ノ主張ヲ以テ引續キ強硬ニ反駁ヲ加フヘキコト勿論ナルモ之力速急解決ハ困難ナルヘキニ付前記六月分ノ輸出税支拂方法及七月以後ノ大連及營口ニ於ケル通関方ニ付テハ差當リ別途対策ヲ講スルノ要アリ幸ヒ宋子文ハ本件円満解決方考慮スル意嚮ナル様見受ケラルヽニ付貴官ハ外交部トノ交渉ヲ進ムル傍ラ宋子文ト懇談ヲ遂ケラレ問題ノ紛糾ヲ避クル趣旨ニ依リ便法妥結方御配慮アリ度右具体案トシテハ左記二案ノ内何レカ一二依リ度キ意嚮ナリ

一、問題解決迄ハ旧税率ヲ納付シ尚已ムヲ得サレハ右ノ外後日交渉ノ結果如何ニ依リ新税率トノ差額ヲ納付スヘキ旨ノ保證書ヲ満鉄ヨリ税関ニ提出シテ通關ヲ認メシムル案此場合六月分ノ支拂モ旧税率ニ依ルヘキコト勿論ナリ

二、関東長官及營口領事ヨリ夫々満鉄ニ対シ六月分及其後ノ新旧税率ノ差額支拂停止ヲ命スル一方満鉄ノ通關手續ハ問題解決迄依然六月ノ例ニ依ル案

右ニ依レハ満鉄ハ旧税率ニ依ル税額ノ支拂ヲナスヘキモ通關手續ノミハ差當リ新税率ニ依ルコトヽナリ一應先方ノ体面モ立ツ次第ナルニ依リ我方ニ於テ本案実行ノ場合之力措定ニ掲タル處ノ輸出入税不徵收ノ規定（第五條乃至第十條）ハ帝國力一方のニ徹底シタル自由港制度ノ當然ノ結果ニ付注意規定トシテ掲ケタルモノト看ラレサルニ非サレトモ殊更之ヲ協定ニ特記シタル理由ハ支那側ヲシテ自由港制度尊重ノ精神ヲ明確ニセシムルニアリタルコトハ各條ノ明文ニ照シ断シ得ヘキカ如ク第九條戻税ノ條項モ亦其一規定タルハ露人時代ヨリノ沿革ニ徵スルモ否定シ得サルヘク畢竟スルニ本條ノ趣意トスル處ハ支那經由ノ輸入外國貨物ニ對シ直輸入ノ場合ト同様「デューティー、フリー」ノ地位ヲ與フルニアリ從テ假リニ第九條ノ特權カ一般的戻税自主權ニヨリ消滅スルトスルモ支那ハ本條ノ精神ニ從ヒ別ニ之ニ代ル制度ヲ設クル義務アリ從テ州外輸送品ニ對シテハECヲ與ヘ州内消費品ニ對シテハ依然戻税ヲ與フルノ外ナカルヘキカト存ス尙第九條戻税ヲ規定シECヲ規定セサリシ理由ニ

置方ニ付大連及營口税関長ヨリ中央へ請訓アリタルトキハ前記差額ノ不拂問題ハ其儘トシ通關ヲ許スヘキ旨訓訓スルコトニ豫メ話合ヒヲ遂ケ置クコト差シテ困難ナラサルヤニ思考セラル
就テハ時日モ切迫シオル際ナルニ付大体右ノ趣旨ニ依リ至急交渉ヲ進メラレ結果電報アリタシ
北平、上海、奉天、安東、牛莊、閔東長官へ転電セリ

527 昭和6年6月24日 塚本閔東長官より
幣原外務大臣宛（電報）

関東州における特權維持のためにも戻税規定
必要な旨意見具申

関東庁 6月24日後発
本省 6月24日後着

第五九號
在支公使發外務大臣宛電報第五六四號ニ關シ

一、港ノ性質ヨリ見レハ現在ノ大連港ハ日本港ニシテ支那港ニ非サルコトハ明瞭ナレトモ大連港カ日本港タル事實ト彼我ノ特約ニ依リ支那關稅上ノ特權ヲ有スル事實トハ何等

相容レサル觀念ニ非サルヘキヤニ存セラルヲ以テ協定第九條ノ解釋ニ當リテモ兩者ヲ切り離シ專ラ協定ノ明文及精神ニ依リ之ヲ行フコト必要ナルヘク右ノ見地ヨリスレハ（一）第九條戻税ノ規定ハ關稅協定ニ依ル一般的戻税自主權ニ對（ス）ル一特約ニシテ右自主權ノ適用ヲ受ケサルヘク（二）協定ニ掲タル處ノ輸出入税不徵收ノ規定（第五條乃至第十條）ハ帝國力一方のニ徹底シタル自由港制度ノ當然ノ結果ニ付注意規定トシテ掲ケタルモノト看ラレサルニ非サレトモ殊更之ヲ協定ニ特記シタル理由ハ支那側ヲシテ自由港制度尊重ノ精神ヲ明確ニセシムルニアリタルコトハ各條ノ明文ニ照シ断シ得ヘキカ如ク第九條戻税ノ條項モ亦其一規定タルハ露人時代ヨリノ沿革ニ徵スルモ否定シ得サルヘク畢竟スルニ本條ノ趣意トスル處ハ支那經由ノ輸入外國貨物ニ對シ直輸入ノ場合ト同様「デューティー、フリー」ノ地位ヲ與フルニアリ從テ假リニ第九條ノ特權カ一般的戻税自主權ニヨリ消滅スルトスルモ支那ハ本條ノ精神ニ從ヒ別ニ之ニ代ル制度ヲ設クル義務アリ從テ州外輸送品ニ對シテハECヲ與ヘ州内消費品ニ對シテハ依然戻税ヲ與フルノ外ナカルヘキカト存ス尙第九條戻税ヲ規定シECヲ規定セサリシ理由ニ

付（テ）ハ明カナラサレトモ第五條冒頭ノ規定アルニ依リ其必要ナカリシ爲ニ非サルカトモ存セラル
一、曩ニ支那側カ各地稅關ヲシテ告示セシメタル如ク大連向州内消費土貨ニ對シ轉口稅ヲ課セスシテ輸出稅ヲ課セントシ之ヲ前提トシテ通過奧地行貨物ニ關スル取締規定ヲ設ケントスルカ如キ孰レモ大連港ノ外國港タル性質ト其凡ユル協定上ノ特權トヲ混同シ自己ニ好都合ナル立法的見地ヲ持シ協定上ノ明文ノ解釋ニ之ヲ擬セントスル結果ト認メラルカ若シ斯ノ如キ不法ノ解釋ヲ許スニ於テハ第六條前段及後段ノ規定スルカ如キ特權ハ遂ニ剝奪サル事ナリ關東州ハ經濟的ニ支那各地ト隔絶セル孤立ノ立場ニ押シ遣ラレ關東州保有ノ意義ハ大イニ削減セラル結果トナラサルヤラ虞ル

一、當廳ニ於テ曩ニ満鐵ニ對シ無封印通關ニ同意ヲ與ヘタルハ畢竟スルニ當時本件カ支那側ノ協定無視權益侵害ノ第一着歩ニ爾後當方面ニ於テ引續キ各般ノ面倒ヲ惹起シ來ルヘク豫想セラレタルヲ以テ條約上ノ特權ヲ固持シ之力侵害ニ對シテハ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ斷シテ讓ラサル態度ヲ示シ置ク事却テ爾後ノ面倒ヲ未然ニ防

止スル所以ナリト信シタルニ依ル次第ニテ好ソテ事ヲ
構フル趣旨ニ非サリシニ付御諒承ヲ得度シ
在支公使ニ轉電シ、奉天、營口、北平、ニ暗送シ、在支公
使發外務大臣宛電報第五六四號ト共ニ安東へ暗送セリ

528 昭和6年6月25日 在ハルビン大橋總領事、在吉林石射
幣原外務大臣より
在間島岡田總領事、在奉天
林總領事、在安東米沢領事、在長春
田代領事、在鄭家屯大和久領事宛
(電報)

農產品の輸入税引上げの議あるところ日本人
関係業者に及ぼす影響など取調べ回報方訓令

本省 6月25日後8時56分発

合第三五四號(暗)

最近農產品ノ市價暴落ニ伴ヒ農村ノ疲弊甚シク右救濟ノ為
政府部内ニ於テ農產品ノ輸入税引上ノ議アル處右ノ中ニハ
大豆、小豆、粟、高粱、玉蜀黍等滿洲ヨリノ輸入品モ含マ
レ居ルニ付前記農產品ニ対シ内地及朝鮮共相當関税引上ア
ルモノト假定シ貴地方邦人関係業者ニ及ボス影響其ノ他参考事項御取調至急回報アリタシ

529 昭和6年6月26日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

財政厅と満紡との間で納稅手続取極文案決定
し二三日中に解決の見込みについて

奉天 6月26日後発
本省 6月26日後着

第三九一號

其後財政廳對満紡ノ納稅手續取極意外ニ紛糾シタル爲解決
遷延シタルカ廿六日右取極文案決定シタルヲ以テ二三日中
ニ全部解決スヘク満紡生產能力視察ニ關シテハ森岡ヲ當地

往電第三六二號ニ關シ

在哈爾賓 大橋總領事
//吉林 石井總領事
//間島 岡田總領事
//奉天 林總領事
//安東 田代領事
//鄭家屯 大和久領事
//長春
//大和久領事
//奉天
//安東
//米澤
//林
//總領事

支那官憲ト共ニ遼陽ニ出張セシムヘキニ付御承知ヲ請フ
右林總領事ニ御傳ヘアリタシ
遼陽、代理公使、關東長官へ轉電シ、北平、南京、安東、
牛莊、鐵嶺、吉林、哈爾賓、長春へ暗送セリ

530 昭和6年6月27日 塚本關東長官より
幣原外務大臣宛(電報)

東北石炭輸出税適用に關し強制通關の方針を執
り先方の出方を見てさらに対策考案方意見具申

関東庁 6月27日後発
本省 6月27日後着

閣下發在支代理公使宛電報第三五三號ニ關シ
第六二號

貴案ニ依ル暫行辦法交渉成立セハ彼我双方ニ取り誠ニ幸ト
スル處ナレトモ若シ重光代理公使折角ノ盡力ニ拘ラス支拂
期日前妥結ニ至ラサルカ如キコトアリトセハ右期日到来ト
共ニ現實ニ支拂ノ問題起リ税率モ新舊何レカニ決定セサル
可カラサルコトトナリ最早彼此交渉ノ餘裕ナキコトトナル
ヘク其際ニ至テハ滿鐵トシテハ支拂ニ應諾スルモ税率ノ決

定ナキヲ以テ支拂ノ方法ナシトテ税率問題決定ノ責ヲ日支
双方ノ政府ニ歸シ右決定ニ至ル迄支拂期日延期ノ已ムナキ
ヲ述ヘ立テ依然抗議付新税率申告ノ方法ヲ執レハ暫クノ間
ハ輸出ヲ繼續シ得ラルルカト存スルモ素ヨリ之ニテ納マリ
ノ付ク筈ナク廳テ先方ハ新税率支拂ヲ應諾スルカセヌカト
云フ處迄押シ詰メ來ル可ク我方トシテハ折レルカ突キ抜ケ
ルカノ瀬戸際ニ立ツコトトナルヘシ其際唯一ツ撫順煙臺炭
議定書特定税率ノ規定ト關稅自主權トノ效力論ニ觸ルルコ
トヲ避ケ右規定ヲ改訂シ若干税率ノ引上ケニ應シ一應問題
ヲ喰ヒ止メル途無キニ非サレトモ所詮第二次第三次引上ケ
ノ已ムナキニ至ル危險アリ面白カラサルヲ以テ最早中間ヲ
行ク方法ナク將又一方ニ於テ支那向一二〇萬噸丈ヶ抗議附
新税率支拂ヲ爲シ爾餘ノ輸出炭ノ大連、安東ヨリ現行税率
供託ニテ強制通關スルコトスル剛柔搗キ混セタル方法ヲ
執ルコトモ確カニ一案カトハ思ハルモ結局ニ於テ往電第
五〇號ノ如キ結果ヲ招來スル事ヲ豫想セサルヲ得ス
其結果或ハ支那向炭輸出不可能ノコトナルヤニ思ハル
ヲ以テ所詮ハニ途ニ一途ヲ選ハサル可カラサルコトトナル
ヘク而モ方針ノ決定ハ茲數日中ニ迫リ來ル可キヲ以テ豫メ

政府ニ於テ何レニカ御決心相成置カルルヲ要スルカト存ス

滿鐵トシテハ多年開拓シ來レル支那各地販路ヲ失フコトハ
非常ナル損失且苦痛ナルヘク不況ノ今日社業ノ上ニモ容易

ナラサル痛手ニハ相違ナク且又强硬政策ヲ執ル結果ハ種々

ノ困難ヲ伴フヘキハ既ニ申進シタル通ナレトモ本件ハ滿鐵

ニ對シ一脅威タルト同時ニ我力滿蒙特殊權益突キ崩シノ巧

妙ナル一手段トモ思ハル加之先般來ノ大連海關協定上我ノ

有スル課稅上ノ特權奪回ノ態度等ニモ徵シ彼ニ於テハ漸ヲ

追フテ我力特殊權益ノ全般的崩壞ヲ策シ來レルモノト察セ

ラルニ付寧口支拂期日到来ノ際斷然權益把持ノ嚴肅ナル

態度ヲ示サレ新稅率絶對拒絕支那向炭輸出一時杜絕ノ覺悟

ニテ強制通關ノ方針ヲ執リ先方ノ出方ヲ見テ更ニ第二第三

段ノ對策ニ入ラルコトストル外ナカルヘク或ハ其結果ハ

却テ問題ノ解決ヲ速力ナラシメ且良好ノ結果ヲ得ルコトト

ナルヤニモ存セラル不取敢右卑見何等御参考迄申進ス

代理公使ヨリ上海南京へ轉報請フ

代理公使、北平、奉天、安東、營口へ轉電セリ

中国側に撫順煙台炭坑議定書の解釈に關し再

反駁方訓令

本省 6月29日後9時45分發

第二二六號（暗、至急）

貴電第五七五号ニ閲シ

貴電第五七六号外交部回答ハ閑稅協定ト本件議定書トノ閑稅
係ニ付キ言及スル所ナク寧口稅率ニ閑スル特殊取極ハ閑稅
協定ニ依リ何等影響セラレザル事ヲ前提トシタル建前ニテ
我方ノ主張ヲ反駁シ居ルヤニ認メラレ旁々本件議定書ノ解
釋ニ付キ今一應我方ヨリ反駁ヲ加フルニ於テハ中國側モ或
ハ我方主張ニ同意シ來ルコト、存セラル、ニ付キ右反駁文
發送方至急御取計アリ度ク右ニ閑シ前記外交部回答ニ對ス
ル當方氣附ノ点左ノ通

一、議定書調印當時ノ石炭ニ對スル一般輸出稅ハ一頓三錢
ナリシモ大正六年五月一頓一錢ニ引下ゲラレタリ、尚
昭和四年二月ヨリ滿洲ニ於テ一般貨物ニ對シ輸出附加
稅ヲ課スル事トナリタルモ安東、大連、營口ニ於テハ

我方ノ阻止スル所トナリ更ニ昨年六月（閑稅自主権回
復後）右附加稅ヲ滿洲ニ於テ實施ノ際石炭ノ附加稅ニ
付テハ我方ノ抗議ニ依リ實施見合セトナリタルコト御
承知ノ通

一、新輸出稅ノ實施ニ閑スル通告ハ單ニ一般輸出稅率ニ閑
スルモノニシテ特別協定ニ依ル稅率ニ何等影響スヘキ
モノニ非サルハ勿論本件稅率ハ中國側ノ一方的通告ニ
依リ變更シ得ルモノニモ非ズ我方覚書中ニ「何等事前
ノ告示ヲナスコトナク」云々ト述ヘタルハ本件石炭輸
出業者ニ於テ不意打ニ新稅率ニ依ル課稅ヲ命セラレタ
ル事實ヲ指スモノニ外ナラズ

一、滿洲五案件ニ閑スル協約第三條丙項ハ一般輸出稅率タ
ルト特殊取極其他ニ依ル稅率タルトヲ問ハズ中國輸出
稅率中最モ低キ稅率ヲ撫順煙台炭ニ課スベキコトヲ約
シタルモノニシテ議定書第二條ニ一頓一錢ヲ規定シタ
ルハ當時ノ一般輸出稅率ニ依リタルモノニ非ズ議定書
調印ノ當時一般稅率ハ一頓三錢ナリシニ拘ラス安徽、
直隸、湖北等ニ於ケル中國人炭坑ノ石炭輸出稅ガ一頓
一錢ナリシニ依リ之ト同率ノ輸出稅額ヲ特ニ協定シタ

一、鐵道材料免稅ノ問題ニ閑シテハ此ノ上論及スルコトヲ
シ（安東宛往電第四三号參照）
避クルコト、致シ度シ。

北平、奉天、牛莊、安東、南京、閑東長官ニ轉電セリ
上海へ轉報アリ度シ

532 昭和6年6月29日 在中国重光臨時代理公使宛（電報）

中國側が撫順煙台炭の税率を特殊協定によるものとして我が方要求を拒絶した先例について

本省 6月29日後11時発

第二一七號（暗、至急）

往電第二一六号ニ閲シ大正十四年三回ニ亘リ芳沢公使及沈外交部長間ニ行ハレタル交渉往復文書ノ内容要領左ノ通一、同年四月十日附往翰ニ依リ我方ハ從来三「メース」ナルシ一般石炭輸出税ハ大正六年一「メース」ニ改定セラレタル結果満鉄ノ輸出炭ニ対スル一「メース」ノ税金ハ最早何等特定税率トナラサルニ至リタルノミナラス安東經由陸路輸出セラル、一般石炭ハ税率ニ於テ更ニ三分ノ一減ノ適用ヲ受ケ特別協定アル満鉄輸出炭ヨリモ税率減額セラル、結果トナルハ不都合ナルニ付満鉄ノ陸路輸出炭ニ対シテモ大正六年ニ遡リ三分ノ一減ヲ適用方要求セル處五月十九日附來翰ヲ以テ撫順煙台炭ニ対スル輸出税ハ本件議定書ノ特定スル所ニシテ兩國間ニ特定税率ヲ協定セサル他ノ貨物ト同シカラス又一般石炭ニ対シ三分ノ一輕減率^{減率}ヲ適用シテ撫

順烟台炭ニ比シ有利ナル取扱ヒヲナシタルコトナシトテ我方要求ヲ拒絶シ来レリ
二、同年九月二日附往翰ヲ以テ更ニ陸境関稅輕減率ノ特典ハ一切ノ有税貨物ノ享有スヘキモノナレハ何等除外例ヲ設クヘキニアラスト申入レタルニ対シ九月二十九日附返翰ヲ以テ陸境關稅輕減取極ハ只普通稅則ニ照シ輕減徵收スルモノナリ然ルニ撫順烟台両鉱ノ石炭稅ノ如ク海路ヨリ運出スルモノニ毎噸一錢ヲ課スルハ議定書第二條ニ特ニ規定シタル所ニ係リ他方民國六年五月輸出石炭稅ヲ一律ニ輕減シ銀一錢トナシタルモ亦特許ニ出ツルモノナルニ付共ニ普通稅則ト同一ナラズ仍テ兩炭ノ國境關稅ハ此上ニ輕減課稅スル能ハズトノ趣旨ヲ回答越シタリ

三、同年十一月三日附往翰ヲ以テ三分ノ一減稅辦法ハ普通又ハ特別稅率タルヲ問ハス有税貨物一律ニ適用スヘク、又一九一七年五月次後石炭輸出稅率ハ一般的ニ一噸銀一錢トナリタルヲ以テ撫順烟台両炭稅ノ銀一錢ノ稅率ハ其時ヨリ特別協定稅率タル地位ヲ失ヒタリトノ趣旨ヲ述ヘテ先方ノ再考ヲ求メタルモ中國側ハ十二月十八日附返翰ヲ以テ前記一及二ノ主張ヲ繰リ返シタルノミナリ

（註）兩炭ニ対スル稅率ハ特別稅率タル性質ヲ失ヒタリト

ノ當時ノ我方説明ハ今次交渉ニ於ケル我方ノ主張ニ対シ一見不利ナルカ如キモ右ハ一般石炭ニ対スル稅率力銀一錢トナリタル以上兩炭ニ対スル稅率ハ最早特典ニアラストノ意ニ過キシテ兩炭ノ稅率力特別ノ協定ニ依ル稅率タルコトヲ否定シタルモノニアラサルハ勿論ナリ

533 昭和6年6月29日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

特別協定の効力に關し日本側主張を認めるま
で旧稅納付の承認方中國へ要求について

上海 6月29日後発

本省 6月29日後着

往電第五七六號ニ關シ

轉報セリ

中國側反駁ノ理由ハ本件二箇ノ特別協定ノ效力ヲ認ムルモ之力解釋上右ハ單ニ最惠國待遇ヲ附與スルモノナルニ過キサルヲ以テ一般稅率ノ變更ト共ニ撫順炭ニ增率スルモ何等

534 昭和6年6月29日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

北平、奉天、安東、牛莊、關東長官へ轉電シ南京、上海へ

張閥務署長に抗議付での新税納付を説得した
ものの同意せしめ得ざる状況について

上　海　6月29日後発
本　省　6月30日前着

貴電第二二三號ニ關シ
第五八三號

當方ニ於テハ往電第五七六號外交部ノ回答ニ對シ至急詳細ニ反駁ヲ加フルト共ニ他方財政部トノ間ニ差當リ辨法ヲ講スル手段ヲ執ル筈ナルカ冒頭貴電御申越シノ(一)及(二)ノ方法ハ往電第五四〇號本官ト財政部長トノ會談ノ際ニモ大体話頭ニ上リタル案ニテ先方ニ於テ直ニ受ケ容ルコトハ出來サルヘシト思ハル次第ナリ尙右ノ方法ニ付テハ堀内ヲンテ張閥務署長トモ協議セシメタルカ張ハ財政部トシテハ本件措置振ハ我方ト外交部トノ間ノ條約上ノ解決ノ結果ニ依ルコトトナリ居リ其結果ヲ見ル迄ハ現在通り發案者ヲシテ抗議附ニテ新税ヲ納付セシムルコトシタルモ市財政部力事實上差當リ舊稅ニ依ルヘキ旨ヲ應諾スルニ於テハ外交部ノ交渉ヲ阻害スル結果トナルニ付承諾シ難シ抗議附納付ヲ認ムルコトハ既ニ一ノ讓歩ナリト述ヘ堀内ヨリ種々說得ヲ

試ミタルモ貴電ノ如キ案ノ採用方ニ同意セシメ得サリシ趣ナリ
本官ハ宋子文ト三十日上海ニ於テ更ニ會見スルコトトナリタルニ付貴電辨法ヲ採用セシムル様更ニ努力スヘキモ右ノ事情ニ依リ恐ラク承諾ヲ得難カルヘシト存セラル處本件差當リノ辨法トシテハ中國港向輸出ニ付テハ大連ニ於ケル満鐵ノ月末決済ニ際シ舊稅率ヲ以テ納付スルト共ニ交渉結末迄新稅率トノ差額ヲ正金銀行ニ供託シ強制通關ノ方法ニ據リ其他ニ於テモ出來得ル限り之ニ準ス可ク到着港ニ於テ問題起ル場合ニハ之ニ依リ財政部ノ強制手段ヲ阻止スル素地ヲ作ルコト適當ナリト認メラル本件ニ付如何ナル辨法ニ依ルヘキヤハ當地ノ満鐵及撫順炭取扱邦人ヨリモ屢々同出ノ次第モ有之右御考慮ノ上辨法決定次第何分ノ儀至急御図示ヲ請フ

往電第五四七號報復手段ハ前記稅關側ノ強制手段ヲ阻止スル上ニ有效ナリト認メラルニ付御考究濟次第御図示ヲ請フ
北平、奉天、牛莊、安東、關東長官へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

~~~~~

535 昭和6年7月1日

幣原外務大臣より  
在中國重光臨時代理公使宛（電報）

東北石炭輸出稅納付方に關しては先電訓令の  
具体案弁法で妥結尽力方訓令

本省 7月1日後6時30分發

(欄外記入一)  
貴電第五八三號ニ關シ

石炭輸出稅納付方ニ関スル差當リノ辨法ニ付テハ宋子文ト折角御交渉中ノ事ト存スル處御承知ノ通り本問題ノ成行如何ハ本邦朝野ノ等シク注目スル處ニモアリ此際何等カノ方法ニ依リ我方主張ノ貫徹ヲ計ラサルヘカラサル次第ナルニ付テハ貴官ハ宋子文ニ對シ閏稅協定交渉ニ際宋ハ輸出稅ノ著シキ増徵ヲ爲サヘル旨貴官ニ言明シ居ルニ不拘新輸出稅率ニ付テハ右差額ヲ日本側銀行ニ供託シ（海關力特種協定ノ明文規定ヲ無視シ中國側トシテ條約上何等辯護ノ餘地ナキ不當課稅ノ納付ヲ一方的ニ強要セントスルカ如キハ日支國交ノ大局ヲ顧念セサル暴挙ナル旨篤ト力説セラレ是非共往電第二二三號(一)ニ依リ辦法妥結方御盡力アリ

上海へ轉報アリ度シ

北平、奉天、牛莊、安東、南京、閔東長官へ轉電セリ

示し冷静に処理しつつある状況について

上海 7月1日後発

本省 7月1日後着

(欄外記入一)

木村理事ト協議済

(欄外記入二)

宋ハユ出税發止ハ厘金撤廢トノ干係上不可能ナリ但現案五分以下ニ止ムヘント云ヘリ

新税率ハ三分五厘乃至七分五厘

(欄外記入三)

日本向モ供託セサレバ我方ノ弱点ヲ暴露スル事トナルヘシ故ニ支那港向ノミニ限定セズ

参考

(一)ハ保証通関 供託案ナシ

(二)ハ差額支払停止 但通関手続ハ六月ノ通

昭和6年7月1日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

本件ニ付テハ我方ノ確乎タル態度ヲ示シツツ冷静ニ處理スレハ或ハ先方ヲ反省セシメ得ヘク財政部長ニ對シテハ書面ヲ以テ外交部ノ條約論ノ正鶴ヲ失セルコトヲ告クト共ニ満鐵ハ月末勘定ニ於テ新税ノ支拂ニ應シ能ハサルコトヲ述ヘ且斯ル事件ハ雙方從來ノ友誼的精神ニ依リ何トカ處理シタキ旨ヲ申述ヘ支那側ニ於テ事態ヲ惡化セシメサル様ニ努メ置キタリ其内面談ノ際更ニ交渉スヘシ大連ニ於ケル二重課税品強制輸送モ新聞等ニテ騒ガス爲ニ財政部モ泣寝入りニ好都合トナリタル狀態ナルニ付本件モ日本側ヨリ何等力ノ結末ニ近ツク迄新聞通信ノ種ニセサルコト必要ナリト思考ス

戻税告示に関しては我が方の確乎たる態度を

北平、奉天、安東、營口、關東廳へ轉電シ、上海、南京へ  
轉報セリ

(別電)

上海 7月1日後発  
本省 7月1日後着

(第五九一號)

537 昭和6年7月1日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)  
東北石炭輸出税納付方に関する日本側反駁文  
中の冒頭に外交部長覚書引用について  
別電 七月一日發在中国重光臨時代理公使より幣  
原外務大臣宛第五九一號

右日本側の外交部長覚書に対する反駁文  
(案)

上海 7月1日後発  
本省 7月1日後着

第五九〇號

往電第五八九號二關シ

我方反駁文中條約<sup>(註二)</sup>部分ハ冒頭ニ外交(部)長覺書ノ當該部分ヲ全文引用シタル後別電第五九一號ノ通我方ノ主張ヲ述ヘタルモノナリ

右ノ前段ノ趣旨ハ本件石炭ノ輸出税率ハ前記特別協定ノ適用ヲ受ケ日民兩國間ニ締結セラルノ一般的ノ關稅協定ノ適用ヲ受クルモノニアラストノ六月十七日附日本帝國代理公使覺書ノ記述ト正シク合致スルモノナリ然ルニ其後段ノ趣旨即チ前記協約第三條丙項及議定書第二條ハ其解釋上單ニ最惠待遇ヲ規定スルニ止マタル爲スハ右協約及議定書ニ對スル文字上及精神上ノ正當ナル解釋ト言フコトヲ得ス  
本件兩炭坑ノ石炭ノ輸出稅ニ關シテ最惠待遇ヲ附與セラル

貴電第二一八號ニ關シ

反駁文ハ三十日附ニテ直ニ外交部ニ提出方取計濟尙堀内書記官ヲ南京ニ出張セシメ本官ハ當地ニテ財政部長ト接觸スル手筈ナリ

第五八九號

ヘキハ協約第三條丙項ノ規定ニ依リテ明白ナリ而シテ本件兩炭坑ノ細則ニ關スル議定書ハ其前（文）ニ依リ明カナル如ク協約第三條丁項「本件炭坑ノ區域並ニ一切ノ細則ハ別ニ委員ヲ派シテ協定スヘシ」トノ規定ニ基キテ締結セラレタル次第ニシテ即チ右議定書ハ前記協約ノ補足規定ナルト共ニ右協約ト不可分一體ノ性質ヲ有シ之ト同一ノ效力ヲ保有スヘキモノナリ右議定書第二條ニ於テハ本件兩炭坑ノ石炭ノ輸出ニ對シテハ一噸ニ付一錢ノ税率ヲ課スヘシト規定シ居リ右ノ規定ハ同議定書第十四條ノ規定ニ依リ六十年ノ期間效力ヲ有スヘキモノナリ即チ協約及議定書ハ本件石炭ノ輸出税率ニ關シ<sup>(註)</sup>八十年間一噸ニ付一錢ヲ課スヘキコトヲ規定スルト共ニ輸出税率ニ對シテハ最惠待遇ヲ付與スヘキコトヲ規定スルモノナルヲ以テ之力税率ハ<sup>(註)</sup>八十年間ハ一噸ニ付一錢ナルカ又ハ他ノ石炭ニ對シ夫レヨリモ低キ税率ヲ課セラル場合ハ本件石炭モ最惠待遇ニ依リ之ニ均霑スヘキモノナルコト右協約及議定書ノ解釋上極メテ明白ナリ

從<sup>(3)</sup>テ前記特別協定ニ依ル税率カ一般税率ノ變更ニ從ヒ特別協定期間内ニ於テモ差別待遇ヲ爲ササル限り民國ニ於テ自由ニ之ヲ變更シ得ヘシト爲外交部長ノ議定書ノ趣旨ハ之

右ノ解釋ノ正當ナルコトハ前（記）議定書締結當時ニ於テ石炭ニ對スル民國ノ一般輸出稅ハ一噸ニ付三錢ナリシモ（該稅率ハ一九一七年五月一噸ニ付二錢ニ改訂セラレタリ）該議定書第二條ニ依リ一噸ニ付一錢ト特別ニ協定セラレタルモノニアラサル事實ニ徵スルモ明白ニ之ヲ證明スルコト得ヘシ加之議定書ニ於テ日本政府ハ民國政府ニ對シ一定率ノ鑛產稅及釐金保障稅ノ納付ノ外諸種ノ反對給付ヲ爲シ之カ代償トシテ六十年間ヲ限り本件石炭ノ輸出稅ヲ前記ノ如ク特定シタルモノナルヲ以テ右稅率ノ特定ハ單純ナル最惠待遇ノ外何等特別ノ意義ヲ有セスト爲ス前記外交部長覺書ノ趣旨ハ議定書締結ノ精神ニ鑑ミルモ到底之ヲ承認スルコト能ハス

編注一 「篇」の箇所に「論」との書き込みあり。

編注二、三 「八」の箇所に「六」との書き込みあり。

538 昭和6年7月3日  
幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

東北石炭の強制通関による影響並び中国側報  
復対策に関する考究方訓令

本省 7月3日発

第二二四號（暗）

往電第二二〇号ニ關シ

本件石炭ガ強制通關ニ依リ大連又ハ營口ヨリ輸送ノ場合到着中國港ニ於テ起ルベキ故障如何ヲ考究スルニ

（一）大連海關協定第八條ハ大連船積ノ土貨ハ到着港ニ於テ輸出稅納付済証ヲ提示スルニ於テハ沿岸貿易稅ヲ納ムレバ足ルモ右納付済証ナキニ於テハ新タニ輸入稅ヲ納付スヘキ趣旨ト解セラル、處右ハ一般土貨ニ關スル規定ニシテ撫順烟台炭ニ關シテハ兩炭細則議定書第六條ニ依リ從來トテモ沿岸貿易稅ノ納付ヲ必要トセザリシガ故ニ前記海關協定第八

條ノ適用ナク從テ撫順烟台炭タル證明方法サヘアレバ到着港ニ於テ輸出稅納付済証ノ提示ヲナスコトナクシテ通關ヲ許サルベキ義トモ解シ得ベキ處從來此莫ノ取扱ハ如何ナリ

オルヤ他方當口ヨリ来ル場合ハ如何尚沿岸貿易稅廢止ノ今

ヲ承認スルコト能ハス

右ノ解釋ノ正當ナルコトハ前（記）議定書締結當時ニ於テ石炭ニ對スル民國ノ一般輸出稅ハ一噸ニ付三錢ナリシモ（該稅率ハ一九一七年五月一噸ニ付二錢ニ改訂セラレタリ）該議定書第二條ニ依リ一噸ニ付一錢ト特別ニ協定セラレタルモノニアラサル事實ニ徵スルモ明白ニ之ヲ證明スルコト得ヘシ加之議定書ニ於テ日本政府ハ民國政府ニ對シ一定率ノ鑛產稅及釐金保障稅ノ納付ノ外諸種ノ反對給付ヲ爲シ之カ代償トシテ六十年間ヲ限り本件石炭ノ輸出稅ヲ前記ノ如ク特定シタルモノナルヲ以テ右稅率ノ特定ハ單純ナル最惠待遇ノ外何等特別ノ意義ヲ有セスト爲ス前記外交部長覺書ノ趣旨ハ議定書締結ノ精神ニ鑑ミルモ到底之ヲ承認スルコト能ハス

（二）海關ノ許可ナクシテ船積セラレタル貨物ハ之ヲ沒收シ得ベキ處（英支天津條約第三十九條米支天津條約第二十三條等）右規定ハ從來嚴格ニ勵行シオルヤ又本件ノ場合ニハ輸出港海關ノ發給スル納稅拒絕証書ノ提示乃至轉口稅供託等ノ理由ヲ以テ密輸品ニ非サルコトヲ立証シ到着港ニ於テ沒收ヲ免ル、ヲ得ヘキヤ

（三）前記（一）又ハ（二）ノ内何レカノ故障アリテ極力交渉スルモ處本件石炭ハ到着港ニ於テ何等納稅ヲ要セザルモノナルニ付實力ニ依ル場合ニモ陸揚及倉庫ヨリノ引出等ニ付テハ地方ニ依テハ大ナル困難ナルヘキヤニモ思料セラル、ガ右ニ處スル具体策如何（英支天津第三八条参照）

（四）正規ノ關稅ヲ納付セザル貨物ヲ積載セル船舶ニ對シテハ稅關ハ出港免狀ノ發給ヲ停止スルコトヲ得ベキモ（英支天津第四一條）此ノ場合領事ハ自己ノ責任ヲ以テ右船舶ニ對シ出港ヲ許可スルコトヲ得ルノミナラズ（米支天津第二二条末段）到着港ニ於テハ本件石炭ハ納稅ノ必要ナキヲ以テ

本省 7月3日発

此場合税關ハ前記英支天津第四一條ニ依リ出港免状發給ヲ停止スルヲ得ザルモノト解セラル又密輸船ニ対スル英支天津第四八条ノ制裁モ前記(二)ノ方法ニ依リ之ヲ免ル、コトヲ得ヘシ

(五) 本年二月一日上海海關告示ノ「船舶ノ入港並積荷目録及その他ノ船舶書類ノ提出ニ関スル諸規則」ニ依レバ海關ノ出港許可ヲ得ズシテ出港シタル船舶ノ船長ハ罰金一千両ヲ課セラル、コトハナリ居ルモ右罰則規定ハ條約ニ根據ナキヲ以テ之ヲ承認スルノ限りニ非ズ

右諸項御内査ノ上何分ノ貴見ト共ニ回電アリ度シ

上海へ轉報アリタシ

北平、奉天、安東、牛莊、南京、天津、青島、福州、廣東、香港、漢口、芝罘、廈門、汕頭、九江、蕪湖、閔東長官ヘ轉電セリ

539 昭和6年7月3日 币原外務大臣より  
塙本關東長官 在牛莊荒川領事宛(電報)

六月分以降の新旧税率差額納入しない旨満鉄  
側に命令方訓令

540 昭和6年7月3日 币原外務大臣より  
塙本關東長官 在牛莊荒川領事宛(電報)

中国側において我が方提案弁法に応ぜざる場合は強制通關実行する外なきにつき予め準備方訓令

本省 7月3日発

合第三七三號(暗)

本大臣發重光代理公使宛電報第二二〇號ニ關シ

中國側ニ於テ我方提案弁法ノ何れニモ應セサルニ於テハ右往電第二二〇號後段ノ通實力可能ノ範圍内ニ於テ強制通關ヲ實行スルノ外ナキニ付貴官ハ此際至急關係各方面ト協議シ豫メ其準備ヲ整ヘ置カレタシ

尚右通關方法トシテハ先ツ満鉄ヨリ税關ニ對シ新旧税率差額支拂停止ノ理由ヲ以テ旧税率ニ依ル通關手續ヲ試ミ(イ)税關ガ之ヲ認ムルトキハ普通ノ手續ニ依リ出港スルヲ得ヘキ

(ロ) 税關ガ之ヲ拒絶スル場合ニハ満鉄ハ税關ヨリ通關拒絶證書ノ發給ヲ求メタル上關東長官及牛莊領事ノ命令ニ依リ

向ニ付テハ旧税率ノミヲ正金銀行ニ供託シ銀行ノ預金證書ハ夫々關東廳及牛莊領事館ニ於テ保管スルコトトシ然ル後

合第三七一號(暗、至急)  
本大臣發在上海代理公使宛電報第二二〇號ニ關シ

本件目下代理公使ニ於テ交渉中ナルモ通關便法妥結以前ニ貴地税關ヨリ新税率ニ依ル納稅方督促シ來ル場合ニハ満鉄側ニ於テ右延引方適宜措置シオル次第ナルモ(往電合第三五八號参照)或ハ突然税關ヨリ正式ニ支拂ヲ命ズルコトナキヲ保セズ右ノ場合満鉄ニ於テ新旧税率ノ差額納付拒絕ノ理由ヲ示ス必要アルヘキニ付貴官ハ此際至急満鉄ニ對シ六月分以降新旧税率ノ差額ヲ納入スヘカラサル旨文書ヲ以テ命令ヲ發シ置カレタシ

尤モ本件ハ中央ニ於ケル前記代理公使宛往電通關便法(特ニ代理公使宛往電第二二一三號(二))交渉上ノ都合モアルニ付右命令ハ税關側ノ正式督促アル迄中國側ニハ絶対ニ洩レザルヤウ満鉄ニモ篤ト御注意置アリタシ

本電宛先關東長官及牛莊領事  
代理公使、北平、上海、奉天、安東、南京ニ轉電セリ

541 昭和6年7月4日 币原外務大臣宛(電報)  
本電發送先 關東長官及牛莊領事  
代理公使、北平、奉天、安東、上海、南京ニ轉電セリ

關東長官及牛莊領事ヨリ夫々右ノ次第ヲ税關長ニ通告シ右供託手續終了ノ上満鉄ヨリ税關ニ對シ出港許可書ノ下附ヲ請求シ税關ニ於テ之ヲ拒否シタル場合ハ關東廳海事部及牛莊領事館ヨリ該石炭積載船舶ニ出港命令ヲ發スルコト致度キ意嚮ナル處是等手續ノ實行ニ關シ御氣付ノ臾ハ電報アリ度シ

宋子文が強制通關により日中両国間の悪感情  
を助長しないようしたき旨談話について

上海 7月4日後発  
本省 7月4日後着

第五九六號(至急)  
貴電第二二〇號ニ關シ

三日宋財政部長ニ會見石炭輸出税ノ問題ニ付篤ト申入レタル處日本側ニ於テ支拂ハサル場合ハ已ムヲ得ス其ノ際ハ各

税關長ヨリ自分ニ報告アルヘキニ付自分ニ於テ飲ミ込ミ日支兩國ノ間ノ惡感情ヲ向上セシメサル様ニ致シタシ特ニ新報紙上ニ驕立テラレ自分等ノ立場ノ困難トナラサランコトヲ希望ス云々ト述ヘタリ

右會見ノ際本官ハ石炭輸出地ハ大連安東營口ナル處特ニ大連ハ日本人稅關長ニテ斯カル日支間ノ重要問題ニ付テハ民國稅關吏トシテ態度非常ニ堅キ次第ナレハ然ルヘク「ヒント」ヲ與フル様ニ措置シ吳レタント申入レタルモ宋ハ右ハ

自分ヨリ言フ譯ニ行カサルニ付日本側ニ於テ支拂ハサル儘通關セシコトヲ報告セシメ自分ニ於テ諒解シテ差支ナカラントノコトナリ

堀内ヲシテ更ニ張福運ト接觸セシメ又横竹ヲシテ直ニ「メイズ」ニ會見セシメ適當措置方ヲ懲通スル手筈ナリ大連其他ノ地ニ於テハ右ノ事實ヲ明ラ様ニ示スコトナク稅務司ニ對シ密接ノ聯絡ヲ保持シテ適宜中央ニ報告セシメ本件ヲ事實上我方ノ有利ニ解決スルコトト致シタシ

宋財政部長ニハ我兩度ノ覺書英文ヲ渡シ充分考究アリタク尙條約論ニ付テハ日本側ハ確信ヲ有スル次第ナル旨付言シ置ケリ

又日本銀行ヘ「デポジット」云々ノ件ハ本官ニ於テ何等申出サリシ次第ナリ

尙又當方ニテハ新聞記者ノ質問ニ對シ「本件ハ交渉進行中ニシテ遠カラス解決ヲ見ルヘシ」トノ趣旨ニテ應酬シ居ル次第ナリ

北平、奉天、南京、安東、牛莊、關東長官ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

北平、奉天、南京、安東、牛莊、關東長官ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

542 昭和6年7月4日 在中國重光臨時代理公使より 常原外務大臣宛（電報）

横竹をしてメーブに對し宋子文との間で日本側が旧稅納付に至った旨説明について

上海 7月4日後発 本省 7月5日前着

第五九七號（至急）

往電第五九六號ニ關シ

四日横竹ヲシテ「メイズ」ニ對シ三日宋子文話合ノ結果宋ニ於テ日本側カ舊稅ヲ支拂ヒテ輸出スルヨリ外途ナキコト及兩國間ニ面倒ヲ起ササルコトヲ希望スル事情ヲunderst-

旅順 7月7日後発  
本省 7月7日後着

第七〇號  
在支代理公使宛？貴電第二二〇號ニ關シ

旅順 7月7日後発  
本省 7月7日後着

andセル模様ナレハ「メ」ニ於テモ右ノ事情ヲ含ミ大連海關等ニ於テ商人力舊稅率納付ノ上通關セントスル場合ニ稅關長ヨリ請訓セル際ハ財政部大体同意ノ旨語リ居タル趣ナリ

尙其際横竹ヨリ最近大連ノ遣口ハ餘リ「ナーヴアス」ニ過キ居ル様思ハルルカ今少シク裕取ヲ作ル様「ヒント」ヲ與ヘラレ間敷ヤト言ヘルニ「メ」ハ福本ハ稅收ヲ保護スル爲精勵シ居ル次第ナリトテEC問題ニ關スル滿鐵ノ強制通關ヲ大イニ批難シ居タル趣ナリ尙本件「メ」トノ交渉ハ大連稅關長ハ別トシ明ラ様ニ外部ニ發表セラレサル様致度シ爲念

北平、奉天、安東、牛莊、南京、關東長官ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

編注 「部」と「大」の間に「？」との書き込みあり。

~~~~~

543 昭和6年7月7日 塚本関東長官より 常原外務大臣宛（電報）

強制通關に対する關東厅側の対応について

ルコト

尙強制通關ノ方針決定後ト雖之力實行前相當時日ノ餘裕ヲ
取り代理公使發本官宛電報合第七七三號等ノ方法ニ依リ最
後迄妥結方針ニ努力スヘン

在支公使ヨリ上海、南京へ轉報請フ

在支公使、北平、奉天、營口、安東へ轉電セリ

昭和6年7月9日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

安東、大連における強制通關を稅関規則違反と
する中國側に対し新稅の抗議付納付もやむをえ
ないと思考について

上 海 7月9日後発

本 省 7月10日前着

往電第五九六號ニ關シ

第六一二號

一、豫テ堀内張署長ニ接觸シ第一案トシテ保證付舊稅納付
ニテ通關ヲ許ス方法ニ付先方ノ考量ヲ促シ相當ノ見込
アル模様ナリシ處之ニ對シ張ハ八日附堀内宛手紙ニ於
テ先方ニテハ種々考量研究ノ上財政部長ト協議ノ結果
除去シ得ヘキ地位ニ非サルカ如シ

(イ)前述ノ如キ一般空氣ノ惡化セル際ニ前項ノ故障ヲ排
除シ例ヘハ特ニ上海等ニ於テ強制的ニ陸揚スルカ如キ
コトハ今日ノ場合如何ナル結果ニ立至ルヤモ保シ難ク
之ハ差控フルヲ可トス然ラハ大連ニ於テ民國內地向石
炭ニ對シ新稅ヲ供託シテ輸出スル案モ後述(ニ)ノ案ニ比
シ左迄有利ナラサルノミナラス

右ノ故障ヲ排除スルニ足ル手段ナリヤハ疑問ナリ尤モ
此點ニ付テハ更ニ形勢ノ進ムニ從ヒ大連ニ於テモ稅關
側ニ提示シテ妥協ノ餘地アリヤ交渉ヲ試ムヘシ

(ニ)或ハ結局民國內地向ニ付テハ抗議付ニテ新稅ヲ支拂
フコトハ到着港ニ於ケル故障ヲ排除スル見地ヨリ見テ
今日ノ場合イムヲ得サルヘシタルノミナラス内
地向輸出新稅率ノ増加額ハ外國向ハ夫レニ比シ遙カニ
低キヲ以テ（外國向ハ三錢四分内地向ハ一錢五分）之

544 昭和6年7月9日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

安東、大連における強制通關を稅關規則違反と
する中國側に対し新稅の抗議付納付もやむをえ
ないと思考について

上 海 7月9日後発

本 省 7月10日前着

往電第五九六號ニ關シ

第六一二號

一、豫テ堀内張署長ニ接觸シ第一案トシテ保證付舊稅納付
ニテ通關ヲ許ス方法ニ付先方ノ考量ヲ促シ相當ノ見込
アル模様ナリシ處之ニ對シ張ハ八日附堀内宛手紙ニ於
テ先方ニテハ種々考量研究ノ上財政部長ト協議ノ結果
除去シ得ヘキ地位ニ非サルカ如シ

二⁽²⁾、若シ中國側ノ態度ニシテ右張ノ手紙ノ如ク之ヲ變更セ
サル場合ニ於テ我方ノ執ルヘキ處置ニ付考量スルニ
(イ)日本及外國向ノ輸出ニ付テハ安東ノ外大連（出來得
レハ營口ニテモ）ニ於テモ強制通關ノ方法ヲトリ舊稅
ノミヲ供託シテ輸出スヘク
(ロ)民國內地向特ニ上海向石炭ニ付テハ始メノ案ノ如キ
舊稅ノミヲ供託シテ強制通關スルモ上海等ニ於テハ稅
場合民國側ヨリ報復ヲ受クル虞アル處（往電第六〇四
號(四) 民國側カ其處迄追及シ來ルモノトハ考ヘラレサ
ルヲ以テ此點ハ今ノ處考量ニ入ルル要ナカルヘシ
北平、奉天、安東、營口、南京、關東廳へ轉電シ上海へ轉
報セリ

545 昭和6年7月10日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛（電報）

安 東 7月10日後発

本 省 7月10日後着

一、當業稅拒絶による日本商の苦境に対し手數料
等の名義で護照發給を裏面より折衝する様態
憑について

本官發奉天宛電報第八五號

につき強硬姿勢での交渉方訓令

本省 7月11日後4時50分発

往電第八三號ニ關シ

其後モ當方ニ於テ中國側ノ營業稅ヲ拒絶シ居ル關係上先方ハ邦商ノ取扱フ奥地向ケ發送貨物ニ對スル護照ノ發給ヲ飽迄拒絶シ爲ニ爾來一ヶ月餘ハ邦商ノ奥地取引全然杜絕スルニ至リ甚タシク苦境ニ陥リタルヲ以テ本官ハ邦商等ヲシテ稅金ノ名目ヲ離レ手數料又ハ寄附名義ヲ用フル等何等カノ便法ヲ講シ護照發給方裏面ヨリ折衝スル様慾通スル一方本官モ極力其間ニ斡旋シタル結果今般漸ク手數料ノ名義ニテ護照一通大洋二元トシ差當リ即時金四十元ヲ一ヶ月分トシテ稅局ニ前納シ一ヶ月ノ使用數二十枚ヲ越ユルモノハ其超過數ニ應シテ追加支拂ヲ爲シ又二十枚ニ足ラサルモノハ翌月分ニ廻スコトトシテ圓滿落着ヲ告ケタリ

外務大臣、支、北平、關東廳長官へ轉電シ、牛莊、鐵嶺、遼陽、長春へ暗送セリ

546 昭和6年7月11日

幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛（電報）

東北石炭輸出稅問題に対する中國側態度変更

ニ終ル場合ニハ昨年輸出附加稅實施ノ際石炭ノミハ之ヲ除外シタル事實ヲ外交部ニ申シ入ル、外ナキコトヲモ適宜援用セラレ我方提案ニヨリ妥結方此ノ上トモ御盡力アリタシ上海ニ転報アリ度シ

北平、奉天、安東、營口、南京、關東廳へ轉電セリ

547 昭和6年7月11日 石川満鉄交渉部次長より
木村理事宛（電報）

強制通関に関する在中国代理公使意見は不徹底かづ訓令違反でもあるとの内田満鉄總裁談話について

7月11日後9時30分発
7月11日後11時35分着

（交渉部電報第二五號）本日着任ノ總裁副總裁ノ命ニヨリ石炭輸出稅問題ニ關スル總裁退京後ノ經過ニ付河相課長、山崎立會ノ上報告セリ、其ノ際七月十日及十一日着關東長官宛代理公使電ヲ説明シ中央ニ於ケル形勢逆轉ノ事情ヲ申上ケタルトコロ總裁ハ支那向ハ抗議附ニテ新稅率ヲ納付シ日本及支那以外ノ外國向ハ舊稅率ヲ供託シテ強制通關セソ

トスル代理公使意見ニ付言及セラレ之レヲ以テ甚タ不徹底ノ意見ニシテ外務大臣ノ訓令ニモ反スルカ何レ大臣ヨリ之ニ對シ代理公使ニ訓令ヲ發スル場合ハ木村理事モ在京セルコトトテ内議アルコトト思フト言ハレタリ、爲念御知ラセス。

548 昭和6年7月14日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

石炭輸出稅問題に關し宋子文との間に取纏めを了した旨について

別電 七月十四日發在中國重光臨時代理公使より

右取纏め内容

上海 7月14日後発
本省 7月15日前着

第六三五號（極秘、大至急）
石炭輸出稅問題ニ關シ其後數次ノ會談ヲ經テ今十四日夜漸ク大要別電第六三六號ノ通纏マリタリ尤モ右ハ本日晝本官ト財政部長トノ最後ノ會談ニ於テ大体取纏メ夜張福運本官

第三三三號（暗）
貴電第六一二号及第六一四号ニ関シ

最近關東廳及滿鐵側ト大連稅閑長トノ接觸振ニ關スル滿鐵本社発木村理事宛電報ニ依レバ貴電第六一二号新稅ヲ抗議附ニテ支拂フ事ニ関スルI・Gヨリノ訓令ハ未ダ大連稅閑長ニハ到達シ居ラサルヤニモ思料セラル、處中國側ガ急ニ強硬ノ態度ヲ示シ來レルハ御來示ノ如キ理由モアルヘキモ我方ヨリ未ダ石炭輸出方法ニ關スル我方ノ強硬ナル態度ヲ明示シオラザルニモ因ル次第ト思考スルニ付便法交渉不調ノ場合ニハ關東長官及營口領事ヨリ夫々稅閑長ニ對シ我方ガ滿鐵ニ新稅支拂停止命令ヲ發シタル旨從ツテ滿鐵ハ舊稅率ノミヲ納稅スルノ外ナキ旨ヲ通告シ滿鐵ヨリモ右ノ趣旨ニ依リ六月分ニ付舊稅額ノミノ支拂（尤モ輸出手續ハ六月ノ例ニ依ル）ヲ稅閑ニ申出デ右ニ對スル措置方ニ付稅閑長ヨリ中央ニ請訓スル様取計ヒ中央當局ノ出方如何ヲ見届クル事ト致シ度キ意向ナリ、就テハ今後張福運等トノ御交渉ニ當リテハ右御含ミニテ應接セラル、ト共ニ便法交渉不調セス。

來訪具体化シタルモノニシテ右ハ張ヨリ更ニ財政部長ニ報告スル筈尙

(一) 總稅務司ニ對シテハ張署長ニ於テ適宜「アレンヂ」シ稅

關トシテハ財政部長ト本官トノ話合ノ結果ハ知ラサル建前ノ下ニ日本ノ處置ニ對シテ抗議シツツ從來通り通關ノ措置ヲ執ルコトトス右張ト總稅務司側トノ「アレンヂメント」

ハ十五日行ハルル筈ニ付大連ニ於テハ直ニ福本ニ於テ適當ノ訓令ヲ受クルコトナルヘシ

(二) 外交部ヨリノ問合セニ對シテハ財政部ヨリハ事情已ムヲ得ス適宜ノ方法ニ依リ居レリトテ輸出現場ノ事實ノミヲ告

クルモ右財政部長ト本官トノ「アレンヂメント」ハ之ヲ示サス

(三) 開港及其他各種支那炭關係業者トノ關係アルノミナラス輿論ノ關係上右「アレンヂメント」ハ破壞サレ易キニ付絶

對公表ヲ避クルコト

ノ打合セヲナシタリ尙又別電宋子文ヘノ手紙ハ今夜本官南京へ出發ニ付歸來ト同時ニ發送スル筈

當方ハ新聞社等ノ問合セニ對シテハ單ニ交渉進行中ナル趣旨ヲ以テ應對スル筈(本件「アレンヂメント」ニ付絶對秘

密ヲ保持スルコトハ宋子文張福運ノ立場上極メテ肝要ナルコト前記本官交渉ノ際特ニ看取セラレタル處ナルニ付右特ニ御注意ヲ請フ)

別電ト共ニ北平、奉天、安東、營口、南京、關東長官へ轉電シ上海へ轉報セリ

(別電)

上 海 7月14日後発
本省 7月15日前着

第六三六號(極秘、大至急)

一、外國(日本其他)輸出炭ニ對シテハ舊稅ヲ支拂ヒ新稅

トノ差額ハ本官ト外交部トノ交渉次第ニ依リテハ日本當業者ニ於テ後ニ至リ支拂フノ用意アルコトヲ本官ヨリ財政部長ニ「ガランティ」スルコト

二、「インターポート」(民國內ノ諸港)ニ輸出セラルルモノニ對シテハ舊稅ヲ支拂ヒ「サータツクス」ノ額ハ

輸出地ニ於テ民國側ノ指定スル銀行ニ兩國官憲(稅關長ト日本官憲)ノ名ニ於テ輸出者ヨリ供託ス

三、右ノ内容ヲ有スル書面ヲ本官ヨリ財政部長ニ送付シ先

方ヨリ内容ヲ確認スルコト

~~~~~

549 昭和6年7月17日 在中國重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛(電報)

東北石炭輸出稅問題に關する了解覺書内容修

正の上宋子文宛發送について

別電 七月十七日發在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛第六五一號

右覺書(英文)

上 海 7月17日後発  
本省 7月18日前着

第六五〇號(至急)

往電第六三五號ニ關シ

(一) 十七日上海歸來ノ上直ニ財政部長次テ關務署長等ニ會見シ本件進捗方ヲ督促シタルニ先方モ其後總稅務司トモ聯絡ヲ取リ種々考究シタル模様ナリ

本官發財政部長宛ノ手紙ニ付テハ更ニ種々折衝ノ結果別電第六五一號ノ通決定(文章トシテハ相當面白カラサル點アラモ)十七日附ヲ以テ本官ヨリ發送スルコトトナレリ

右ノ中前電ト異レル點ハ内容ニ付テハ供託銀行ハ輸入地ノ銀行トスル點ナリ右ハ稅關ノ手續上相當不便ナルモ宋子文ノ固執スル所ニシテ張福運モ「メーズ」ト相談ノ結果手續上爲シ得ルコトナリタル趣ナリ

(二) 張福運カ十七日午後ニ本官ヲ來訪シタル際充分事情ヲ確メタルカ張ハ「メーズ」トハ大体打合セヲ了シタル趣ニシテ尙別電ノ手紙ヲ受領次第直ニ更ニ「メーズ」ト打合セヲ爲シ直様秘密ノ手紙(電報ニテハ不可)ヲ關係稅關長ニ發送シ此「アレンヂメント」ニ依ル取扱ヲ開始スルコトトスル旨述ヘタリ

尙張ト左ノ通打合セタリ即チ約三日後(右秘密命令ノ到着ヲ豫想シ)ニ於テ輸出業者ハ稅關ニ對シ

(イ) 日本及外國向ノ輸出石炭ニ對シテハ舊稅ヲ納付スルコト但シ新稅トノ差額ハ中央ニ於ケル正式交渉ノ結果新稅支拂ニ決シタル場合ニハ之ヲ支拂フ旨ノ保障ヲ日本公使ヨリ中央ニ對シ與ヘ置ケリ

(ロ) 民國ノ他ノ港ニ移出スル石炭ハ舊稅ヲ支拂ヒ附加稅半「メース」ハ輸入地ニ於テ財政部ノ指定スル銀行ニ日本領事及民國稅關長ノ連名ニテ供託スルコト

ノ事實ノミヲ告ケテ本官等ノ間ニ取極アリタルコトハ一切  
言明セサルコトトシ右ニ依リ手續ヲ開始スルコトムシ税關  
ハ從來ノ手續通り之ヲ取扱フ（其場合必要ノ抗議ハ形式上  
之ヲ爲スヤモ知レス）

尙輸入港ニ於テ寄託スル點ハ甚々不便ニシテ特ニ廣東ノ如  
キ中央モ困ルコトト思ハルモ右ハ宋子文モ固持スル所ナ  
レハ日本領事ト共同ニテ寄託スルコトニモ鑑々強テ之ニ反  
對セス唯税關ニ於テ手續ヲ簡單明瞭ニシテ不便ヲ釀ササル  
様繰返シ述ヘ置ケリ

本電ノニ北平、奉天、哈爾賓、安東、牛莊、間島、天津、  
芝罘、青島、漢口、福州、廈門、汕頭、廣東、香港、關東  
廳へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

(別 電)

Shanghai, July 17th P.M.,

Received, July 17th P.M., 1931.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 651 (urgent, strictly confidential)

Dear Mr. Soong,

~~~~~

Shigemitsu

550 昭和6年7月17日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛
東北產雜穀輸入関稅引上げの日本人當業者ニ
与える影響に關し報告
機密第五九八號
(7月28日接受)

昭和六年七月十七日

在奉天

總領事 林 久治郎〔丑〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

滿洲產雜穀輸入關稅引上ノ邦人當業者ニ及ホスく

キ影響ニ關スル件

本件ニ關シ六月下旬御訓電ノ趣敬承右ニ關シテハ當地特產
商カ少數ノモノヲ除キ疲弊シ居レル現狀ニ於テ關稅ノ引上
ニ基ク當然ノ取引難ニヨリ直接打擊ヲ受クヘク殊ニ薄資特

產商ノ主要取扱品タル製油原料種子類ノ稅率引上ハ可成ノ
打擊ナルヘシト存セラル尤モ當地ハ元來特產物ノ生產地ニ
非ス仲繼地トシテ殊ニ中國側鐵道ノ發達ニヨリ中國人取扱

品ノ集散地トシテ漸次重要性ヲ増シツツアルモ邦商關係ト
シテハ滿洲ノ他地方ニ比シ差迄重要ナラサルカ本件關稅ノ

With regard to the question of the export duty on Manchurian coal, I beg to confirm that our people are willing to undertake the following :

That for Fushun, Yentai and Peihsihu coals exported to Japan and other foreign countries, the export duty shall be paid according to the old rate, and the Japanese Chargé d'Affaires hereby guarantees the payment by the exporters of the difference between the old and new rates in the event of the new rate being agreed to upon negotiations between myself and your Minister of Foreign Affairs ; and that for the same coals exported to ports in China the exporters shall pay the export duty of one mace per ton, and deposit in the joint names of the Japanese authorities and the Commissioner of Customs the amount of money equal to the interport surtax of half a mace per ton with a bank at the port of importation named by your good self.

~~~~~

600

一、當地邦人特產商ニ及ホス影響  
當地邦人特產商ノ一般的業態ヲ見ルニ三井物產及三菱  
商事ノ出張所以外ニハ特產商組合ニ屬セル橋口洋行、  
大矢組、昌圖公司、櫻精穀所、佐伯洋行、小寺洋行、  
松隆洋行ノ七者ヲ主ナルモノトシ三井物產ハ主トシテ

| 品名 | 内地向    |        | 朝鮮向   |     | 合計     |
|----|--------|--------|-------|-----|--------|
|    | 豆種     | 玉高粟大豆  | 蜀黍粱   | 豆   |        |
| 合計 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 三〇〇 | 四三、五〇〇 |
| 大豆 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 小豆 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 粟  | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 高粱 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 豆子 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 蜀黍 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 粱  | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 大豆 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |
| 合計 | 一〇、一九〇 | 三八、一九〇 | 六、八一〇 | 九〇  | 四三、五〇〇 |

(種子ハ大麻子、小麻子、蘇子、胡麻等ヲ含ム)

## 二、各種雜穀別ニヨル觀察

## (一) 大豆

内地ニ需要セラル大豆ノ内食料即豆腐、味噌、醬油等ノ原料タル白眉大豆其他ハ南滿地方ニノミ産スルモノナル處食用大豆ハ内地ノ產額年々減少ノ傾向アルコトニモアリ關稅引上ニヨリ當地方取扱者ニ直接影響アルト共ニ内地消費者ノ負擔ヲ増加スルコトト存セラル豆粕ノ當方面ヨリノ輸出ハ多量ニハ非ルモ内地ニ於ケ

千五百百噸(一噸ハ一、〇〇〇「キログラム」)ニシテ當地、撫順及遼陽ノ出廻量ヲ含ミ其品種及仕向先ニヨル内譯左ノ通リナリ

(一) 大豆  
大豆ヲ取扱ヒ内地ノミナラス海外及中國商人ヲ利用シテ河北其他中國各地ニ仕向ケ居レルカ此種出商業ニ從事スル力アルモノハ三井ヲ主トシ他ニ三菱アルノミニシテ其他ノ邦人特產商ハ内地及朝鮮向雜穀ノミヲ取扱ヒ居レリ而シテ右ノ内三井及三菱其他一、二ノモノヲ除キ邦人特產商ハ(一)好景氣時代ノ反動ニヨリ痛ク打擊ヲ受ケタル上内地及朝鮮ノ不況ニ禍セラレ取引額ノ一般的減少ニ因リ多ク疲弊シ居リ前記商人以外ニ既ニ營業ヲ休止シ又ハ轉業シタルモノ若干有之次第ナルカ(二)資金難ハ殊ニ深刻ニシテ例へハ瀋海線出廻品ノ如キ輸送不完全ノ爲貨物停滯勝ナルニヨリ邦商ノ多クハ取扱ヒ得サル狀態ナル外(三)本年二月十一日東三省官銀號内ニ東三省購運特產事務所設置セラレ特產物ノ買占ニ當ルアリ又(四)中國側鐵道ノ運賃政策ニヨル貨物吸收策及(五)比較的資力アル遼陽ノ邦人特產商ノ買進ミアリ一方(六)從來粟ハ當地方ヨリ多量朝鮮ニ輸出セラレタルカ最近鮮内ニ於テ精選粟ノ需要盛トナルニ伴ヒ殆ト粟ノ精製工場ヲ有セサル當地ヨリノ出物力四平街物ニ壓倒セラレ(七)從來粟ハ北寧線方面ヨリ土地ニ集中シタルカ

大豆ヲ取扱ヒ内地ノミナラス海外及中國商人ヲ利用シテ河北其他中國各地ニ仕向ケ居レルカ此種出商業ニ從事スル力アルモノハ三井三菱ノ如ク資力ヲ有シ且出商業ニモ從事スルモノアリテハ格別大ナル打擊ナカルヘク若シ關稅引上ニヨリ雜穀ノ輸出思ハシカラサル時ハ他ノ貨物ノ輸出ニ轉シ又仕向先ヲ他ニ求ムルコトヲ得ルカ故ニ輸出減少ニ堪ヘ得ヘシト雖モ(二)元來當地ハ特產物ノ出廻高多カラサル上前記諸種ノ事由ニヨリ一般薄資物產商ハ關稅引上ニ基ク當然ノ輸出減少ニ因リ差當リ一般的ニ打擊ヲ免カレサルヘク殊ニ之等商人ハ大豆等ヨリモ利益多キ蘇子、大麻子、小麻子、胡麻等製油原料及粟ヲ主トシテ取扱ヘル者多キヲ以テ關稅ノ引上カ之等農產物ニモ及フ時ハ相當ノ影響アルモノト認メラル因ニ當地出廻雜穀ノ内地及朝鮮向輸出ハ大部分國際運輸會社當地支店ノ手ヲ經ルモノナルカ同社ノ本年六月末ニ至ル一年間ノ取扱量ハ合計四萬三千社ノ本年六月末ニ至ル一年間ノ取扱量ハ合計四萬三千

(二) 粟  
大豆初年以來朝鮮殊ニ北滿地方ニ於テハ不作ト共ニ高價ナル米穀ヲ輸移出シ之ニ代フルニ鮮米及外米ニ比シ安値ナル滿洲粟ヲ輸入シテ食料トスル傾向ヲ生シ其輸入量大正六年以來激増シ當時ニ比較シテ近年朝鮮米ノ產額ハ倍加シタルモ其輸移出量ハ三倍以上ニ達シ粟ノ輸入量ハ十八倍ニ上リ居リ滿洲粟ノ全輸出量ノ七割ハ朝鮮向ト稱セラレ朝鮮貧農ノ食料トシテ重要ナル地位ヲ占メ居レリ而シテ近年鮮内ニ於ケル米價ノ下落ト豐作ノ爲米粟ノ混合行ハレ滿洲ヨリ粟ノ輸出ハ多少減少シタリト雖モ(一)米安ノ爲農民ノ懷具合思ハシカラサルニヨリ安價ナル粟ノ需要ヤマス且(二)粟ハ鮮人ノ嗜好ニナルカ故ニ量的ニモ粟ヲ有利ト考フヘク孰ニスルモ粟ノ關稅引上ハ却テ鮮内農民ノ負擔ヲ增加スルコトトナルモノト察セラル尤モ目下ノ處當方面ヨリ粟ノ出廻激減シ居レル事情ハ前述ノ通ナリ

## (三)高粱及玉蜀黍

右兩者ノ關稅引上ニ關シテハ本年三月議會ニ於テ法律案ノ提出アリ其目的ハ内地ニ於ケル澱粉及之ヲ原料トスル餉ノ生産額ノ増加ニ顧ミ之力原料タル馬鈴薯及甘諸ノ競争品タル高粱及玉蜀黍ノ輸入關稅ヲ引上ケテ農家ノ重要收入ノ一タル馬鈴薯及甘諸ノ栽培ヲ保護セントスルニ在リタリ

右關稅引上案ニ對スル當方面當業者ノ意向ヲ見ルニ内地ニ於ケル高粱及玉蜀黍ノ主ナル用途ハ家畜飼料ニシテ昭和四年度ニ於テ滿洲ヨリ内地ヘノ仕向量高粱五萬五千噸玉蜀黍三萬五千噸兩者混合飼料三萬噸其他ヲ併セ合計十三、四噸ニ達シ近年漸増ノ傾向アルハ大豆其他雜穀ノ場合ト同シク價格ノ低廉ナルニ因ル次第ナル力從來無稅ノ高粱ニ對シ每百斤五拾錢ノ輸入稅ヲ課シ玉蜀黍每百斤從來參拾錢ナリシモノヲ壹圓五拾錢ニ引上ケントスルカ如キハ滿洲ヨリノ輸出ノ激減ヲ來シ啻ニ取扱商人ニ大ナル影響ヲ與フルノミナラス一方内地用飼料ノ暴騰ヲ來シ農村ヲ疲弊セシムコトトナルヘシト云フニ在リタリ孰レニスルモ取扱者側ニ於テハコ

レ等貨物ノ關稅引上ハ相當打擊ヲ免カレサルヘシ

## (四)小豆、蕎麥、胡麻其他種子類

前記高粱、玉蜀黍及粟ノ如ク滿洲中國人ノ主要食料品タルモノハ關稅引上ニヨリ輸出困難トナル時ハ農民ハ自家ノ消費ニ充ツヘキモ小豆ノ如ク多ク菓子又ハ餅用餉ヲ製造スルニ止マリ用途廣カラサルモノハ胡麻、蕎麥ト共ニ農民ニ於テ消費ノ道少キニヨリ翌年ヨリ播種ヲ差控ユルコトナルヘク一方内地消費量ノ減退アルヘキモ價格ノ騰貴ト關稅ノ增加トハ是亦自然内地及朝鮮ノ消費者ニ轉嫁セラルモノト思考セラル

編注一 「土」の箇所に「當」と書き込み訂正あり。

編注二 「ノ」の後に「ニ」と書き込みあり。

編注三 「物」の箇所に「特」と書き込み訂正あり。

編注四 「テ」の後に「ノ」と書き込みあり。

編注五 「滿」の箇所に「鮮」と書き込み訂正あり。

551 昭和6年7月22日 (幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛 (電報)

本省 7月22日發  
第二四九號

## 満鉄側が二重課税による減収を憂慮している

## ため我が方主張通り解決方訓令

別 電 七月二十二日發幣原外務大臣より在中国重

光臨時代理公使宛第二五〇号

二重課税問題に対し大連海關において戻税制度存続を主張する理由について

上海へ轉報アリタシ

北平、奉天、安東、牛莊、南京、關東長官へ轉電セリ

## (別電)

本省 7月22日發

第二五〇號(暗)

往電第二四九號ニ關シ

(一)中國海關ハ本來ナラハ租借地境界ニ於テ奥地滿洲ヘ

ノ出入貨物ニ對スル徵稅事務ヲ取扱フヘキモノナル設置セラレタルモノト解セラル

(二)中國海關ハ本來ナラハ租借地境界ニ於テ奥地滿洲ヘ

ノ出入貨物ニ對スル徵稅事務ヲ取扱フヘキモノナル

設置セラレタルモノト解セラル

ス滿鐵側豫測ニ依レハ二重課税ノ結果滿洲向再輸出外國品

力全部營口等ニ仕向ケラルコトニヨリ生スル滿鐵ノ收入

E・Cヲ發給スルニ比シ商機上ノ便宜ハ遙ニ劣ルノミナラ

減ハ年約六十五萬圓ナルモ本件貨物ノ營口向ハ荷主側實際取扱ノ便宜上同時ニ他ノ貨物ノ營口向ヲ誘致スヘキヲ以テ之ニ因ル滿鐵ノ收入減モ考慮ニ入レサルヘカラス(委細郵

(二) 他方關東州ニ於テ我方力自由港制度ヲ採用シ居ル關係及關東州ノ生産又ハ消費品ト満洲奥地ノ生産又ハ消費品トノ間ニ存スル緊密ナル關係ニ鑑ミ本協定ニ依リ關東州生産又ハ消費貨物ノ輸出入ニ關スル日本側稅關事務ヲモ大連海關ニ委任ス從テ此關係ニ於テハ海關協定上ニ於テモ大連ハ日本港タルノ地位ヲ維持ス

大連關協定ノ内容ハ細末ノ事項ニ付不備ノ點ハアルモ大連港出入貨物ノ徵稅ニ關スル同協定ノ諸規定ハ右ノ根本趣旨ヲ基調トスル二個ノ系統ニ區別セラル即チ大連輸入商品中奥地向ノモノカ大連關ニ於テ中國輸入稅ヲ課セラル點（協定(五)及往電第一七四號(イ)(ロ)(ハ)(ニ)（奥地搬入品ニ關スル分）ノ諸點ハ前記(一)ノ趣旨ニ依ルモノニシテ關東長官宛往電第五〇號(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ノ諸點ハ前記(二)ノ結果ナリ

貴電第五六四號御來示ノ通り大連關力内水航行關係以外ノ噸稅、燈臺稅及港稅ノ徵收ニ關與セサルハ他ノ中國港稅關ト異ナル所ナリト雖モ右ハ此等稅金力前記(一)ト直接關係ナキ一方大連カ日本港タルノ事實ニ基キ港

右ハ前記(二)ノ趣旨ニ合致スルモノニシテ此場合大連向外國港ト見ルヘキハ寧ロ當然ノコトニ屬ス尙本協定中ノ内水航行規定ハ大連通過貨物ノ大部分カ奥地關係品ナルニ鑑ミ即チ主トシテ前記(一)ノ見地ヨリ大連ト中國不開港間ノ航行ヲ認メタルモノト解セラル本件二重課稅問題ノ當否ニ關シテモ前記(一)及(二)ノ趣旨ニ照シテ判斷スルヲ要スル處從來大連向再輸出貨物ニ對シ例外ナク戻稅ヲ行ヒタルハ右貨物ヲ全部外國港向貨物ト見タル結果ニハ非ス此場合本來ナラハ再輸出港ニ於テ關東州消費貨物ノミニ戻稅ヲナシ奥地行貨物ニハE、Cヲ發給スヘキモノナルモ右兩種貨物ノ區別ハ到着後ニ於テ之ヲ行フヲ最モ便宜トスルカ故ニ特ニ協

定第九條ノ規定ヲ設ケ再輸出貨物ノ全部ニ付戻稅ヲナシ奥地行貨物ニ付大連ニ於テ改メテ輸入稅ヲ徵スルコトトナシタルモノト解セラレ戻稅時代ノ規定トシテ何等不備ノ點アリタリトハ思考セラレス要スルニ協定第九條ハ前記(一)及(二)ノ趣旨ト實際取扱上ノ便宜トヲ考慮シテ設ケラレタル特別規定ニシテ同條所定ノ戻稅ヲ廢止シ乍ラ輸入稅再納付ノ點ヲ維持セントスルハ兩者不可分ノ關係ヲ無視シ前記(一)ノ根本趣旨ヲ沒却スルモノト謂フヘシ從テ戻稅廢止ノ日本貨物ニ對スル課稅方法如何ハ別ニ同條規定ト同一ノ精神ニ依リ決定スルコト理ノ當然ト言フヘク而シテ此場合再輸出港ニ於テハE、Cヲ發給スルコト最モ妥當ト謂フヘシ蓋シ右ハ大連向再輸出貨物ヲ全部中國港向貨物ト見ル結果ニハアラス其ノ内州内消費向ハ前記(二)ニ鑑ミE、Cノ必要ナキモノナルモ州内向ノモノカ大連着後奥地ニ向ケラルルコトモアルヘキニ依リ戻稅時代ニ全部戻稅ヲナシタルカ如ク戻稅廢止後ニ於テハ全部E、Cヲ發給スルコト實際上最モ便宜ニシテ且此方法ニ依ルトキハ前記(一)及(二)ノ趣旨ノ何レニモ背馳スル所ナケレハナリ

三、過日中國海關ハ中國土貨ノ大連向輸出ニ付州内消費品ニ對シ新輸出稅ヲ満洲奥地向ニ對シ通シ船貨證券ノ存スル限り轉口稅ヲ課スヘキ旨告示セリ右ハ前記(一)及(二)ノ趣旨ニハ合致シ居ルヲ以テ若シ本件ニ二重課稅制度力我方主張通リE、Cニ改メラルニ於テハ關東廳ニ於テモ同告示ヲ承認シ差支ナキヤニ思考セラル一方（關東長官宛往電第五〇號參照）既ニ奥地向中國土貨ニ付前記轉口稅制度ヲ設ケ乍ラ再輸出外國品ニ付二重課稅制度ヲ設クルハ中國側ノ一大矛盾ニシテ此點ヨリスルモニ二重課稅制度ハ先方ニ於テ辯解ノ辭ナキ筈ナリ

四、尙大連協定第九條ニ基キ本件ノ場合依然戻稅制度ヲ存置スヘシトノ論アルモ同條ニハ單ニ條約ノ規定ニ依リ戻稅ヲナスヘシトアリ茲ニ所謂條約ノ規定トハ一般通商條約中ノ戻稅規定ヲ指スモノト解スルノ外ナク而シテ通商條約ニ基ク一般戻稅制度ノ廢止ヲ見タル今日本件ノ場合ノミニ付依然戻稅ヲ要求スルハ論據薄弱ト思考セラルモ先方ニ於テ飽迄二重課稅ヲ主張スルナラハ我方ハ協定第九條ヲ設ケタル前掲ノ理由ニ基キ又同條ト同一趣旨ニ出テタル青島海關設置ニ關スル獨清條

約九ノ規定ニ鑑ミ右條約ノ規定トハ單ニ通商條約中ノ  
戻税ニ關スル手續規定ノ謂ナリトシテ（一八六一年獨  
清條約第二十六條參照）本件ニ關スル限り戻税制度ノ  
存續ヲ要求セサルヲ得サル次第ナリ

右往電第一七四號補足旁申進ス  
上海へ轉報アリ度シ

北平、奉天、安東、牛莊、南京、關東長官へ轉電セリ

552 昭和6年7月22日 幣原外務大臣より  
塙本關東長官宛（電報）

関東州消費の中國產品に対する新輸出税課税  
を認め本件告示承認方訓令

本省 7月22日後9時26分発

第五〇號（暗）  
奉天發貴電第三三九號ニ關シ

大連海關協定ノ解釋ニ關スル當方意図ハ代理公使宛往電第  
二五〇號ノ通ナルヲ以テ中國通商港發大連向土貨ハ從來其  
消費地ノ如何ヲ問ハス一率輸出税ヲ課セラレタルモ（海關  
協定<sup>(+)</sup>）新輸出税及轉口稅制度設定ノ今日ニ於テハ右土貨

(1) 海路大連ニ輸入スル商品ニシテ關東州ニ於テ消費セラル  
ルモノカ輸入税ヲ免カルル點（協定<sup>(5)</sup>）  
(2) 租借地ノ產物及租借地ノ生產物若ハ外國ヨリ輸入セル  
料ヲ以テ製造シタル物品カ輸出税ヲ免ルル點（協定<sup>(6)</sup>）中  
段及假規則第五條  
(3) 中國通商港ヨリ大連ヘ來ル中國商品ニシテ租借地内消費  
ノモノカ沿岸貿易税ヲ免レタル點（協定<sup>(7)</sup>及假規則第二  
條）  
(4) 大連向再輸出外國貨物ニハ戻税ヲナシ右貨物中州内消費  
ノモノハ大連ニ於テ輸入税納付ヲ要セサリシ點（協定<sup>(9)</sup>）  
等海關協定上關東州内消費又ハ生產貨物カ外國領域内消費  
又ハ生產貨物ト看做サレ滿洲奥地向又ハ奥地產貨物トハ異  
ナル課稅取扱ヲ受ケ居ルコトニ鑑ミルモ是認セラルル所ナ  
リ尤モ中國產原料ヲ以テスル州内製品ハ中國港ニ輸入ノ際  
ニモ原料又ハ製品ニ對スル輸出税ヲ支拂フノミニテ輸入稅  
納付ヲ要セサルハ右原則ノ例外ナルカノ觀アルモ（協定<sup>(6)</sup>  
及假規則第六條）之トテモ此種製品ノ原料ハ假令租借地内

ニ於テ加工セラレストモ大連輸出ノ際ハ當然輸出税ヲ納付  
セサルヘカラサルコトニモアリ旁々本協定上右製品ヲ中國  
土貨トンテノ取扱ニ準セシメ以テ關東州ト奥地トノ相互的  
經濟關係ノ發達ヲ助長セントスルノ趣旨ニ出テタル特別規

定ニシテ關東州ヲ外國ト見ザル結果ニハ非ス從テ本件州内  
消費向土貨ニ關シテモ今後特ニ兩國間ニ協定ヲ遂ケサル限

リ大連海關設置ノ趣旨乃至冒頭貴電御來示ノ事項等ヲ理由  
トシテ轉口稅賦課ヲ主張スルハ根據薄弱思考セラル本件

土貨ニ新輸出税ヲ課セラルルコトノ不利ナルハ素ヨリ諒承  
スル所ナルモ事情前記ノ通ナルニ依リ懸案タル二重課稅問  
題カ我方主張通解決スル場合ニハ通シ船荷證券ニ依リ奥地  
向ト州内向トヲ區別スル方法ニシテ大ナル不便ナキ限り本  
件告示ハ其儘承認スルコトト致度キ處右ニ關シ何等御意見  
アラハ折返シ回電アリ度シ

代理公使、北平、奉天、安東、牛莊、南京ニ転電シ代理公  
使ヨリ上海ニ轉報セシム

在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛

瀋陽稅捐局による放行單の分割使用をめぐる

不法課稅に対し抗議について

機密第六一五號

昭和六年七月二十八日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

中國側ノ不當課稅ニ關スル件

當地中國稅捐局ハ邦商力貨物ヲ附屬地ヨリ城内ニ搬入スル  
場合ニ放行單ノ提示ヲ求メ放行單ナキ場合ニハ搬入貨物全  
部ニ對シ出產稅三分營業稅二分ヲ徵收シ又放行單面記載ノ  
貨物ヲ二回以上ニ分チ搬入スルトキハ第一回搬入貨物ニ對  
シテノミ放行單ノ效力ヲ認メ此分ニ對シテハ出產稅ヲ免除  
スルモ即時該放行單全部ヲ無効トシテ再使用ヲ認メサル爲  
メ搬入未濟ノ分ニ對シテハ出產稅ヲ徵稅シ尙ホ放行單ニ依  
リ出產稅ノ免除ヲ享クルトキニ於テモ該出產稅納付ニ對シ  
稅捐局ヨリ交付スル運單ハ僅ニ納稅額ノ七割ニ相當スルモ  
ノニ過キサル等ノ不都合アリテ邦商側ヨリノ苦情アルニ依  
リ藤村領事ヲシテ王交渉員ヲ通シ稅捐局ノ不法ヲ抗議セシ

メタル處王交渉員ハ放行單ノ分割使用ニ對シ使用未濟ノ分  
ヲ無效トシ又納稅額ニ相當セサル運單交付ノ如キハ當局ノ  
意思ニ非ス萬一斯ル事實アレハ違法行爲ニ屬シ嚴重取締ル  
ヘキモ將來斯ル事實アリン場合ハ關係者ヨリ稅捐總局等ニ  
通報セラルルヲ可トスヘシト應酬シタル趣ナリ

右何等參考迄ニ報告ス

本信寫送付先 北平首席、關東廳、在滿各領<sup>(事次)</sup>

編注 「トキニ於テモ」の箇所に「コト能ハザル場合ニ於  
テ」との書き込み訂正あり。

554 昭和6年8月5日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

宋子文と面談の際戻税の如き小問題を以て日

本側を不必要に刺激しないよう説得について

上海 8月5日後発  
本省 8月6日前着

四日宋子文ニ面會ノ際大連戻税ノ問題ニ付交渉ノ下地ヲ作

次テ本官ハ右ノ事態ナルニ拘ラス民國側ハ右海關ノ  
「ステータス」ニ付奥地向輸出入貨物ノ關係ト關東州  
内消費貨物ノ關係トヲ混同シ或ル場合ニ於テハ民國海  
關トシテ同一ノ立場ニアル大連關口營口關トノ間ニ區  
別待遇ヲ爲シ大連ハ外國ナリトノ解釋ノ下ニ海關設置  
協定中ニ規定アル戻税ノ制度ヲ廢止シ又或時ハ青島  
「ビール」生産稅ノ問題ノ如ク大連ハ内國ナリ等ノ主  
權論ヲ以テ生產稅ノ免除ヲ與ヘスト言ヒ如何ニモ關東  
州及滿洲ニ於ケル日本ノ利權ニ付テハ理由ノ如何ニ拘  
ラス其回収ヲ圖リ之ニ打擊ヲ與ヘント畫策セル様ニモ  
見ラル民國及民國人力主權回復利權回収ニ熱中セルハ  
明シタリ

之ヲ諒トスルモ右ノ結果滿洲其他ニ於ケル日本人ノ神  
經ヲ不必要ニ刺戟シ民國側ノ措置ハ總テ例外無ク右日  
本排斥ノ計畫的策動ノ結果ナリト斷定セシメ空氣ヲ惡  
化セシメ行クハ決シテ雙方ノ爲ニ利益ト言フ事ヲ得ス  
租借地回収ノ如キ根本問題ハ必要ニ應シテハ大イニ爭  
フモ可ナランモ海關ノ常務的小問題ニ付テ常ニ主權論  
ヲ振廻シ大連旅順ニ於テモ日本側最高首腦部ニ對シ抜  
クヘカラサル疑惑ヲ植付クルハ民國ノ爲ニ不利ナラス  
ヤ自分ハ少クトモ小問題ニ付テハ有ラユル努力ヲ以テ  
利益ノ調節ヲ計ルノ可ナルヲ信シ石炭問題ニ付テモ大  
ナル讓歩的妥協ヲ敢テシ青島「ビール」ノ問題モ貴方  
ノ申入ヲ容レテ片付ケ居ル次第ナルカ更ニ戻税ノ問題  
ノ如キ小問題ニ付大連ト營口トヲ區別扱ニシテ日本側  
ノ神經ヲ不必要ニ刺戟スルヲ回避シ度キ意向ナリト說  
キタリ

宋子文カ如何程迄我方ノ主張ヲ容レ得ルヤ豫想付カサルモ  
漸次我主張實現ノ素地ヲ作ル爲右ノ如キ應答ヲ爲シ置キタ  
リ

尙遠カラス戻税ノ問題ニ付當方ヨリ我方ノ主張ヲ覺書  
ニ認メ財政部長ニ送付スル積リナリ

北平、奉天、青島、南京、安東、牛莊、關東長官ニ轉電シ  
上海へ轉報セリ

555 昭和6年8月25日 在中國重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

二重課税問題につき内田新満鉄總裁と上海に

て意見交換したき宋子文の意向について

上海 8月25日後発

内田伯其他日本側首腦部ト會談シ右ノ趣旨ニテ双方協  
調ノ爲有ラユル努力ヲ爲スヘン自分ハ自分ノ權内ニ在

ル目的ヲ以テ左ノ通應酬シ置キタリ

一、本官ハ先ツ大連海關ノ「ステータス」ノ問題ニ付青島  
宛往電第一二號黃署長ニ對スル本官ノ說明ヲ敷衍シ大  
連海關ハ協定ノ範圍内ニ於テ民國奥地ニ輸出入スル貨

物ニ對シテ民國海關トシテ存在シ此點ニ付營口海關ト  
同様ノ立場ニアルコト並關東州内ニ消費ノ爲輸入セラ  
ル貨物ニ關シテハ全然右ト趣ヲ異ニスヘキ次第ヲ闡

明シタリ

一、二十五日宋子文ト會見ノ際二重課稅問題ニ關スル日本側覺書ハ充分研究セラレタリヤ實ハ内田伯滿鐵總裁就任以來假令理由アルトモ實力通關ヲ爲スカ如キコトハ差控ヘ只管民國側トノ諒解ヲ待チ居ル次第ナルカ上海等ニテ一旦關稅ヲ支拂ヒタル奥地向ノ貨物漸次大連ニ集積シ輸送出來サル爲總裁及幹部ハ非常ナル窮境ニ立チ居ル處本件ノ如キハ爾關手續上ノ問題ニテ滿洲ニ關スル根本問題ニハアラスト思フニ付速ニ之ヲ處理シテ空氣ノ改善ニ資シタシト述ヘタルニ宋モ之ニ異議ナク成ルヘク速ニ處理シテ日本側ノ覺書ニ對スル回答ヲ爲スコトトスヘシト答ヘタリ

本使ハ更ニ事態ハ當方ノ覺書ニテ非常ニ明白ナリト思フニ付何トカ右ノ趣旨ニテ解決スル様セラレタク尙張福運ニハ必要アラハ堀内書記官ヨリ更ニ充分説明セシムヘク又右覺書ヲ兩人ニテ研究セシムルモ可ナルニ付兔ニ角速ニ處理セラレタント督促シ置ケリ（堀内ハ既ニ張ニ會見シ説明シ置キタリ）

二、尙右ニ次イテ冒頭電報二ノ話ノ續キトシテ宋ハ自分モ仕事ノ都合ヲ見テ何氣ナキ態ニテ大連奉天等ヲ旅行シタク

ヘタリ

奉天、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

556 昭和6年9月8日 在中國重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

E、C制度を大連で直ちに適用し閑東庁海關側間で妥協の促進を宋子文提案について

上海 9月8日後発  
本省 9月9日前着

第八六九號（至急）

一、大連戻稅ノ件ニ關シテハ往電第七四一號ノ通り我方覺書ヲ宋財政部長ニ手交シ考慮ヲ求メ置キタルカ以後或ハ同部長ニ對シ又ハ堀内ヨリ張關務署長ニ對シ委細我方ノ立場ト論據トヲ明ニシテ交渉ヲ進メ居ルカ我方ノ主張ニ對スル中國側ノ主張大要左ノ通り

二、戻稅ニ付テハ關稅（及戻稅）自主權回復ニ關スル關稅

協定ハ大連ノ海關取極ヲ「スープーリード」スルモノニシテ該取極中ノ戻稅ニ關スル部分ハ協定ニ依リ律セラレ（此點撫順石炭ニ關スル財政部ノ意向ト類似ス）從テ大連取極

考ヘ居リ其際滿洲ニ關スル根本的ノ問題ハ暫ク置キ關稅其他滿洲ニ關スル謂ハハ枝葉ノ問題ニ付テハ内田伯邊リト意見ヲ交換シ出來得ル丈疏通ヲ計リタシ尤モ自分ノ聞ク處ニテハ内田伯ハ上海地方ニ旅行サルルヤノ趣ナルカ其場合ハ當地ニテ面會シ得テ更ニ好都合ト思フ尙其前ニ之等ノ問題ニ付貴下ト意見ノ交換ヲ爲シ置クヘシ自分ハ何トカシテ兩國ノ關係ヲ不必要ニ險惡ナラシメサル様努力シ居ル處幸ヒ張學良モ自分ノ言ニハ相當耳ヲ傾クル様思ハル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ右ハ當方モ希望スル處ナレハ調節ヲ要スル形トシ提出スルコトトスヘシ内田伯ノ上海旅行ニ付テハ聞ク處ナク恐ラク現在ノ處其意向ナキモノト思ハル貴下ニ於テ豫テノ計畫通り北方ニ旅行セラルレハ内田伯等ト忌憚ナキ意見ノ交換ヲ爲シ得ル機會アリ好都合ナルヘシ又場合ニ依リテハ自分モ適當ノ機會ニ北方旅行ヲ爲シ右ニ付適當ノ助力ヲ爲スモ可ナリ何レニスルモ直接外交ノ當事者ニアラシテ有力者ナル貴下及内田伯等力滿洲ニ關スル種々ノ問題ニ付調節ヲ計ラントスル努力ハ非常ニ有效ノモノト思フト述ヘタルニ宋モ是非右計畫ヲ實現シタク考ヘ居レリト述

ヲ根據トスル日本側ノ主張ヲ認ムルヲ得ス而シテE、Cノ問題ニ付テハ右トハ別問題ナルカ中國側ニ於テハ特ニ大連ヲ他ノ海關ト區別シ待遇スル意思ナキモ大連ニ關シテハ特別ノ取極アリテ右ハ相當今日ノ事態ニ適合セサル部分アリ關東廳ハ海關ノ取扱事務ニ對シ協力ノ精神ヲ示サヌ些細ノ事ニ付テモ口實ヲ設ケテ海關ニ滿足ヲ與ヘス  
從<sup>(2)</sup>テ若シ關東廳ニ於テ右ノ如キ態度ヲ改メ民國海關設置ノ趣旨ニ顧ミ充分協調ノ精神ヲ發揮シ海關事務遂行上種々ノ取扱ニ便宜ヲ與<sup>(且)</sup>ヘ又現行取極ノ必要ナル改訂ニモ應スニアラサレハ（根本問題ハ素ヨリ之ヲ動力サス職務執行上便宜ノ諸點ニ付改善シ度シ）E、C、ノ如キモ民國側ヨリ特ニ進シテ便宜ヲ計ル意嚮ナシ尙將來香港トノ間ニ稅關設置ノ協定ヲ結フ場合若シ大連ニ便宜ヲ與ヘ居ラハ香港トノ取極交渉ニ釣合上ニ不利ヲ來スヘシ

三、右民國側ノ主張ニ對シテハ我方トシテハ絶エス大連海關取極力關稅協定ニ依リ何等左右セラレサルヘキ事及香港ニ於テハ何等取極ノ存在セサル今日之ヲ引合ニ出シテ大連ニ於ケル既存ノ狀態ニ結付クルハ不可ナル事ヲ主張シ且我方トシテハ大連取極ニ定ムル戻稅ヲ回復スレハ目的ヲ達ス

ル譯合ナルカ右ハ民國側トシテ困難ナルヘキニ付之ニ代フ  
ルニE、C、ヲ以テスル方便宜ナラント考ヘ之ヲ主張スル  
モノニシテE、C、カ別問題タルハ素ヨリ承知シ居レリ  
尤モE、C制度ノ點ヨリ見ルモ同シク民國海關タル大連海  
關ヲ他ト區別スルハ海關設置ノ精神ニ背馳ス從テ此ノ問題  
ヲ以テ他ノ大連ニ於ケル手續改善乃至取極改訂問題解決ノ  
「バーゲン」ニ用ヒラル事ハ全然筋違ヒト思考ス更ニ關  
東廳ト雖民國海關ノ「プロパー」ナル職務執行ニハ凡ユル  
便宜ヲ供スル意向ナルハ明力ナリ從テ將來海關ノ事務遂行  
上改善ヲ要スル點ハ双方ヨリ此ヲ持出シ研究スル事ニ何等  
異存ナキ次第ナルカ右ハ明力ナリ從テ將來海關ノ事務遂行  
テ若シ民國側ニ於テ大連ニ對シ差別待遇ヲ爲ス考ナクンハ  
先ツE、C問題ニ付大連ヲ他港ト同様ニ取扱フ事然ルヘキ  
旨ヲ強ク主張セリ

四、右ニ付張福運等ハ本使等ニ對シ關東廳ノ協力カE、C  
問題解決ノ先決問題ニシテ中國側トシテハ大連ニ對シ故意  
ニ差別的待遇ヲ付シ又海關設置ノ取極ヲ根本的ニ改ムル事  
ニ付テモ内部ニ於テハ議論ハアルモ今日此ヲ行フ意志毛頭  
ナシ只海關ノ事務遂行ニ付今少シク協力ヲ求メタシトテ事  
權回復等ノ條約論ハ讓ルコトヲ得サルカ將來大連ニ於テ關  
東廳ノ協力ヲ期待スル旨爲ニE、Cノ制度ヲ中國側ヨリ自發  
的ニ大連ニ承認スル旨ヲ通知シE、C、制度ヲ直ニ大連ニ  
適用スルコトトシ右ニ對スル返書ニテ本使ヨリ關東廳ニ於  
テ協力ニ賛ナラサル旨回答シテ貰ヒタク其上ニテ海關ニ於  
ケル専門家ヲシテ日本側ト協力方ニ關シテ雙方ノ言分ヲ取  
纏メシメ協力ノ實現ヲ圖リ得ル様「ステップ」ヲ取リタン  
(素ヨリ雙方ノ意見纏ラサルトキハ別トス)右ニテ本件ヲ  
解決スルコトニ宋部長ニ進言シタシトテ態度ヲ緩和スルニ  
至レリ

六、右ニ對シ本使ハ右ノ手紙ハ差當リ貴下ニ於テ起案シ本  
使ニ於テ内覽ノ上考量スヘク明日明後日ノ間ニ於テ右案文  
ニ基キ更ニ本件ヲ相談シタシト述ヘ手紙ノ中ニハ民國側ニ  
於テ協力ヲ希望スル具體的事項ニハ立入ラサルコトトシ雙  
方トモ協力ノ精神ヲ云々スルニ止メ本件一段落ノ上ニ於テ  
各専門家力隨時協議スルコトニハ異存無キコトシタク又  
右ノ手紙ノ立案ニ際シテハ本使ノ從來述ヘタル日本側ノ立  
場ヲ容易ナラシムル様留意セラレタシト註文シ置ケリ  
北平、奉天、哈爾賓、安東、牛莊、天津、南京、關東長官

關ヲ他ト區別スルハ海關設置ノ精神ニ背馳ス從テ此ノ問題  
ヲ以テ他ノ大連ニ於ケル手續改善乃至取極改訂問題解決ノ  
「バーゲン」ニ用ヒラル事ハ全然筋違ヒト思考ス更ニ關  
東廳ト雖民國海關ノ「プロパー」ナル職務執行ニハ凡ユル  
便宜ヲ供スル意向ナルハ明力ナリ從テ將來海關ノ事務遂行  
上改善ヲ要スル點ハ双方ヨリ此ヲ持出シ研究スル事ニ何等  
異存ナキ次第ナルカ右ハ明力ナリ從テ將來海關ノ事務遂行  
テ若シ民國側ニ於テ大連ニ對シ差別待遇ヲ爲ス考ナクンハ  
先ツE、C問題ニ付大連ヲ他港ト同様ニ取扱フ事然ルヘキ  
旨ヲ強ク主張セリ

情ヲ説明シタルヲ以テ

當方ハ安東密輸取締ノ事情等ヲ引用シテ關東廳ニ協力振ヲ  
説明シ右ニモ拘ラス海關側ハE、C、問題ニ對シ差別的待  
遇ヲ與ヘントスルモノノ如ク見ユ之等カ關東廳阿片問題ト  
關聯シテ大連ノ空氣ハ不満ニ満チ居レリ右ノ狀態ヨリ察ス  
ルモ大連ニ於ケル協力ヲ回復スルニハE、C、ノ如キ差別  
待遇ハ廢止シ不満ヲ一掃シ其上種々事務遂行ノ談合ヲ付ク  
〔コト?〕事ノ進捗ヲ計ル上ニ便宜ナルヘシ民國側ハ日本側ニ協力  
ノ意思無キ爲E、C問題發生スト謂フモ之ハ寧ロ逆ニ考フル  
事トシ度シト說得セリ(阿片問題ニ付テハ張ハ日本側ニ手  
續上ノ誤り無カリン事ハ充分了解スルモ運送者ニ矛盾セル  
行爲アリ惡意ノ存在殆ト明瞭トナリシ事ヲ詳細説明セリ)  
五、九月八日早朝宋ニ面會シ大連ニ重課稅問題ノ急速解決  
ヲ更ニ督促シ本使ノ覺書ハ研究ヲ盡シタル上立案シタル趣  
旨ヲ説明シ置キタルカ其際宋ハ我方ノ素志ヲ諒トシ早速張  
ヲ本使ノ許ニ派シテ急速相談セシメタシトノ意見ナリシカ  
同<sup>(5)</sup>日午前張來訪更ニ前記ノ如キ雙方ノ立場ヲ繰返シタル後  
本使ヨリ此問題ニ付當方ノ主張ヲ容ルル必要ヲ力説シタル  
力張ハ結局宋部長ヨリ本使ニ書面ヲ以テ戻稅ニ關スル自主

ヘ轉電セリ

557 昭和6年9月10日 币原外務大臣より  
在牛莊荒川領事宛(電報)

### 煙草統稅につき營口は大連より有利な状況と

見られるため查報方訓令

本省 9月10日後7時55分発

第一七號(暗)  
在支公使發關東長官宛電報第八七六号後段ニ関シ

紙卷煙草及葉巻煙草ノ輸入稅ハ本年二月一日以降其ノ五分  
ノ一ハ海關ニテ徵收シ他ノ五分ノ四ハ統稅局ニテ徵收スル  
コトハナリタルガ(青島發本大臣宛電報第二一號參照)冒  
頭電報記載大連商工會議所陳情ニ依レハ全地ニハ統稅局ノ  
設置ナク右稅額ヲ全部大連海關ニテ徵收シ居ル為營口ニ於  
ケル課稅振ニ比シ著シク不利ナル取扱ヲ受ケオルモノト解  
セラル處右ハ貴地ニ於テハ前記統稅局徵收ノ分(即チ五  
分ノ四)ニ閔シテハ統稅局自ラ貨物ノ價格ヲ查定スル結果  
大連関ニ於ケル查定額ト相違ヲ生スルニ因ル次第カト思考  
スルモ(中國輸入稅表稅番三八五及三八六參照)捲煙統稅

條例（一九二八年一月公布實施、今十一月修正）第三條ニ依レハ卷煙草ノ評價格ハ統稅ニ付テモ稅関ノ査定方法ニ依ルヘキコトヽナリ居リ從テ統稅局ニテ勝手ニ評價シ得サル義ナルヤニ思考セラルヽニ付貴地ニ於テモ本件統稅ノ徵收振御查報アリタシ

尚住電第一三號其後ノ成行併セテ電報アリタシ  
公使、北平、奉天、安東、閔東長官ニ轉電シ公使ヨリ上海、南京ニ轉報セシメタリ

558 昭和6年9月10日 塚本閔東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

煙草輸入経路の當口への変更は根本に二重課税問題がある」とについて

関東庁 発  
本省 9月10日後着

本官發在支公使宛電報

第三九號 煙草ノ輸送經路ヲ大連ヨリ營口ニ變シタル主タル原因ハ所

外務大臣へ轉電シ、北平、奉天、芝罘、牛莊へ暗送セリ  
南京、上海へ轉報ヲ請フ

559 昭和6年9月10日 在中国重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

E、C制度を大連へ適用する中國側修正案に  
つて張福運稅務署長と会談について

別電 九月十日發在中国重光公使より幣原外務大臣宛第八八九号

戻税・二重課税問題に対する中國側修正案文

上海 9月10日後発

本省 9月11日前着

往電第八七〇號ニ關シ

張福運十日來訪シ財政部長ヨリ本使宛ノ案文ヲ齎ラシ相談シタルカ右ハ法律家ニアラサル素人ノ立案ニシテ例ニ依リ

外交文書トシテ缺陷アリ第一項ニ於テ本件民國側ノ條約上ノ立場ヲ説明シ第二項ニ於テ關東廳ノ海關ニ對スル態度ヲ難シ第三項ニ於テ日本政府ニ對スル協調ノ意ヲ表スル爲E、Cヲ與フ但シ貨物ノ「コントロール」ニ付テハ海關ト關東廳ト相談セシムヘシト言フニアリ話合ノ結果第一項ニ付テハ全然改メシメ其他ニ付テハ字句ヲ修正シ別電第八八九號ノ如キ案文トナレリ右ハ先方ニ於テ我要求ヲ容ルル体面上

ヨリ起草セルモノニシテ右修正案文ノ如クスレハ差支ヘナシト思フ之ニ對スル回答ハ適宜起草シ申ト午後面會諒解ヲ得ル筈ナリ（本件ノ發表ハ先方ニ於テ同意セス）右ノ程度ニテ本件ヲ解決スル方可ナリト思考ス又案文ノ修正ヲ申出

謂二重課税問題ノ發生ナリ當時煙草統稅ノ問題ハ未タ今日ノ如ク事態明瞭ナラス營口輸送ノ英米煙草モ最初ノ間ハ統稅支拂ノ方法ヲ發見スルニ苦シミタリシ程ナリシト記憶ス唯現在ニテハ大連經由ノ輸入煙草ハ定率通り輸入稅ヲ支拂フニ依リ之ヲ營口經由ノ場合ニ比較セハ二重三重ニ統稅ヲ支拂ヒタルト同一ノ結果トナリ居ルヲ以テ二重課税問題解決スルモ此ノ關係ノ匡正セラレサル限り煙草ノ營口廻りハ止マサルヘシ定率課稅ノ問題ニ付テハ日下本官ヨリ大連稅關長ノ説明ヲ求メ居レリ委細本月七日附本官發大臣宛拙信寫ニテ御承知アリタシ

外務大臣へ轉電シ、北平、奉天、芝罘、牛莊へ暗送セリ  
南京、上海へ轉報ヲ請フ

謂二重課税問題ノ發生ナリ當時煙草統稅ノ問題ハ未タ今日ノ如ク事態明瞭ナラス營口輸送ノ英米煙草モ最初ノ間ハ統稅支拂ノ方法ヲ發見スルニ苦シミタリシ程ナリシト記憶ス唯現在ニテハ大連經由ノ輸入煙草ハ定率通り輸入稅ヲ支拂フニ依リ之ヲ營口經由ノ場合ニ比較セハ二重三重ニ統稅ヲ支拂ヒタルト同一ノ結果トナリ居ルヲ以テ二重課税問題解決スルモ此ノ關係ノ匡正セラレサル限り煙草ノ營口廻りハ止マサルヘシ定率課稅ノ問題ニ付テハ日下本官ヨリ大連稅關長ノ説明ヲ求メ居レリ委細本月七日附本官發大臣宛拙信寫ニテ御承知アリタシ

E、C制度を大連へ適用する中國側修正案に  
つて張福運稅務署長と会談について

別電 九月十日發在中国重光公使より幣原外務大臣宛第八八九号

（別電）

Shanghai, Sept. 10, p.m.

Received, Sept. 10, p.m. 1931

Gaimudaijin, Tokio.

No889

<sup>(1)</sup> With reference to the issuing of Exemption Certificates for non-Chinese goods shipped from Chinese treaty ports to places in Manchuria through Dairen, I wish to

state that, without entering into the question of the interpretation of Article 9 of the Dairen Customs Agreement, if it is insisted that the granting of Exemption Certificates is a procedure in force at the treaty ports' customs and that no discrimination in matters of customs procedure between the Dairen Customs and other Chinese customs should exist, then it would follow that all the procedures and rules in force at the treaty port customs should equally apply to the Dairen Customs.

Such a view, however, has not been borne out by the attitude of the Kwantung leased territory authorities, who have been reluctant to allow the Dairen Customs to function except in strict accordance with the agreement.<sup>(2)</sup>

In order to give evidence of a spirit of co-operation and accommodation on the part of the National Government towards the Japanese Government by meeting its desires, I am ready now to authorise the granting of Exemption Certificates on goods shipped from treaty ports to places in Manchuria through Dairen. Mutually acceptable

arrangements for the adequate control by the Dairen Customs of such goods when passing through Dairen should be made between the Chinese Customs and the Kwantung authorities.

I shall appreciate if the Japassese Customs would reciprocate the same spirit by giving facilities to Dairen Customs to function effectively.

Shigemitsu

~~~~~

560 昭和6年9月10日 在中国重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

「」〇発給口へシト大連闢ノ協議カルモハ體

東長官宛通知方電報

上海 9月10日後発

本省 9月11日前着

第八九四號

本使發關東長官宛電報第三四號

本使發大臣宛電報第八八八號ニ關シ

今回ノ解決案ニ於テハ中國側ラシテ本件E、C、ノ發給ヲ

承認セシムルト共ニ大連闢ニ於テ本件再輸出貨物ニ對シ充分ノ監督ヲ行ヒ得ル様稅關ト關東廳トノ間ニ必要ノ取極ヲ

爲スベキ旨我方ヨリ諒解ヲ與ヘ居リ又貴廳ト稅關側トノ協

力ノ問題ニ付テハ本使發大臣宛電報第八六九號ニ依リ御承

知ノ通り今回ノ解決ノ條件トセサリシモ我方トシテハ右協

力ノ精神ニハ同感ナル旨ヲ言明シ居ル次第ナレハ近ク中國

側ヨリ大連闢ノ取扱振等ニ付希望ヲ申入レ來ルヘク當方ト

シテモ之カ考究ヲ爲ス必要アルニ付右ノ點ニ關シ我方及中

國側ニ於テ改善ヲ希望スル事項前記E、C、貨物ノ監督方

法ト共ニ貴見御回示煩ハシタシ

尤モ右諸問題ノ専門的事項ニ關シテハ大連闢ト貴廳トノ間

ノ交渉ニ讓ルコト致シタキ意向ナルニ付右御含ミノ上豫メ御考究置キヲ請フ

大臣ヘ轉電シ南京ヘ暗送セリ

~~~~~

別電

九月十日發在中国重光公使より幣原外務大

臣宛第八九六號

右中國側修正案文

上海 9月10日後発

上省 9月11日前着

第八九五號（大至急）

往電第八八八號ニ關シ

十日午後宋部長ニ會見打合ヲナシタル處微細ナル字句ノ修

正ヲ申出テタル外往電第八八九號及別電第八九六號ノ來往

翰ニ異存ナキ事トナリタリ右ハ非公式ニ文書ニシテ双方ノ

趣旨ヲ間違ナク表示シ置ケハ足ル次第ニモ有之時機ヲ失セ

サル爲先方ノ「ノート」ヲ右ノ儘ニテ發送スル事ニ異存ヲ

唱ヘス右ハ多分明日附ニテ發送セラル事ナルヘシ而シ

テ稅關ニ對スルEC發行ノ必要ノ命令モ精々同時ニ發送ス

ル様賴ミ置ケリ又ECヲ有セサル現在ノ滯貨ニ付テモ適當

ノ處置ヲ執ル様張ト話合濟ノ旨ヲモ附言シ置キタリ

尙前件別電第八九六號當方ノ返輸ハ右ニテ差支ナシト認ム

ルモ貴電第三四一號ノ次第モアリ特ニ發送ヲ差控ヘ居ルニ

付右ニ對シ御意見アラハ折返シ承知シ度シEC發行等ノ先

方ノ處置ハ恐ラク右當方ノ回答ヲ俟テ採ラルル事ト存セハ  
ルルニ付右御含ミノ上御返電ハ特ニ御急キヲ請フ  
本電ノミ北平、奉天、哈爾賓、安東、營口、南京、關東長  
官へ轉電シ上海へ轉報セリ

## (別 電)

Shanghai, Sept. 10th, p.m.

Received, Sept. 11th, a.m., 1931.

Gaimudaijin, Tokio.

No.896 (Very Urgent)

<sup>(1)</sup> I beg to acknowledge the receipt of your letter of the --th instant on the subject of the issuance of Exemption Certificates for non-Chinese goods shipped from Chinese treaty ports to places in Manchuria through Dairen.

As the Dairen authorities are functioning by virtue of the Agreement for its establishment, the procedure and rules applied by them should be in accordance with the provisions of that Agreement. And the authorities

of the Kwantung leased territory hold the view that goods passing through the Dairen Customs should be exempt from double taxation as goods passing through other Chinese Customs are.

<sup>(2)</sup> I have no objection to putting aside the argument

of the legal side of the question with a view to setting it in the spirit of co-operation, and I appreciate the same spirit that has prompted you to authorize the granting of Exemption Certificates for goods shipped from treaty ports to places in Manchuria through Dairen.

It would be also advisable that mutually acceptable arrangements for the adequate control by the Dairen Customs of such goods when passing through Dairen should be made between the Chinese Customs and the Kwantung authorities.

I have no doubt that the Japanese authorities are prepared to show the same spirit of co-operation on their part.

Shigemitsu

第九二〇號  
往電第八九五號ニ關シ

562 昭和6年9月13日 在中國重光公使より

幣原外務大臣宛 (電報)

## E' C發給に關し關東庁・稅關間斡旋につき報知

上海 9月13日後発

本省 9月13日後着

七

モ

## 關東廳ノ右好意ハ之迄充分海關側ニ徹底シ居ラサルハ

事實ニシテ右ハ種々ノ誤解ヲ招キタル原因ト思ハル右誤解ハ單ニ財政部内ノ民國人側ニ止マラス外國人ヲ主トル海關側ニ於テモ代々日本人タル大連稅關長ヲ通シテ之ヲ有スル現狀ナリ將來大問題ハ免ニ角小問題ニ付テハ關東廳ノ有スル好意ヲ現實ニ示シ協調ノ實ヲ擧ケテ大局ヲ救フコトニ力ムルコトニ層必要ナルヲ感スケテ大連海關ニ關シ民國側ノ持出スヘキ要求事項ハ根本的且廣汎ニ亘ラサルモノニ止マルコトニ力メタルハ今回當方ノ折衝ノ要點ナリシカ今回ノ交換文書ニ依レハ單ニE' C發行貨物ノ通過ニ關スル話合ニ止マル譯ニテ別ニ困難ナル事柄モナカルヘシ然シ將來ハ先方ヨリ種々取扱上ノ便宜ヲ希望シ來タルヘキニ付關東廳ニ於テモ

二、今回二重課税問題ノ解決ハ宋子文カ大局上ヨリ部内ノ反對ヲ押切リタル爲ニシテ内部ノ反対ハ相當強キモノアルカ如シ理窟ヨリ言ハ日本側ノ立場ハ固ヨリ當然ナルモ民國側トシテハ他ノ立場ヲ採ルモ亦無理ナラズ

海關側ニ對スル希望アラハ常ニ先方ニ知ラシメ彼此妥協ヲ試ミ相互ノ便宜ニ進ム様取計ハルコト適當ナル  
ヘク當方ニ於テハ民國側中央各方面ニ對シ右關東廳側ノ努力ニ響應スルコトトスヘシ

北平、奉天、安東、牛莊、關東長官、哈爾賓、青島、天津  
へ轉電シ上海へ轉報セリ

563 昭和6年9月28日 塚本関東長官より  
（電報）  
幣原外務大臣宛

E、C發給に関する關東厅・税関間交渉一時  
延期について

關東厅 9月28日後発  
本省 9月28日後着

貴電合第一二三七號及第一二三八號ニ關シ  
第一一八號

福本ヨリ當廳宛ニ協議ノ基礎案ハ送付シ來リタルモ時局柄  
當廳事務繁忙ニモアリ且海關側ヨリモ此際協議ヲ開始スル  
コトハ諸般ノ關係上躊躇スル趣ナルヲ以テ當廳稅關間ノ交

涉開始ハ一時延期スルコトニ申合セタルニ付右御承知置キ  
請フ  
外務大臣へ轉電シ奉天、安東、營口、北平、哈爾賓へ暗送  
セリ

セリ

564 昭和6年10月6日 币原外務大臣より  
（電報）  
在天津田尻總領事代理宛

租界内中國人の自發的營業稅納付は默認する  
も中國官憲による營業調査の拒絶方訓令

本省 10月6日後2時発

貴電第三二二號ニ關シ  
第七三號（暗）

租界内中國人ニ對スル營業稅ノ徵收ハ之ヲ承認スルノ限り  
ニアラサルモ貴地居留民團ノ財政ト租界居住華商ノ二重負  
擔問題トヲ考量シ過重ノ負擔トナラサル限り租界内中國人  
カ自發的ニ納稅スルコトハ之ヲ默認シ差支ナキ意嚮ナルニ  
付貴官ハ此上共佛、伊側ト適宜聯絡ヲ保タレ今後時局ノ推  
移如何ニ依リ貴地ノ事情已ムヲ得サルニ至リタルトキハ、  
貴信機密第八三六號第二案（ロ）ノ程度ノ金額ヲ華商組合等ヨ

リ一括任意納付方先方ヲシテ納得セシム様取計ハレ差支  
ナシ尤モ此場合ニモ中國官憲ノ營業調查ハ之ヲ拒絕シタキ  
ニ付本件調査ヲ必要トル場合ニハ華商組合ヲシテ之ニ當  
ラシムル等適當ナル方法ヲ講スルコト、致度シ  
公使、北平ニ轉電シ公使ヨリ上海ニ轉報セシメタリ  
冒頭貴電ト共ニ漢口ニ轉電セリ

565 昭和6年10月12日 在奉天林總領事より  
（電報）  
幣原外務大臣宛

兩三日來中國商より進んで營業稅納付の狀況  
について

奉天 10月12日後発  
本省 10月12日後着

第九四三號

往電第八五三號ニ關シ

566 昭和6年11月17日 塚本関東長官より  
（電報）  
幣原外務大臣宛

二重課稅問題交渉中斷にあつて抗議付き乃至  
強制的通關の外策なき旨中國公使宛電報

市政分署ニ於テハ當時徵稅ヲ開始シタルモ實際上收稅ノ實  
ヲ擧ケ得サリシ處兩三日來支那商人ヨリ進シテ營業稅ヲ納  
付スルモノ弗々現ハレタル由ニテ今回遼寧省城稅捐徵收局  
ヲ復活シ地方維持委員會ノ推薦ニ依リ元稅捐局員史○有徵○ナ

本省 11月17日後着

第一三三號

本官發支宛電報

の意向につき関東廳宛電報

奉天 11月24日後発  
本省 11月24日後着

二重課稅問題交渉中絶ノ儘ナル處遼河結冰期モ目前ニ迫リ

遠カラス大連出廻弗々現ハルル見込ナリ當業者ヨリ當廳内

意伺出テノモノモアリ此際少クトモ暫行措置ヲ決行スル要

アリ方法トシテハ根本解決迄打切りトシ一併大連關ヲシテ

二重課稅スルコトナク通關セシムルコト上策ナレトモ右困

難ナル場合ハ稅關側ノ抗議付ニテ通關セシムル力乃至ハ強

制通關ノ外ナカルヘシ就テハ至急何分ノ御交渉相煩ハシタ

ク尙既ニ申進置キノ通り實際上ノ打算ヨリ云フモ亦近頃ノ

高調セル我方輿論ヲ抑へ行ク點ヨリ云フモ打切りトシ一併

同様取扱フコト並早キニ臨テ措置方決定ノ要アリト存ス尙

福本ハ愈ノ場合ハ抗議付通關ノ肚ナルカ如シ

大臣へ轉電シ、奉天、安東、牛莊へ暗送セリ

567 昭和6年11月24日 在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛（電報）

財政厅は三統稅復活の案を定め申告にて徵稅

編注 本電報の写には文頭に左記の欄外記入あり。

綿糸以外ノ徵稅ハ條約違反ナラスヤ之ヲ認ムル要ナ  
カルヘシ

568 昭和6年11月28日 币原外務大臣より  
在奉天森島總領事代理宛（電報）

輸入綿糸以外の統稅賦課は條約違反につき阻

止方訓令

本省 11月28日前11時40分發

第三三七號（暗）

貴官發閔東長官宛電報第一六六号ニ閔シ輸入綿糸以外ノ品

種ニ對スル統稅ノ賦課力條約違反ニシテ滿紡製品ニ對スル  
統稅徵收ヲ默認スルハ我條約上ノ權利ト、在華紡績同業会

及國民政府財政廳間契約トノ關係ヲ調整セントスルニ止マ

ルモノナルコト御承知ノ通ナル處、此際貴地財政廳ニ於テ  
大連經由輸入品ニ對シ此種不當課稅ヲ復活セムトスルハ何

等特別ノ事情ニ基ク次第ナリヤ其辯諒解ニ苦ムノミナラス

將來支那側トノ各種不當課稅問題交渉ノ際ニ於ケル我方ノ

立場ニモ惡影響アルヘシ、就テハ貴官ハ前記趣旨ニ依リ可

然右阻止方ニ付御配慮アリタシ

第一三七七號

本官發關東廳宛電報

奉天 11月24日後発  
本省 11月24日後着

第一六六號

當地財政廳ニ於テハ軍部囑託ニ係ル滿鐵社員顧問ノ獻策ニ

基キ事變前遼寧省力實施セル三統稅復活ノ案ヲ定メ遼陽満

紡ノ製品ニ對シテハ大体今夏同社及財政廳間ノ取極ニ從ヒ

徵稅シ大連經由ノ輸入品ニ對シテハ若シ關東廳側ニ於テ大

連ニ於ケル徵稅ヲ許可セサルニ於テハ運搬先附屬地外ニ於

テ徵稅スルコトトシ度キ腹案ノ趣ナルカ後者ニ關シテハ事

變前支那側力多數ノ見張ヲ附屬地ノ周圍ニ設ケタルカ如キ

方法ハ面白カラサルニ付輸入者側ト紳士的取極ヲ爲シ申告

ニ依リ徵稅セントスル意嚮ナルカ如シ

大臣、公使ニ轉電シ北平、天津、遼陽、鐵嶺、牛莊、吉林、  
哈爾賓齊々哈爾ニ暗送セリ

北平、天津、遼陽、鐵嶺、牛莊、吉林、哈爾賓、齊々哈爾

ヘ暗送アリタシ

公使、閔東長官へ轉電セリ

569 昭和6年12月1日 塚本閔東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

輸入稅納付済み外國貨物に一律免稅証発給方

申し入れについて

閔東廳 12月1日後發  
本省 12月1日後着

第一五〇號

本官發支宛電報第六八號

貴電第四四號ニ關シ

去ル廿四日河相ヲシテ福本宛二重課稅ヲ受クヘキ貨物大連

ニ輻輳スル季節ニ入りタル爲關係商人ヨリ頻リニ伺出アリ

テ此儘放置シ難キ狀況ナルニ付テハ本件根本解決ハ暫ク措

キ民國通商港ヨリ大連向再輸出セラル輸入稅納付濟外國  
貨物ニ對シ一律免稅證ヲ發給スル様（貴官發大臣宛電報第  
三〇三號參照）取計ハレ度キ旨申入レシメ置キタリ委細ハ

客月廿五日郵報

上海、南京へ轉報ヲ請フ

外務大臣へ轉電シ奉天へ暗送セリ

~~~~~

570 昭和6年12月6日 在中国重光公使より

幣原外務大臣宛（電報）

国民政府側が我が方要求を拒否し来る場合の
対応につき閑東長官宛照会上 海 12月6日後発
本 省 12月6日後着

第一三八三號

本使發關東長官宛電報第四四號

貴電第六八號ニ關シ

十一月二十四日附外事課長發稅關長宛公文ニ依レハ民國側ニ於テ本使宋子文協定ニ拘束セラレス關稅統稅自主權恢復ニ立脚シ我方要求ヲ拒絕シ來ル虞アリ其場合我方ニ於テ強制通關等ノ措置ニ出ツルトセハ我方^(編注二)ノ報復手段等ノ爲相當困難ナル立場ニ觸ルルノ外條約解釋上我方ニ相當ノ弱點アリ（大連稅關設置「^(編注二)ペティ」協定ノ解釋上ノ缺點ノ外我方

困难ナル立場ニ觸ルルノ外條約解釋上我方ニ相當ノ弱點アリ（大連稅關設置「^(編注二)ペティ」協定ノ解釋上ノ缺點ノ外我方

後ノ東北四省宛貨物ニシテ二重課稅ヲ受クルコトアラハ遼寧財政廳ニ於テ右拂戻ノ責モ負フヘク本統稅署ニ於テハ東北宛貨物ニ對スル統稅拂戻ヲ廢止スヘシトアリ右遼寧財政廳ノ申出ナルモノハ張學良カ東北ニ於テ徵收不可能ナル統稅收入ヲ中央政府ヨリセシメントスル見地ニ出テタルモノノ如ク當地當業者ニ就キ尋ねタル處安東ニ於テ統稅ヲ徵シ居ラサルコト判明セルモ營口ニ於テハ徵稅ノ有無不明ニテ目下取調中ナルカ當業者側トシテハ若シ滿洲ニ於テ統稅ヲ課セラルル場合ニハ統稅署トノ協定ニ基キ統稅署ヨリ當然拂戻ヲ要求スル意図ナリト

大臣へ轉電シ公使へ轉報セリ

編注一 「我方」の次に「關係船舶及貨物ニ對スル支那側」との書き込みあり。

編注二 「ペティ」の箇所に「協定」との書き込み訂正あり。

571 昭和6年12月14日 在上海村井總領事より

犬養外務大臣宛（電報）

東北四省の捲煙綿系統稅徵稅方に関する財政

上 海 12月14日後発
本 省 12月15日前着

第九一號

貴電第七號ニ關シ

第八號

本官發關東長官宛電報

過般日本在華紡績同業會力財政部統稅署ヨリ接受セル通告ニ依レハ遼寧財政廳ヨリ東北四省ハ目下特殊狀態ニ在ルヲ以テ東北四省宛ノ捲煙綿系統稅ハ當方ニ於テ徵稅セサルニ付十一月一日ヨリ總テ統稅署ニ於テ代リテ徵稅セラレ毎月ノ稅收額ヲ送付アリタキ旨申出アリタルニ付若シ同日以

第一五六六號

英米煙草社と遼寧財政廳間の紛議につき斡旋

方英國總領事より申し越しについて

572 昭和6年12月17日 在奉天林總領事より

犬養外務大臣宛（電報）

奉 天 12月17日後発
本 省 12月17日後着

力本使宋子文協定ヲ無視シタル點ヲモ公表セラルヘシ）旁満鐵ニ於テ當方面ノ貨物取扱上多大ノ支障ヲ來スヘキヤニ存セラルニ付此ノ際先ツ貴方ニ於テ具体的便法ニ對スル稅關長提案ニ對シ（Through B. L.）ノ條件ハ大連經由奥地向再輸出外國品全部ニ對シE、Cヲ發給スヘシトノ本使宋子文協定ノ實質ヲ實行スルモノナルカ故ニ之ヲ認メ難ク右協定ノ定ムル處ニ從ヒ大連經由奥地向再輸出外國品ニ對シテハ打切貨物又ハ通貨物ノ別ナク一律ニE、Cヲ發給セラレタシ（瓦房店看視所ノ設置ハ附屬地行政權ノ關係上之ヲ認メ難シ）其他稅關長提案中合理的ノモノハ之ヲ認メ差支アルモノハ之ヲ拒絶又ハ修正シ（何レモ理由ヲ示ス）且四遼河水結期切迫ノ折柄右對案ノ如ク急速取扱方要求スル旨ノ對案ヲ提出セラレ（福本ヨリハ右電報ニテI、Gニ請訓セシメ）當方ニテI、G等ニ對シ右承認方交渉シタル上萬一民國側ニテ相當ノ期間前内ニ右不承認ノ場合前記交渉ノ經緯並ニ我方條約上ノ立場ヲ明カニシタル上強制通關其他ノ措置ニ出ツルコト適當ト存セラルルニ付右御取扱ノ上結果電報アリタシ

英國總領事ヨリ十六日附半公信ヲ以テ當地英米煙草ト財政廳間ニ於ケル統稅支拂ニ關スル紛議ニ付日本當局ニ對シ本官ノ斡旋ヲ得タキ旨申越シタル處右公信附屬ノ同社支配人ノ英國總領事宛書翰ニ依レハ當地英米煙草ノ意向ハ當地英facto authoritative office) タル財政廳ニ支拂フヲ非トシ正式ニ承認セラレタル省政府成立迄統稅ヲ英國總領事館ニ供託セントスルニアリ元來本件統稅納付ニ關シテハ昭和四年當地財政廳ト英米煙草並東亞煙草トノ間ニ夫々契約締結セラレ居リ現在東亞煙草ニ於テハ右契約通納付シ居リ且財政廳ニ邦人顧問アリト雖本件統稅問題ハ純然タル英支間ノ問題ニシテ本官ノ關與スヘキ筋合ニアラサルヲ以テ英國總

セラレ居リ現在東亞煙草ニ於テハ右契約通納付シ居リ且財政廳ニ邦人顧問アリト雖本件統稅問題ハ純然タル英支間ノ問題ニシテ本官ノ關與スヘキ筋合ニアラサルヲ以テ英國總

セラレ居リ現在東亞煙草ニ於テハ右契約通納付シ居リ且財政廳ニ邦人顧問アリト雖本件統稅問題ハ純然タル英支間ノ問題ニシテ本官ノ關與スヘキ筋合ニアラサルヲ以テ英國總

領事ニ對シテハ右趣旨ニ依リ然ルヘク應酬シ置ク所存ナリ尙本官歸朝中當地軍側ヨリ本件ニ關シ英米煙草ノ統稅納付ヲ強要スル爲財政廳ヲシテ同社ノ倉庫ヲ差押ヘシメタキ趣ヲ以テ當館ノ意見ヲ尋ネ來レルニ依リ同社製品カ支那人ノ手ニ渡レル後之ヲ差押フルコトトセハ第三國關係上問題ヲ起スノ懸念ナク結局英國側ニ於テ折レ來ルヘク前記統稅ニ關スル契約成立前ニ於テハ支那側ハ常ニ右手段ニ依リ實際的效果ヲ擧ケ來レル旨ヲ述ヘ置キタル趣ナリ

支、北平へ轉電セリ

付 綿糸統一税関係

573 昭和6年1月3日

幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛（電報）

統一税施行地域および徵收機關に關し関東長

官より照会につき查報方訓令

本省 1月3日後3時0分発

第六號（暗）

綿絲統一税交渉妥結ノ上ハ閏東州内製產ノ綿織糸モ民國輸入ノ際消費稅ヲ課セラルヽコトヽナルヘキニ付右交渉最近進捗ノ模様ハ閏東長官へ参考ノ為大要内報シ置キタル處今長官ヨリ左記ノ点照會越セリ當方ヨリ回答ノ都合アルニ付何分ノ儀折返シ御回電アリ度シ

一、滿洲及山東省ハ統一税施行地域ナリヤ（註閏東州製產綿糸ニ對スル消費稅免除ノ希望ト関係アルモノナリ）
二、統一税及消費稅ヲ徵收スル機關ハ海關ナリヤ又地方稅局ナリヤ

~~~~~

574 昭和6年1月7日

在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

綿糸統一税の施行区域は民國全体が建前なれ

ど東北、山東省は恐らく除外について

上海

1月7日後発

本省 1月7日後着

第一號

貴電第六號ニ關シ

當業者ヲシテ統稅局側に就キ確メシメタル結果左ノ通

一、綿糸統一税施行區域ハ民國全体トスル建前ニテ現ニ當業者トノ契約ノ條項ニ於テモ右ノ建前ヲ執リ居リ唯事實上施行不可能ノ地域ハ追テ統稅局ヨリ文書ニテ當業者ニ通知スルコトトナシ居ル處右除外區域ハ今尚確定セサルカ如ク滿洲及山東省ハ恐ラク除外セサルモノト認メラル分明次第電報スヘン  
二、統一税ノ徵收ハ財政部ニ設ケラル可キ統稅局及其ノ地方分局ニ依リ行ハルヘキ筈ナルカ唯輸入綿糸ニ對スル消費稅（excise）ハ右統稅局ヨリ海關ニ特派セラルヘキ徵稅官之ヲ徵收スルコトナルヘク其ノ手續ハ未タ確定セサルモ